一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XX

鳥取県鳥取市気高町

常松大谷遺跡Ⅰ

２０１５

鳥取県教育委員会

一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XX

鳥取県鳥取市気高町

常松大谷遺跡Ⅰ

２０１５

鳥取県教育委員会

一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸ

『常松大谷遺跡』　正誤表

	誤	正
例言	10　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の受託研究により行った。	10　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の指導を受けた。

序

山陰自動車道は鳥取市を起点とし、山口県美祢市を終点とする、延長380キロメートルの自動車専用道路であり、国土交通省により整備が進められているところです。

鳥取県内の事業区間である「鳥取西道路」は、鳥取市本高から同市青谷町青谷を結ぶ延長19.3キロメートルの区間であり、その改築事業に伴う事前の発掘調査を平成20年度から当教育委員会が実施しています。平成21年度からは、発掘調査の迅速化を図るため、財団法人鳥取県教育文化財団（平成25年度から公益財団法人に移行）に現地での発掘調査や出土遺物等の整理作業、報告書作成を委託して調査を進めているところです。

今回発掘調査した常松大谷遺跡（１－１区）では、古代や中世の掘立柱建物や弥生時代の水田跡を検出し、当地の歴史を物語る重要な資料を確認することができました。本書は、このたびの発掘調査成果をまとめたものであり、この地域の歴史を解明する一助として活用されることを期待するものです。

本書をまとめるにあたり、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所並びに地元関係者の皆様をはじめ、多くの方々に多大なる御助言、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成27年12月

鳥取県教育委員会

教育長　山本　仁志

例　言

1　本書は、一般国道９号（鳥取西道路）改築工事に伴い、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所から委託を受け、平成 25 年度に実施した常松大谷遺跡（１－１区）の発掘調査報告書である。

2　常松大谷遺跡（１－１区）は、鳥取市気高町常松字大谷 134-1、135、136、137、140 に所在する。調査面積は 707㎡である。現地調査は、平成 25 年４月４日から同年 11 月 29 日まで行い、調査記録と出土遺物の整理作業、報告書の作成は、平成 27 年９月まで行った。

3　本調査の略号は「常松大谷遺跡 13（１－１区）」である。出土品等の注記には「ツネ大 13」の略号を用いた。

4　発掘調査の監理については、公益財団法人鳥取県教育文化財団（以下財団）に委託した。

5　発掘調査に際し、埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（常松大谷遺跡・常松菅田遺跡）島田組・アイコンヤマト共同企業体の支援を受けた。遺跡での掘削作業、記録作成と測量作業は、財団の指示のもと、共同企業体が実施した。

6　調査で作成した図面の再編集、出土遺物の整理作業や記録作成は財団に委託し、同財団の文化財主事と整理作業員が行った。

7　遺物の写真撮影は、財団調査企画設計係長 玉木秀幸が行った。

8　本書の執筆は財団副主幹 佐伯博光、同文化財主事 水村直人、同文化財主事 西山昌孝、同文化財主事 片岡啓介が分担して行い、文末に文責を記した。編集は西山が行った。

9　本調査に係る図面、写真等の記録類や出土遺物は、全て台帳等に登録して収納しており、随時検索できる状態で鳥取県埋蔵文化財センターで保管している。

10　出土した墨書土器の釈読は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の受託調査研究により行った。

　墨書土器の釈読にあたっては渡邉晃宏、馬場　基、山本　崇、桑田訓也、山本祥隆、吉岡直人、中村一郎の諸氏に御指導、御助言いただいた。

11　現地調査及び報告書の作成にあたっては、下記の方々、機関から、様々な御指導、御助言、御支援をいただいた。記して感謝申し上げます（敬称略、五十音順）。

　大平　茂（三木市立金物資料館）、公益財団法人大阪府文化財センター、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所、常松地区自治会、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

凡　例

1　本書に記載された測量成果については、世界測地系に基づいている。図中のＸ・Ｙ座標は国土座標第Ⅴ系によるものであり、m単位で表記している。また、平面図の方位は座標北を示している。

2　標高は海抜標高で示した。

3　本報告書に使用した地図は、国土地理院発行（1/25,000、1/200,000 地形図）を縮小、加筆して使用した。また第２図に使用した地図は、測量法第 43 条に基づく複製承認を得て、鳥取市都市計画図を複製したものである（承認番号平成 27 年６月 15 日付け鳥取市指令受都都第 63 号）。

4　本遺跡の土層に示した土色は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定したものである。地層観察用アゼの観察面はシートで被覆する等して、湿った状態を保つように留意した。また、地層の粒度の記載に関しては、地質学で標準的に用いられる Wentworth の区分を使用した。同一地層内に粒度が幅をもって認められるときには、より主体を占める粒径を先にして、「シルト～粗砂」、「極粗砂～細砂」のように記載した。

5　遺構番号、遺構名の設定の仕方については第１章第２節で詳述した。

6　遺構平面図や断面図の縮尺は統一していないが、挿図ごとにスケールバーと縮尺を示した。

7　遺物実測図の縮尺については、土器・陶磁器を 1/4、1/8、土製品を 1/2、１/3、石器を１/1、１/3、木製品を 1/4、1/5、1/8、１/15 で示した。

8　遺物実測図の断面は、■：須恵器、■：瓦質土器とし、それ以外のものは白抜きで示した。

9　遺物観察表中の法量にある△は残存値を、※は復元値を表す。

目　次

序・例言・凡例・巻頭写真図版
第１章　調査の経緯
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　調査の方法と経過……2
第３節　調査体制……5
第２章　位置と環境
第１節　位置と地理的環境……7
第２節　歴史的環境……8
第３章　１－１区の調査
第１節　調査区の概要……13
第２節　基本層序……13
第３節　検出した遺構と出土遺物
第１項　１面……21
第２項　２面……22
第３項　３面……24
第４項　４面……25
第５項　５面……26
第６項　６面……30
第７項　９面……32
第８項　10面……37
第９項　11面……42
第10項　14面……44
第11項　15面……45
第12項　16面……49
第13項　17面……61
第14項　18面……64
第15項　23a面……69
第16項　23b面……72
第４節　包含層出土遺物
（１）土　器……76
（２）石　器……90
（３）木　器……90
第５節　まとめ……94
遺物観察表（土器・石器・木器）……95
報告書抄録

挿図一覧

第1図　鳥取西道路予定地と調査地の位置
第2図　調査地位置図
第3図　地区割（グリッド）概念図
第4図　調査地地区割図
第5図　鳥取県と遺跡の所在地
第6図　遺跡周辺の地形環境
第7図　周辺の遺跡
第8図　北東壁土層断面図（1）
第9図　北東壁土層断面図（2）
第10図　南壁土層断面図（1）
第11図　南壁土層断面図（2）
第12図　中央トレンチ土層断面図（1）
第13図　中央トレンチ土層断面図（2）
第14図　1面遺構配置図
第15図　2面遺構配置図
第16図　3面遺構配置図
第17図　4面遺構配置図
第18図　5面遺構配置図
第19図　4溝平面図・断面図
第20図　5面耕作段差断面図
第21図　5・6溝平面図・断面図
第22図　6面遺構配置図
第23図　28溝平面図・断面図
第24図　19～25溝平面図・断面図
第25図　9面遺構配置図
第26図　掘立柱建物1平面図・断面図
第27図　35・36溝平面図・断面図
第28図　37土坑平面図・断面図
第29図　66土坑平面図・断面図
第30図　37・66土坑出土遺物
第31図　10面遺構配置図
第32図　掘立柱建物2平面図・断面図
第33図　10面ピット群
第34図　250ピット平面図・断面図
第35図　250ピット出土遺物
第36図　10面その他のピット平面図・断面図
第37図　11面遺構配置図
第38図　杭列1・2・3平面図・断面図
第39図　14面遺構配置図
第40図　15面遺構配置図
第41図　143溝・15面ピット群
第42図　143溝断面図
第43図　143溝出土遺物
第44図　15面その他のピット平面図・断面図
第45図　16面遺構配置図
第46図　201・210・212柱穴出土遺物
第47図　掘立柱建物3平面図・断面図
第48図　256流路・257溝平面図・断面図
第49図　256流路・257溝・破堤堆積出土遺物（1）
第50図　256流路・257溝・破堤堆積出土遺物（2）
第51図　256流路・257溝・破堤堆積出土遺物（3）
第52図　256流路・257溝・破堤堆積出土遺物（4）
第53図　16面ピット群
第54図　16面その他のピット平面図・断面図
第55図　17面遺構配置図
第56図　17面ピット群
第57図　197土坑平面図・断面図
第58図　17面その他のピット平面図・断面図
第59図　18面遺構配置図
第60図　竪穴建物1平面図・断面図

第 61 図　226 溝出土遺物
第 62 図　竪穴建物 2 平面図・断面図
第 63 図　217 土坑平面図・断面図
第 64 図　217 土坑出土遺物
第 65 図　杭列 4 ・ 5 平面図・断面図
第 66 図　18 面ピット群
第 67 図　18 面その他のピット平面図・断面図
第 68 図　23a 面遺構配置図
第 69 図　耕作土内出土遺物
第 70 図　241 溝平面図・断面図
第 71 図　241 溝出土遺物
第 72 図　23b 面遺構配置図
第 73 図　242 溝平面図・断面図
第 74 図　242 溝出土遺物
第 75 図　243 土坑平面図・断面図
第 76 図　木製構造物平面図・断面図
第 77 図　木製構造物
第 78 図　23b 面遺物出土状況図
第 79 図　23b 面出土遺物
第 80 図　1a 層、4a 層、5a 層、6a・7a・8a 層出土土器
第 81 図　9a 層出土土器
第 82 図　10a 層、11a 層、12a・13a 層出土土器
第 83 図　14a 層出土土器（1）
第 84 図　14a 層出土土器（2）
第 85 図　14a 層出土土器（3）
第 86 図　15a 層出土土器
第 87 図　16a 層出土土器
第 88 図　17a 層出土土器（1）
第 89 図　17a 層出土土器（2）
第 90 図　18a 層出土土器（1）
第 91 図　18a 層出土土器（2）
第 92 図　16a ～ 18a 層出土土器
第 93 図　19a 層出土土器
第 94 図　20b 層出土土器（1）
第 95 図　20b 層出土土器（2）
第 96 図　包含層出土石器・木器

文中写真一覧

写真 1　破堤堆積検出状況

挿表一覧

土器観察表（1）
土器観察表（2）
土器観察表（3）
土器観察表（4）
土器観察表（5）
土器観察表（6）
土器観察表（7）
土器観察表（8）
土器観察表（9）
石器観察表
木器観察表

図版一覧

図版 1　1 面・2 面

図版 2　3 面（1）

図版 3　3 面（2）・4 面・5 面

図版 4　6 面

図版 5　9 面（1）

図版 6　9 面（2）

図版 7　10 面（1）

図版 8　10 面（2）

図版 9　10 面（3）

図版 10　11 面・14 面（1）

図版 11　14 面（2）・15 面（1）

図版 12　15 面（2）

図版 13　15 面（3）

図版 14　16 面（1）

図版 15　16 面（2）

図版 16　16 面（3）

図版 17　16 面（4）

図版 18　17 面・18 面（1）

図版 19　18 面（2）

図版 20　18 面（3）

図版 21　23a 面（1）

図版 22　23a 面（2）

図版 23　23a 面（3）・23b 面（1）

図版 24　23b 面（2）・完掘状況

図版 25　9 面出土遺物

図版 26　15 面出土遺物（1）

図版 27　15 面出土遺物（2）

図版 28　15 面出土遺物（3）

図版 29　15 面出土遺物（4）

図版 30　15 面出土遺物（5）・18 面出土遺物

図版 31　23a 面出土遺物

図版 32　23b 面出土遺物

図版 33　包含層出土遺物（1）

図版 34　包含層出土遺物（2）

図版 35　包含層出土遺物（3）

図版 36　包含層出土遺物（4）

図版 37　包含層出土遺物（5）

図版 38　包含層出土遺物（6）

図版 39　包含層出土遺物（7）

図版 40　包含層出土遺物（8）

図版 41　包含層出土遺物（9）・石器・木器

第１章　調査の経緯

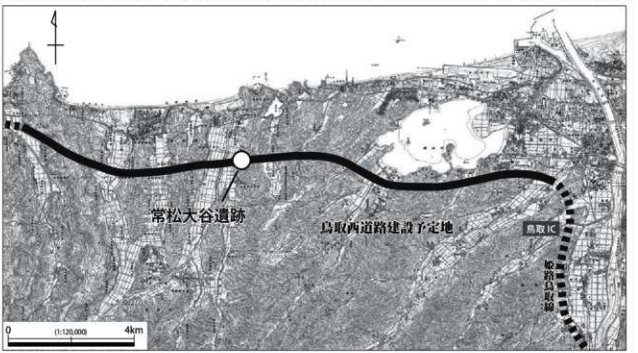
第１節　調査に至る経緯

鳥取県教育員会では、一般国道（鳥取西道路）改築工事に伴い、鳥取市常松字大谷に所在する常松大谷遺跡の発掘調査を平成 25 年度から平成 26 年度にかけて実施した。

山陰地方では、産業経済の発展や観光振興、交通渋滞の解消と緩和、災害時の緊急輸送路の確保を目的として、山陰自動車道等の国土開発幹線道路の整備が進められている。鳥取市本高と鳥取市青谷町青谷を結ぶ全長 19.3km の区間の鳥取西道路の整備もその一環であり、山陰自動車道の一部となる事業である。

鳥取西道路の計画地内には、数多くの遺跡が所在している。道路建設工事に先立って国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所（以下国土交通省）、鳥取県、鳥取市により埋蔵文化財の取扱いについて協議がもたれ、まず、計画地内に存在する埋蔵文化財の状況を把握する必要性が確認された。これを受け、平成 17 年度からは計画地内の踏査（分布調査）や鳥取市教育委員会による試掘調査が進められ、調査結果に基づき道路事業と埋蔵文化財保護との調整が図られている。文化財保護法第 94 条による手続きを踏まえ、記録保存のための発掘調査が必要である場合には、国土交通省の委託を受け、鳥取県教育委員会、または鳥取市教育委員会が調査を実施した。

常松大谷遺跡（第１・２図）が位置する常松地区の道路計画地内では、平成 24 年度に鳥取市教育委員会が試掘調査を行い、弥生時代から中世にかけての遺構、遺物が確認された。この結果を受けて、計画地内の埋蔵文化財の取扱いについて国土交通省、鳥取県、鳥取市で協議した結果、道路建設工事に掛かる 1,505m^2 を対象として記録保存のための発掘調査が行われることになり、鳥取県教育委員会



第１図　鳥取西道路予定地と調査地の位置

が国土交通省の委託を受けて、平成25年度に707m²（1－1区）、平成26年度に800m²（1－2区）の発掘調査を実施した。本書で報告するのは、平成25年度に実施した1－1区の発掘調査成果である。

1－1区の発掘調査に当たっては、現場発掘作業、出土遺物の整理及び報告書の作成を公益財団法人鳥取県教育文化財団（以下財団）に再委託した。また発掘作業、調査記録作業等については、島田組・アイコンヤマト共同企業体に発掘調査支援を委託した。

第２節　調査の方法と経過

第１項　調査の方法

１　調査地の地区割

（１）地区割の方法と名称（第３・４図）

鳥取県教育委員会が財団に委託した鳥取西道路関連の発掘調査では、調査成果の標準化を目的として、遺跡や遺構の位置表示や遺物の取上げ等に利用する地区割に、平面直角座標系の第Ⅴ系（世界測地系）を使用している。地区割については、10m × 10m（100m²）の区画を基本的な最小単位とし、その名称（記号）については、以下のように設定した。

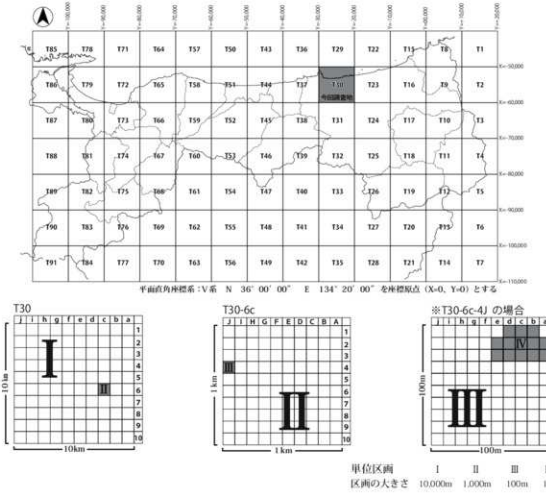
第Ⅰ区画　鳥取県の全域に設定した大区画である。10,000m × 10,000m で、１～91の区画を設け、北東隅からＴ１～Ｔ91の記号を付した。

第Ⅱ区画　第Ⅰ区画の１区画内を、1,000m × 1,000m に100分割した区画である。第Ⅱ区画については、１区画の南北軸に１～10、東西軸にａ～ｊを付し、1a ～ 10j の記号を付した。

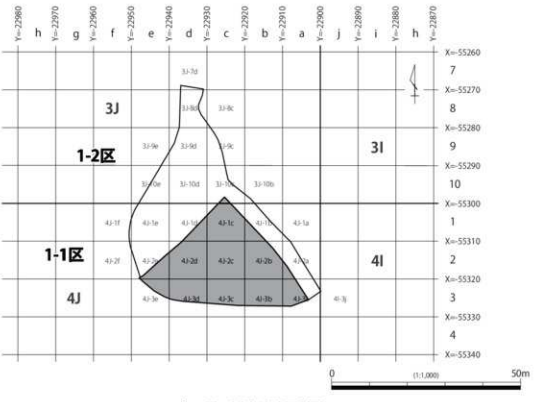
第Ⅲ区画　第Ⅱ区画の１区画内を、100m × 100m に100分割した区画である。第Ⅲ区画については、１区画の南北軸に１～10、東西軸にＡ～Ｊを付し、１Ａ～10Ｊの記号を付した。

第Ⅳ区画　第Ⅲ区画の１区画内を、10m × 10m に100分割した区画である。第Ⅳ区画については、１区画の南北軸に１～10、東西軸にａ～ｊを付し、1a ～ 10j の記号を付した。

第２図　調査地位置図



第３図　地区割（グリッド）概念図



第４図　調査地地区割図

（２）常松大谷遺跡における地区割

常松大谷遺跡の発掘調査は、平成 25 年度に１－１区で、平成 26 年度に１－２区が設定されている。本年度調査の範囲は T30（第Ⅰ区画）－ 6c（第Ⅱ区画）－ 4J（第Ⅲ区画）内に位置しており、文中で遺構・遺物の位置について地区割を用いる際には、第Ⅰ区画・第Ⅱ区画の記号を省略し、第Ⅲ区画・第Ⅳ区画のみの記載とした。

２　発掘調査と記録の対象

（１）遺構名称の設定

遺構の名称については、検出順に遺構番号を付与し、その性格が分かるものについては遺構番号の後に遺構の種別を組み合わせ、「１土坑、２溝」のように記載した。

遺構の種別は、個別遺構に溝・土坑・柱穴・ピット、集合遺構に掘立柱建物・竪穴建物・段状遺構・杭列を使用した。柱穴とピットの区別については、建物の構造に関するものを柱穴、その他をピットとした。また、遺跡の形成履歴の理解に必要な場合には、遺構ではないが「谷」という名称を用いた。

（２）図面記録及び写真撮影

遺跡全体の平面図はトータルステーションを用いた測量と写真計測により作図し、土層断面図や個別の遺構平面図・断面図は、トータルステーションを用いた測量と簡易的な写真測量により作図した。

図面は、現地での一次記録である「素図」とこれを整理・統合しデジタル化した「編集図」を作成した。編集図は、主にベクトルデータで構成され、イラストレーター CS4 以上での再編集が可能な形で保存（ai 形式）している。なお、各図面には通し番号を付し、登録台帳を作成して管理した。

調査地全体の写真撮影については、遺跡の立地や景観、周辺地形との関係を表現するために俯瞰で撮影する場合には、ラジコンヘリコプター、または高所作業車を使用した。

撮影にあたっては、中型（６×７判）一眼レフカメラと小型（35mm 判）一眼レフカメラを対象によって適宜選択した。また全ての写真撮影において、デジタル一眼レフカメラ（センサーサイズ APS-C 以上、有効画素数 1200 万画素以上）による撮影を行い、RAW・JPG 両形式で保存している。また、中判・小型一眼レフカメラに使用したフィルムは、富士フィルム社 プロビア 100F（リバーサル）、富士フィルム社 ネオパン 100ACROS（黒白フィルム）である。

なおデジタル一眼レフカメラによる撮影にあたっては、撮影対象や日付等の撮影記録を記載した「写真ラベル」も合わせて撮影し、写真の管理に活用している。

（３）出土遺物の取上げ

遺物の取上げは、上記（本節第１項）の地区割に基づき行い、遺物取上カード及び遺物台帳に当該地区名を記入した。取上番号は、取上順に通し番号を付した。

（４）出土遺物の整理と記録

出土遺物については、現地での取上げ後、財団事務所に持ち帰って、以下のような整理作業を行った。

土器・土製品　洗浄、接合、注記（マーキング）、復元を行い、器種、形状が判明ないし復元できる個体のうちから実測の対象を抽出した。

石器　洗浄、接合、注記（マーキング）を行い、器種や用途が判明できるものの他、使用痕が明瞭な個体のうちから実測の対象を抽出した。

木製品　洗浄を行い、器種や用途が推定できる資料のうち遺存状況が良好なもの、または特徴的な加工が施されているもののうちから実測の対象を抽出した。

金属製品　近世以降と判断されるものを除き実測を行った。

写真撮影　以上の出土遺物を対象に、デジタル一眼レフカメラ（センサーサイズ フルサイズ）で撮影を行った。

保管　図面、写真の記録類、出土遺物は全て台帳に登録して収納作業を行った。

第2項　調査の経過

調査は、4月4日から開始し、4月22日に隣接地で併行して調査を実施している常松菅田遺跡と同時にラジコンヘリコプターによる調査前の航空写真撮影を実施、4月23日に基準点設置等の事前の測量作業を実施した。これらの作業と併行して、下層の状況を把握するためのボーリング調査を実施し、5月17日に調査前の地形測量作業を行った。

5月24日から重機による表土掘削を開始した。掘削は東側の谷奥側から順次西側の谷口側へ進めた。整地土である表土の直下で、弥生時代から古代の遺物が多く出土したことから、造成によって遺物包含層、遺構面が削平を受けていることが予見された。

人力掘削は6月6日から開始した。最初に谷の縦断方向の地層を確認、記録するための土層観察用アゼを調査区北東側と南側壁面に2本設定し、これに則してトレンチを掘り下げ、基本層序を把握、下層確認に努めた。表土下に堆積していた近世・現代の客土を掘り下げ、7月2日に1層上面の全景を撮影した。以降下層の各検出面において遺構の検出、掘削、記録作業を行って調査を進め、11月22日に水田遺構を検出した23a面の全景写真を撮影し11月29日に現地調査を終了した。　（佐伯）

第3節　調査体制

平成25年度

鳥取県教育委員会

教育長	横濵　純一

鳥取県教育委員会事務局文化財課

課長	上山　憲二
課長補佐	土山　和俊
歴史遺産室長	北浦　弘人
文化財主事	岡野　雅則

公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	井上　善弘
事務局長	石本　富正
事務職員	岡田　美津子

調査室

室長	松井　潔（※1）
次長兼総務企画課長	中川　眞一
総務係長	川村　悟（※1）
主事	福島　亘（※1）
事務職員	福田　早由里
	植木　智子（兼事務局事務職員）
調査企画設計係長	玉木　秀幸（※1）
文化財主事	横山　聖（※1）（平成25年6月30日まで）
文化財主事	片岡　啓介（※1）（平成25年6月1日から）

第2工区担当

主幹	野口　良也（※1）

副主幹	佐伯	博光（※２）
文化財主事	水村	直人（※１）
文化財主事	西山	昌孝（※１）

平成 25 年度発掘調査支援業者

島田組・アイコンヤマト共同企業体		
現場代理人	中川	健二
副現場代理人	中尾	君則
支援調査員	島田	裕弘
	藤本	信幸
	國分	篤志
調査補助員	結城	香
	山本	宗昭
	大塚	一彦
	神谷	史仁
	野坂	孝史
	小泉	健
	西本	成希
	木下	満代
	田中	武雄
測量士	平井	利尚

平成 26 年度

鳥取県教育委員会

教育長	山本	仁志

鳥取県教育委員会事務局文化財課

課長	木本	美喜
課長補佐	土山	和俊
歴史遺産室長	松井	潔
文化財主事兼係長	野口	良也
文化財主事	岡野	雅則

公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	井上	善弘（平成 26 年 6 月 30 日まで）
	野村	勇二（平成 26 年 7 月 1 日から）
事務局長	石本	富正
副主幹	岡田	美津子

調査室

室長	北浦	弘人（※１）
次長兼総務企画課長	中川	眞一（平成 26 年 4 月 30 日まで）
	民木	一美（平成 26 年 5 月 1 日から）
総務係長	川村	悟（※１）
主事	福島	亘（※１）
事務職員	田中	絵里子
		（兼事務局事務職員）
調査企画設計係長	玉木	秀幸（※１）
文化財主事	淺井	達也（※１）

第２工区担当

主幹	西川	徹（※１）
副主幹	駒井	正明（※２）
文化財主事	水村	直人（※１）
文化財主事	西山	昌孝（※１）
文化財主事	森本	のぞみ（※１）

平成 27 年度

鳥取県教育委員会

教育長	山本	仁志

鳥取県教育委員会事務局文化財課

課長	木本	美喜
課長補佐	土山	和俊
歴史遺産室長	松井	潔
文化財主事兼係長	野口	良也
文化財主事	北	浩明

公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	野村	勇二
事務局長	石本	富正（平成 27 年 6 月 30 日まで）
	畑中	弘子（平成 27 年 7 月 1 日から）
副主幹	岡田	美津子

調査室

室長	北浦	弘人（※１）
次長	民木	一美
総務係長	川村	悟（※１）
主事	西村	あかね（※１）
事務職員	田中	絵里子
		（兼事務局事務職員）
調査企画設計係長	玉木	秀幸（※１）
文化財主事	淺井	達也（※１）
副主幹	駒井	正明（※２）
文化財主事	西山	昌孝（※１）

※１　鳥取県教育委員会から派遣

※２　公益財団法人大阪府文化財センターから出向

第２章　位置と環境

第１節　位置と地理的環境

常松大谷遺跡は鳥取県鳥取市気高町常松字大谷に所在する。鳥取県は中国地方北東部に位置しており、東西約 100km、南北約 40km と東西に長い形をしている。鳥取市は鳥取県東部にあり、東は岩美郡、南は八頭郡、西は東伯郡と接し、北は日本海に臨む。

本遺跡が所在する気高町は鳥取市の西部に位置し、西は古代因幡国最西端の青谷町、南は中国山地の支脈にある鷲峰山（標高約 920.6m）を擁する鹿野町に接する。気高町域周辺は、中国山地から派生する丘陵によって西から逢坂谷、勝谷、瑞穂・宝木谷が形成されている。それらの谷は、鷲峰山に水源を発する河内川により古くから浸食されてきた。河内川は氷河時代には逢坂谷を流れていたが、時代と共に流れを変えて現在は瑞穂・宝木谷を通り海へ流入している。

本遺跡はこの河内川東岸に延びる丘陵裾の小開析谷に立地しており、周辺には水田地が広がる。

第５図　鳥取県と遺跡の所在地

第２節　歴史的環境

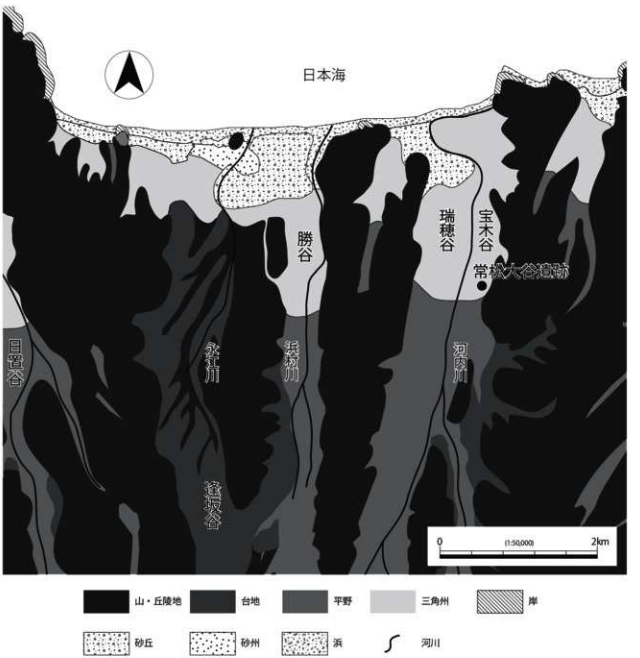
【旧石器・縄文時代】

気高町西部、日本海に臨む八束水の砂丘地で黒曜石やチャート製の有舌尖頭器が出土しており、気高町域では最古の遺物となっている。

縄文時代では、鹿野町の柄杓目遺跡（141）で早期の押型文土器、青谷町の蔵内上長谷第２遺跡（17）で前期の縄文土器が見つかっている。

中期の出土遺物としては浜村砂丘の短尾遺跡（52）で出土した当該期の土器等が挙げられる。

後期においては気高町山宮茶山畑遺跡（36）で刻目凸帯文土器が確認されている。



第６図　遺跡周辺の地形環境

晩期では気高町の山宮笹尾遺跡（35）で落とし穴や炉跡等の遺構を検出しており、遺物として当該期の土器片、黒曜石やサヌカイト製の石鏃、蛇紋岩製の首飾り等が出土している。青谷町大坪イカウ松遺跡（7）、大坪大縄手遺跡（8）においても土器等が出土している。

その他、鹿野町の寺内廃寺（72）で石鏃・石斧・磨石、気高町の浜村砂丘で石鏃や石匙等、高江・奥沢見で打製石器、下光元・宝木高浜で磨製石器、殿で凹石が見つかっている。

【弥生時代】

弥生時代においては、中期の遺跡として気高町の上原遺跡（41）で木棺墓を、三王尻遺跡（33）では竪穴建物、土坑を検出しており、両遺跡で当該期の土器が出土している。

中期から後期にかけては上原南遺跡（42）で竪穴建物、方形周溝墓、土坑墓、貯蔵穴を検出し、石庖丁・石鏃・石錘・勾玉等の石器の他、土錘等も出土している。会下・郡家遺跡（27）では、五角形を呈する竪穴建物を検出している。青谷町大口第1・第2・第3遺跡（11）では後期から古墳時代にかけての竪穴建物や土坑墓、多数の貯蔵穴、墳墓等が検出されている。カマヤ遺跡（14）では、後期から奈良時代にかけての竪穴建物や古墳等が検出されている。

遺物の出土例として、気高町の短尾遺跡で土器や石斧・石錘・石庖丁・石鏃・磨製石剣等の石器、奥沢見でも土器、石斧・石錘・石鏃、宝木高浜や宿で土器、下光元で石庖丁が報告されている。

【古墳時代】

気高町とその周辺地域で450基を超える古墳が確認されており、それらは丘陵裾部や尾根上に多く分布している。

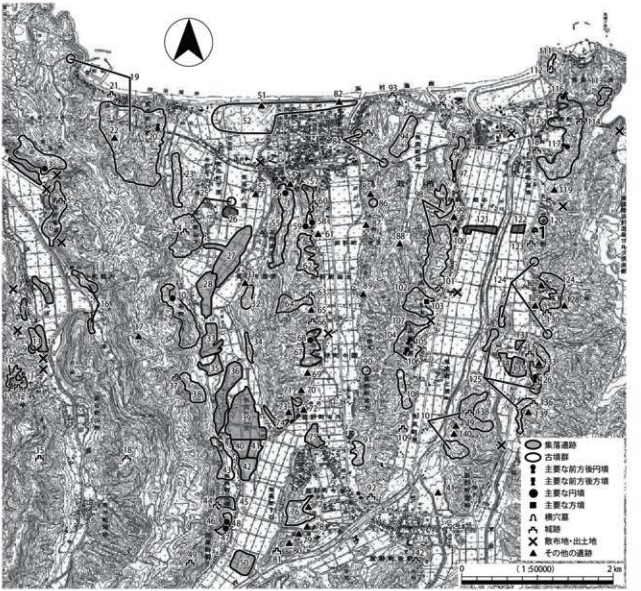
前期の古墳として気高町では二本木7号墳（103）が調査され、長方形を呈する方墳を検出している。青谷町においては大口古墳群（10）等が挙げられる。

中期になると古墳の数は増加し、勝見谷や宝木谷の丘陵上を中心に築かれる。この時期の遺跡として気高町勝見15号墳（58）・17号墳（59）が知られており、県中部の古墳で多用された特徴的な「V」字状石枕を伴う箱式石棺を検出している。大型の古墳としては、気高町内最大の前方後方墳である西山1号墳(97)がまず挙げられる。下坂本集落の北側尾根部を最大限利用して造られ、全長47mを測る。その他、八束水7号墳（20）、重高4号墳（105）・5号墳（106）、宝木1号墳（116）・16号墳（117）、上光10号墳（126）等の前方後円墳がある。

後期は主に平野部に面した丘陵の尾根部に群集墳が形成される。気高町の逢坂谷の山麓山裾に形成された古墳群は横穴式石室を有する古墳群で、そのうちの谷奥1号墳（56）では、須恵器や銅鏡・金環・直刀の装具、銅鋺、馬鐸等多彩な副葬品が出土している。気高町睦逢11号墳（30）、殿15号墳（47）・25号墳（48）、鹿野町西中園8号墳（68）、青谷町阿古山22号墳（3）等の古墳では線刻壁画が検出されている。重高古墳群中の漆谷横穴（107）は家形を呈する古い形態のものである。

【古代】

律令体制下の気高町域は因幡国気多郡に属し、『和名抄』によると、気多郡は大原、坂本、口沼、勝見、大坂、日置、勝部の7郷で構成される。気多郡には、平城京から日本海沿岸を通り石見国府へ続く官道である「山陰道」が走り、人・モノ・情報の流通の要所となった。



1 常松大谷遺跡　2 阿古山古墳群　3 阿古山22号墳　4 青谷横木遺跡　5 養郷小丸山城跡　6 養郷古墳群　7 大坪イカウ松遺跡　8 大坪大縄手遺跡　9 大坪岸ノ上遺跡　10 大口古墳群　11 大口第1～3遺跡　12 早牛山城跡　13 早牛古墳群　14 カマヤ遺跡　15 山根式田城跡　16 蔵内古墳群　17 蔵内上長谷第2遺跡　18 河原鼻座城跡　19 八束水古墳群　20 八束水7号墳　21 姫路城跡　22 姫路所在遺跡　23 下原古墳群　24 会下城跡　25 会下古墳群　26 会下遺跡　27 会下・郡家遺跡　28 睦逢遺跡　29 睦逢古墳群　30 睦逢11号墳　31 郡家遺跡　32 郡家古墳群　33 三王尻遺跡　34 山宮古墳群　35 山宮笹尾遺跡　36 山宮茶山畑遺跡　37 穐尾棚跡　38 山宮古墳群　39 山宮阿弥陀森遺跡　40 上原西遺跡　41 上原遺跡　42 上原南遺跡　43 上原古墳群　44 飯山城跡　45 飯里古墳群　46 殿古墳群　47 殿15号墳　48 殿25号墳　49 風情城跡　50 殿遺跡　51 北短尾遺跡　52 短尾遺跡　53 八幡第2遺跡　54 谷奥所在遺跡　55 谷奥古墳群　56 谷奥1号墳　57 勝見古墳群　58 勝見15号墳　59 勝見17号墳　60 勝山城跡　61 乙亥正屋敷廻遺跡　62 重山古墳群　63 勝山城跡　64 岡木古墳群　65 木梨遺跡　66 観音山城跡　67 西中国古墳群　68 西中国8号墳　69 中国遺跡　70 宮片宮谷遺跡　71 寺内古墳群　72 寺内廃寺　73 亀井銚矩之墓　74 田仲古墳群　75 寺内京南遺跡　76 馬池古墳群　77 今市馬池所在遺物出土地1　78 今市馬池所在遺物出土地2　79 今市所在中世墓　80 譲伝寺庭園跡　81 下石城跡　82 西浜遺跡　83 浜村城跡　84 浜村古墳群　85 梶掛遺跡　86 梶掛古墳群　87 乙亥正大角遺跡　88 日光長谷遺跡　89 岡井谷所在中世墓　90 宮方遺跡　91 神越谷古墳群　92 今市地才山所在城跡　93 郷ヶ脇城跡　94 日光古墳群　95 矢口陣屋跡　96 西山古墳群　97 西山1号墳　98 下坂本古墳群　99 下坂本遺跡　100 下坂本岩谷遺跡　101 下坂本城跡　102 二本木古墳群　103 二本木7号墳　104 重高古墳群　105 重高4号墳　106 重高5号墳　107 漆谷横穴　108 土居古墳群　109 丸山城跡　110 宿古墳群　111 酒津古墳群　112 凄山砦跡　113 水尻横穴墓群　114 不明（城跡）　115 宝木古墳群　116 宝木1号墳　117 宝木16号墳　118 富古城跡　119 常松第1遺跡　120 常松1号墳　121 下坂本清谷遺跡　122 常松管田遺跡　123 堤知光城跡　124 下光元古墳群　125 上光古墳群　126 上光10号墳　127 夏ヶ谷遺跡　128 下光元第1遺跡　129 下光元第2遺跡　130 大杉城跡　131 狭間遺跡　132 弥平衛山城跡　133 上光第1遺跡　134 戸島遺跡　135 馬場遺跡　136 上垣城跡　137 灰谷遺跡　138 駒ヶ坪城跡　139 宿第1遺跡　140 宿第2遺跡　141 柄杓目遺跡　142 鹿野城跡

第７図　周辺の遺跡

平成25年度に調査が行われた青谷町の青谷横木遺跡（4）では山陰道と考えられる道路遺構が検出された。遺物として「因幡国気多郡日置郷」が登場する初めての木簡や出挙の返納に関する木簡、また人形・馬形・斎串等大量の木製祭祀具が出土した。律令体制下の官道、また地方行政や祭祀に関して解明するための重要な遺跡であることが分かる。青谷町では他に大坪イカウ松遺跡で人形・馬形・斎串等の大量木製祭祀具が、カマヤ遺跡から土馬が出土している。

逢坂谷中央の段丘上に位置する上原遺跡では、大型の掘立柱建物が検出されている。その配置が官衙跡における配置と共通性を持つことから、上原遺跡は当地域の政治的中心地である気多郡衙に比定されている。出土遺物は「郡」・「大領」等と墨書された須恵器の他、転用硯、籾圧口、多くの瓦類等がある。瓦は気多郡の郡寺と推定される、鹿野町寺内廃寺と同笵の瓦が出土している。上原遺跡の北に位置する山宮阿弥陀森遺跡（39）では約1町半四方の溝状遺構が検出され、その付近の土坑から「郡家一」・「中」・「智」等の墨書土器が出土している。また鍛冶工房跡も検出され、上原西遺跡（40）で見つかった高床倉庫と並んで郡衙に関わる人々の居住区と考えられ、逢坂谷中央に古代律令制度を解明するための貴重な遺跡が集中していることが分かる。また、宝木谷奥部の戸島遺跡（134）では掘立柱建物や柵列等が検出されている。馬場遺跡（135）からは奈良時代から平安時代に亘る大型の掘立柱建物群や総柱礎石建物等が検出され、「馬」と書かれた墨書土器が出土している。両遺跡共に、郡に関係する機関を持っていた遺跡として注目されている。

【中世・近世】

鎌倉時代の調査例としては気高町会下・郡家遺跡で掘立柱建物が検出され、中国産、朝鮮産の陶磁器類等が出土している。

戦国時代には気高町域の峠等に20を超える山城が築かれ、それらには堀切、曲輪等の遺構が残る。代表例として勝山城跡（60）等が挙げられる。その他、中世の遺構として気高町上原南遺跡や馬場遺跡で掘立柱建物、北短尾遺跡（51）で塚等が検出されている。

天正9（1581）年に鳥取城が陥落すると、羽柴秀吉は亀井茲矩に13,800石を与え鹿野城跡（142）に配し、気多郡を治めさせた。亀井氏は気高町周辺の新田開発のため、池の干拓・用水路の開削等の業績を残したことで知られる。また、東南アジアとの朱印船貿易を行う等、海外との交易にも力を注いだ。元和3（1617）年の亀井氏移封後は池田光政、池田光仲を経て幕末まで鳥取池田藩であった。

（片岡）

参考文献　（本書で紹介した遺跡の主要文献のみを掲出。50音順）

青谷町教育委員会　1995『大口第3遺跡発掘調査報告書』
青谷町教育委員会　1995『青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
気高町教育委員会　1975『二本木7号墳発掘調査報告書』
気高町教育委員会　1981『北短尾遺跡発掘調査報告書』
気高町教育委員会　1982『気高町埋蔵文化財発掘調査報告書－睦逢遺跡－』
気高町教育委員会　1988『逢坂地域遺跡群発掘調査報告書』
気高町教育委員会　1988『上光遺跡群発掘調査報告書』
気高町教育委員会　1988『気高町埋蔵文化財発掘調査報告書』

気高町教育委員会　1992『谷奥古墳群遺跡詳細分布調査報告書』
気高町教育委員会　1993『馬場遺跡発掘調査報告書』
気高町教育委員会　1995『気高町内城館跡調査報告書』
気高町教育委員会　2006『新修気高町誌』
気高町教育委員会　1997『気高町内遺跡発掘調査報告書』
気高町教育委員会　1998『山宮 14 号墳発掘調査報告書』
気高町教育委員会　1999『気高町内遺跡発掘調査報告書』
気高町教育委員会　2003『上原遺跡群発掘調査報告書』
気高町教育委員会　2003『八束水古墳群発掘調査報告書 56・57・58・60 号墳』
鹿野町教育委員会　1982『寺内京南遺跡発掘調査報告－ほ場整備に伴う調査－』
鹿野町教育委員会　1982『寺内廃寺発掘調査概報Ⅲ』
鹿野町教育委員会　1988『鹿野町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
鹿野町教育委員会　1990『柄杓目遺跡Ⅱ』
鹿野町教育委員会　1993『鹿野町内遺跡発掘調査報告書』
下中　弘　1992『鳥取県の地名』
鳥取市教育委員会　2013『平成 24（2012）年度鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書』
（財）鳥取市文化財団　2007『大坪イカウ松遺跡』
（財）鳥取市文化財団　2009『大坪大縄手遺跡（第１冊）』
（公財）鳥取市文化財団　2014『常松大谷遺跡（丘陵部）』
中林　保　1997『因幡・伯耆の町と街道』

第３章　１－１区の調査

第１節　調査区の概要

調査地は、鳥取市気高町の南から北へ開く開析谷である宝木谷の東側に延びる丘陵に、東から西へ開く大谷と呼ばれる小開析谷の中に位置する。調査地付近の高さは標高 11.0m 前後で、調査地の西側を南北にはしる県道 182 号線を境として、西側では標高 7.3m を測り、大きな比高差が見られた。現在の調査地周辺は、開析谷の斜面地を利用して階段状の耕作地が造られているが、調査時点では休耕地となっている。

今回の発掘調査では、本来傾斜している堆積を、前述したように階段状に造り出しているため、谷奥と谷の先端では、地層のつながりを把握することが難しく、同一遺構面で複数の時期の遺構を検出することも見られた。この点については本文の中でその旨を記している。

検出した遺構面では、中・近世の田畑を始め、鎌倉時代の建物や溝・土坑、平安時代の堆積層、奈良時代の祭祀遺物を含む山側からの堆積層、古墳時代後期の建物、古墳時代前期の土坑、そして弥生時代後期の水田を検出しており、狭小な谷内に重層的な遺構面が見られた。言い換えれば、弥生時代後期の水田から始まり、近世に至るまで中断はあるにせよ連綿と人が係わり続けた痕跡が本調査で明らかとなった。　（佐伯）

第２節　基本層序

本調査では、限界掘削深度である現地表面下約 3.5m までの土層をａ層（人為的堆積層）とｂ層（自然堆積層）に区別し、１～ 27 層に分層した。

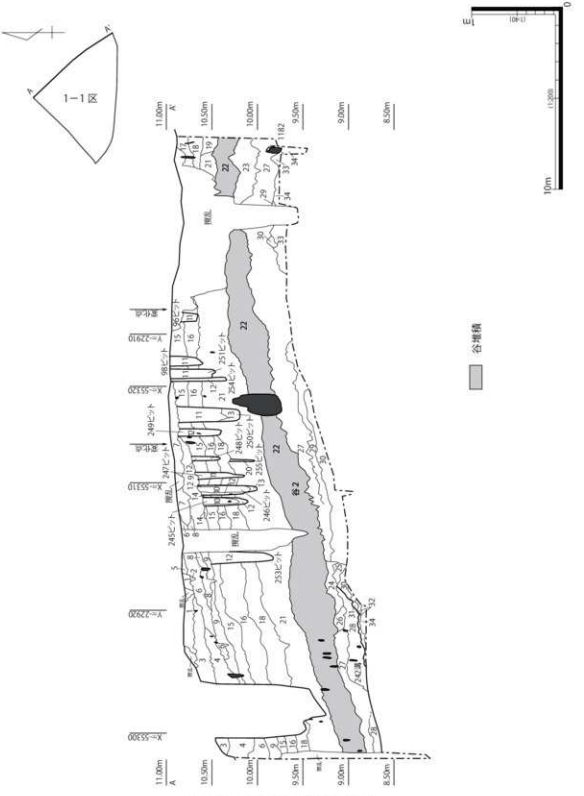
近世客土　搬入土である。7.5YR7/1 明褐灰色シルトで、厚さ約 20cm を測る。細粒砂が混じり、よく締まる。

1a 層　調査区西側 1/3 にのみ堆積する近世の耕作土で、所々に撹乱を受ける。7.5YR6/1 褐灰色砂質シルトで、厚さ約 18cm を測る。細礫（円礫）が少し混じり、よく締まる。上面より耕作に関係する溝を検出した。造成や撹拌により弥生土器・土師器・須恵器・瓦質土器・青磁椀等の古い遺物を含んでいるが、伊万里椀が出土することから近世の包含層と考える。

2a 層　調査区西側 1/3 にのみ堆積する近世の耕作土である。5YR5/1 褐灰色砂質シルト～粘土質砂で、厚さ約 20cm を測り、西側に向かって厚みを増す。粗粒砂～中粒砂が混じり、やや締まりがある。土師器・須恵器・瓦質土器・青磁椀・灰釉陶器・磁器が出土した。

3a 層　調査区西側 1/3 にのみ堆積する耕作土である。10YR7/1 灰白色砂質シルトで、厚さ約 10cm を測る。粘性はなく、1.5 ～ 3 cm 大の角礫～亜円礫が少し混じり、やや締まりがある。遺構は上面より耕作に関係する溝を検出した。土師器・須恵器が少量出土した。

4a 層　調査区西側半分に堆積する耕作土である。5YR6/2 灰褐色砂質シルトで、厚さ約 14cm を測



第８図　北東壁土層断面図（1）

1	近世客土	7.5YR7/1 明褐灰色シルト	粘性あり　締まりあり　細粒砂混じる
2	1 溝	7.5YR8/1 灰白色シルト	粘性なし　締まり弱い
3	1a 層	7.5YR6/1 褐灰色砂質シルト	粘性弱い　締まりあり　細礫（円礫）少し混じる
4	2a 層	5YR5/1 褐灰色砂質シルト～粘土質砂	粘性弱い　締まりややあり　粗粒砂～中粒砂混じる
5	3a 層	10YR7/1 灰白色砂質シルト	粘性なし　締まりややあり　1.5 ～ 3cm 大の角礫～亜円礫少し混じる
6	4a 層	5YR6/2 灰褐色砂質シルト	粘性弱い　締まり弱い　5 ～ 7cm 大の角礫～亜円礫混じる
7	6a 層	5YR5/2 灰褐色砂質シルト	粘性弱い　締まりややあり　粗粒砂～中粒砂多く混じる
8	7a 層	5YR5/6 明赤褐色砂質シルト	粗粒砂～中粒砂多く混じる
9	9a 層	5YR4/8 赤褐色砂質シルト	粘性なし　締まりあり　粗粒砂～中粒砂混じる　Mn を多く含む
10	ピット芯	7.5YR6/8 橙色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
11	ピット	7.5YR5/6 明褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり　7.5YR6/8 橙色砂質シルト混じる
12	ピット掘方	7.5YR5/6 明褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
13	ピット	5B5/1 青灰色砂質粘土	粘性あり　締まりあり
14	10a 層	7.5YR6/8 橙色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
15	11a 層	7.5YR6/4 にぶい橙色砂質シルト	粘性弱い　締まり弱い　粗粒砂～中粒砂多く混じる
16	16a 層	5YR2/1 黒褐色砂質シルト	粘性あり　締まりややあり
17	17-1a 層	10YR6/1 褐灰色砂質シルト	粘性あり　締まりあり　3 ～ 5cm 大の礫含む
18	18a 層	10YR3/1 黒褐色シルト	粘性ややあり　締まりなし
19	18b 層	7.5YR8/6 浅黄橙色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
20	ピット	2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質シルト	粘性あり　締まりあり
21	19a 層	10G2/1 緑黒色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い
22	20b 層	10Y6/1 灰色砂質粘土	粘性あり　締まりあり　谷埋土
23	21a 層	5GY7/1 明オリーブ灰色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い
24		5PB6/1 青灰色砂質粘土	粘性あり　締まり弱い
25		5YR8/2 灰白色中粒砂	粘性なし　締まりなし　部分的に赤みを帯びる
26		10YR8/3 浅黄橙色中～粗粒砂	粘性なし　締まりなし　1 ～ 3cm 大の礫含む
27	23a 層	5B4/1 暗青灰色シルト質砂	粘性あり　締まり弱い
28	242 溝	10Y4/1 灰色シルト質砂	粘性あり　締まりややあり
29		7.5GY5/1 緑灰色中～粗粒砂	粘性なし　締まりなし
30	25b 層	10G6/1 緑灰色礫～粗粒砂	粘性なし　締まりなし　1 ～ 2cm 大の礫多く含む
31		10G7/1 明緑灰色シルト質砂	粘性なし　締まりなし　3 ～ 5cm 大の礫含む
32		2.5Y3/1 黒褐色シルト	粘性弱い　締まりなし　腐植土
33	26b 層	5Y7/1 灰白色中～粗粒砂	粘性なし　締まりなし
34	27b 層	10BG6/1 青灰色砂質シルト	粘性あり　締まりなし　腐植土

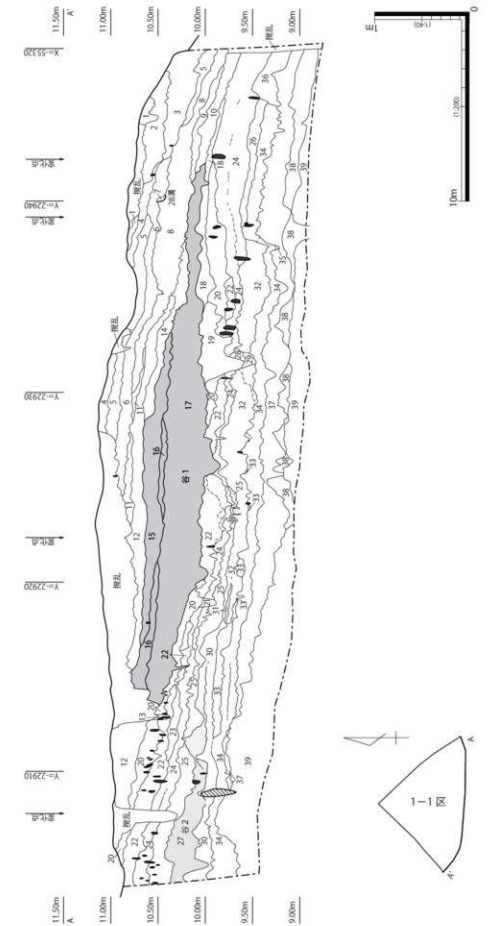
第９図　北東壁土層断面図（2）

る。粘性は弱く、５～７cm 大の角礫～亜円礫が混じり、締まりが弱い。上面より耕作に関係する溝・ピットを検出した。土師器・須恵器・瓦質土器・青磁椀・白磁・東播系捏鉢・備前擂鉢が出土しており、中世の包含層と考える。

5a 層　調査区中央に堆積する耕作土である。5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルトで、厚さ約 13cm を測る。粘性はややあるが、中粒砂や 0.5 ～３cm 大の角礫～亜円礫が少し混じり、締まりは弱い。上面より、段状に造成された平坦地の周りに掘られた溝を検出した。土師器・須恵器・瓦質土器が出土した。

6a・7a・8a 層　調査区西側半分に堆積する耕作土である。６－ 1a 層は 5YR5/2 灰褐色砂質シルトで、厚さ約 30cm を測る。粘性は弱く、中～粗粒砂が多く混じり、やや締まりがある。上面より溝・土坑・ピットを検出した。６－ 2a・3a 層は調査区南西側、谷の中央部にさらに１段下がったところにのみ残る堆積である。６－ 2a 層は 10YR8/2 灰白色砂質シルトで厚さ約８cm を、６－ 3a 層は 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルトで厚さ約 10cm を測る。共に粘性は弱く、やや締まりがある。7a・8a 層は、調査区中央にのみ堆積する薄層のため、６層と同時に除去した。7a 層は 5YR5/6 明赤褐色砂質シルトで、厚さ約３cm を測り、粗粒砂～中粒砂が多く混じる。部分的に残る 8a 層は 5YR4/6 赤褐色砂質シルトで、厚さ約４cm を測り、よく締まる。土師器・須恵器・瓦質土器・緑釉陶器が出土した。

9a 層　調査区西側より 2/3 に堆積する。5YR4/8 赤褐色砂質シルトで、厚さ約６cm を測る。マンガン粒を多く含む。粗粒砂～中粒砂が混じり、調査区北側は特に硬い。西に向かって段状に造成し、



第10図　南壁土層断面図（1）

1	近世客土	7.5YR7/1 明褐灰色シルト	粘性あり　締まりあり　細粒砂混じる
2	1a 層	7.5YR6/1 褐灰色砂質シルト	粘性弱い　締まりあり　細礫（円礫）少し混じる
3	2a 層	5YR5/1 褐灰色砂質シルト～粘土質砂	粘性弱い　締まりややあり　粗粒砂～中粒砂混じる
4	3a 層	10YR7/1 灰白色砂質シルト	粘性なし　締まりややあり　1.5 ～ 3cm 大の角礫～亜円礫少し混じる
5	4a 層	5YR6/2 灰褐色砂質シルト	粘性弱い　締まり弱い　5 ～ 7cm の角礫～亜円礫混じる
6	5a 層	5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い 中粒砂・0.5 ～ 3cm 大の角礫～亜円礫少し混じる
7	28 溝	7.5YR3/4 暗褐色シルト	粘性なし　締まりなし
8	6-1a 層	5YR5/2 灰褐色砂質シルト	粘性弱い　締まりややあり　中～粗粒砂多く混じる
9	6-2a 層	10YR8/2 灰白色砂質シルト	粘性弱い　締まりややあり
10	6-3a 層	10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト	粘性弱い　締まりややあり
11	8a 層	5YR4/6 赤褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まりあり
12	9a 層	5YR4/8 赤褐色砂質シルト	粘性なし　締まりあり　粗粒砂～中粒砂混じる　Mn を多く含む
13	ピット	7.5YR6/8 橙色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
14	11a 層	7.5YR6/4 にぶい橙色砂質シルト	粘性弱い　締まり弱い　粗粒砂～中粒砂多く混じる
15	12a 層	5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト	粘性弱い　締まり弱い　谷１埋土
16	13a 層	5PB6/1 青灰色シルト質砂	粘性なし　締まりややあり　谷１埋土
17	14-1a 層	7.5YR6/6 橙色シルト質砂	粘性ややあり　締まりややあり　谷１埋土
18	15-2a 層	7.5YR5/6 明褐色砂質シルト	粘性弱い　締まりあり 0.5 ～ 1cm 大の粗粒砂・1 ～ 2cm 大の角礫含む　造成土
19	15-3b 層	7.5Y7/1 灰白色粗～細粒砂	粘性なし　締まりなし　3 ～ 10cm 大の角礫多く含む　破堤堆積
20	16a 層	5YR2/1 黒褐色砂質シルト	粘性あり　締まりややあり
21		10YR1.7/1 黒色砂質シルト	粘性なし　締まりなし
22	17-1a 層	10YR6/1 褐灰色砂質シルト	粘性あり　締まりあり　3 ～ 5cm 大の礫含む
23	17-2b 層	5Y7/2 灰白色細～極細粒砂	粘性なし　締まりあり
24	18a 層	10YR3/1 黒褐色シルト	粘性ややあり　締まりなし
25	18b 層	7.5YR8/6 浅黄橙色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
26	19a 層	10G2/1 緑黒色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い
27	20b 層	10Y6/1 灰色砂質粘土	粘性あり　締まりあり　谷２埋土
28		7.5Y6/1 灰色中～粗粒砂	粘性なし　締まりなし
29		10YR3/1 黒褐色粘土	粘性あり　締まりあり
30	21a 層	5GY7/1 明オリーブ灰色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い
31	21b 層	7.5Y7/3 浅黄色中～粗粒砂 ～ 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト質極細砂	粘性なし　締まりなし
32	22a 層	5G6/1 緑灰色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
33	22b 層	10YR7/4 にぶい黄橙色粗粒砂 ～ 5BG7/1 明青灰色シルト	粘性なし　締まりなし
34	23a 層	5B4/1 暗青灰色シルト質砂	粘性あり　締まり弱い
35		7.5GY5/1 緑灰色粗～極粗粒砂	粘性なし　締まりなし
36	24b 層	10YR6/6 明黄褐色粘土	粘性あり　締まりあり
37	25b 層	10G6/1 緑灰色細～粗粒砂	粘性なし　締まりなし　1 ～ 2cm 大の礫多く含む
38	26b 層	5Y7/1 灰白色中～粗粒砂	粘性なし　締まりなし
39	27b 層	10BG6/1 青灰色砂質シルト	粘性あり　締まりなし　腐植土

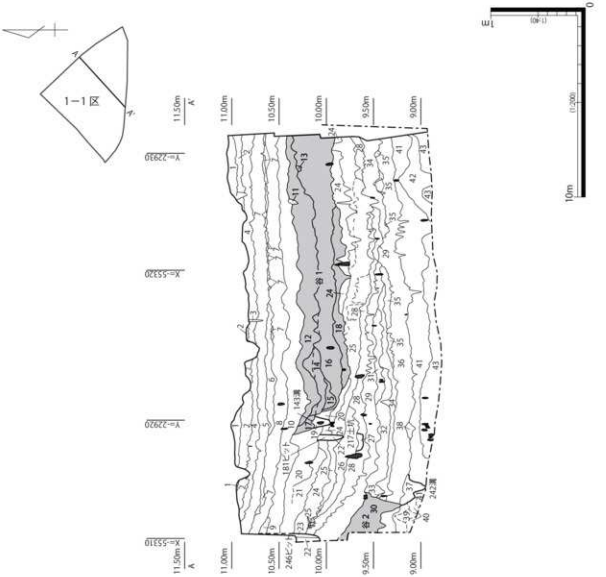
第 11 図　南壁土層断面図（2）

平坦地を造っている。堆積は谷奥から斜行して堆積しているため、浅い角度で上面を削平すると、多くの土層が露出し、検出した層位は 9a ～ 18a 層に亘る。上面より中世の掘立柱建物・溝・土坑を検出した。土師器・須恵器・瓦質土器が出土した。鎌倉時代の包含層と考える。

10a 層　調査区北東側の平坦面のみに残る。7.5YR6/8 橙色砂質シルトで、厚さ約 4 cm を測る。粘性はややあり、やや締まりがある。上面より平安時代の掘立柱建物やピットを検出した。土師器・須恵器が出土した。

11a 層　調査区南側に寄る谷の中心が埋まった後の整地土である。中世の建物が建てられた際に削平された平坦部分を除き緩やかな斜面となる。7.5YR6/4 にぶい橙色砂質シルトで、厚さ約 8 cm を測る。粘性は弱く、粗粒砂～中粒砂が多く混じり、締まりが弱い。上面より杭列を検出した。土師器・須恵器が出土した。

12a 層・13a 層　12a ～ 14 － 3a 層は、調査区北東側平坦地から南側谷部への斜面に堆積する谷１の埋土である。12a 層は 5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルトで、厚さ約 8 cm を測る。粘性は弱く、締まりが弱い。13a 層は平坦地の斜面下に堆積する。5PB6/1 青灰色シルト質砂で、厚さ約 10cm を測る。



第12図　中央トレンチ土層断面図（1）

粘性はないが、やや締まりがある。土師器・須恵器・緑釉陶器が出土した。平安時代の包含層と考える。

14a層　谷1の埋土である。14－1a層は7.5YR6/6橙色シルト質砂で、南側の厚く堆積するところでは、約52cmを測る。7.5YR8/8黄橙色粘土ブロックを含み、中～粗粒砂が多く混じる。造成土の可能性がある。14－2a層は、北側平坦面から南側谷部への斜面に堆積する。5YR5/6明赤褐色砂質シルトで、厚さ約8cmを測る。上面に0.5～10cm大の角礫を多く含む。造成土と考える。最下層の14－3a層は7.5YR6/8橙色シルト質砂で、厚さ約6cmを測る。土師器・須恵器が出土した。6世紀後半から8世紀の遺物が多いが9世紀の遺物も含んでおり、平安時代の包含層と考える。

15a層　調査区北側の平坦面の造成土である。15－1a層は7.5YR3/4暗褐色砂質シルトで、厚さ約10cmを測る。粘性はややあり、0.5～1cm大の粗粒砂・1～2cm大の角礫、弥生土器から古墳時代の土師器、6世紀後半から7世紀の須恵器蓋杯や8世紀頃の土師器甕を多く含み、やや締まりが

1	3a 層	10YR7/1 灰白色砂質シルト	粘性なし　締まりややあり　1.5 ～ 3cm 大の角礫～亜円礫少し混じる
2	4a 層	5YR6/2 灰褐色砂質シルト	粘性弱い　締まり弱い　5 ～ 7cm 大の角礫～亜円礫混じる
3	遺構	10YR6/1 褐灰色砂質シルト	中粒砂・10mm の角礫混じる
4	5a 層	5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い 中粒砂・0.5 ～ 3cm 大の角礫～亜円礫少し混じる
5	6a 層	5YR5/2 灰褐色砂質シルト	粘性弱い　締まりややあり　粗粒砂～中粒砂多く混じる
6	7a 層	5YR5/6 明赤褐色砂質シルト	粗粒砂～中粒砂多く混じる
7	8a 層	5YR4/6 赤褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まりあり
8	9a 層	5YR4/8 赤褐色砂質シルト	粘性なし　締まりあり　粗粒砂～中粒砂混じる　Mn を多く含む
9	10a 層	7.5YR6/8 橙色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
10	11a 層	7.5YR6/4 にぶい橙色砂質シルト	粘性弱い　締まり弱い　粗粒砂～中粒砂多く混じる
11		5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い　砂が少ない
12	12a 層	5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト	粘性弱い　締まり弱い
13		5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い
14	13a 層	5PB6/1 青灰色シルト質砂	粘性なし　締まりややあり
15		7.5YR5/6 明褐色砂	粘性なし　締まりあり　中～極粗粒砂混じる 上方に 7.5YR7/3 にぶい橙色粗粒砂含む
16	14-1a 層	7.5YR6/6 橙色シルト質砂	粘性あり　締まりややあり　中～粗粒砂多く混じる 7.5YR8/8 黄橙色粘土ブロック含む
17	14-2a 層	5YR5/6 明赤褐色砂質シルト	粘性あり　締まりあり　上面に 0.5 ～ 10cm 大の角礫多く含む　造成土
18	14-3a 層	7.5YR6/8 橙色シルト質砂	粘性あり　締まりややあり
19	143 溝	N6/0 灰色シルト質砂	粘性ややあり　締まり弱い
20	15-1a 層	7.5YR3/4 暗褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり 0.5 ～ 1cm 大の粗粒砂・1 ～ 2cm 大の角礫・土器含む　造成土
21	15-2a 層	7.5YR5/6 明褐色砂質シルト	粘性弱い　締まりあり 0.5 ～ 1cm 大の粗粒砂・1 ～ 2cm 大の角礫含む　造成土
22	ピット	7.5YR6/8 橙色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
23	ピット	7.5YR5/6 明褐色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
24	16a 層	5YR2/1 黒褐色砂質シルト	粘性あり　締まりややあり
25	17-1a 層	10YR6/1 褐灰色砂質シルト	粘性あり　締まりあり　3 ～ 5cm 大の礫含む
26	17-2a 層	10YR6/1 褐灰色砂質シルト	粘性あり　締まりあり　砂が少ない
27	217 土坑	5Y4/1 灰色粘土	粘性あり　締まりあり
28	18a 層	10YR3/1 黒褐色シルト	粘性ややあり　締まりなし
29	19a 層	10G2/1 緑黒色砂質シルト	粘性ややあり　締まり弱い
30	20b 層	10Y6/1 灰色砂質粘土	粘性あり　締まりあり　谷２埋土
31		2.5GY6/1 オリーブ灰色シルト質砂	粘性なし　締まりなし　3 ～ 5cm 大の礫含む
32	21b 層	7.5Y7/3 浅黄色中～粗粒砂 ～ 10RR7/3 にぶい黄橙色シルト質極細砂	粘性なし　締まりなし
33		10Y5/1 灰色砂質粘土	粘性あり　締まりあり
34	22a 層	5G6/1 緑灰色砂質シルト	粘性ややあり　締まりややあり
35	22b 層	10YR7/4 にぶい黄橙色粗粒砂 ～ 5BG7/1 明青灰色シルト	粘性なし　締まりなし
36	23a 層	5B4/1 暗青灰色シルト質砂	粘性あり　締まり弱い
37		10Y4/1 灰色シルト質砂	粘性あり　締まりややあり
38		7.5GY5/1 緑灰色中～粗粒砂	粘性なし　締まりなし
39		10R7/1 明赤灰色細～粗粒砂	粘性なし　締まりなし
40		10GY7/1 明緑灰色シルト	粘性なし　締まりなし
41	25b 層	10G6/1 緑灰色細～粗粒砂	粘性なし　締まりなし　1 ～ 2cm 大の礫多く含む
42	26b 層	5Y7/1 灰白色中～粗粒砂	粘性なし　締まりなし
43	27b 層	10BG6/1 青灰色砂質シルト	粘性あり　締まりなし　腐植土

第 13 図　中央トレンチ土層断面図（2）

ある。15 － 2a 層は 7.5YR5/6 明褐色砂質シルトで、厚さ約 6 cm を測る。0.5 ～ 1 cm 大の粗粒砂・1 ～ 2 cm 大の角礫を含み、締まりがある。調査区北側の丘陵より調査区内へ搬入されたと思われる造成土で、北東壁際に残っていない。15 － 1a 層の造成の際、15 － 2a 層上面が攪拌され、分層は難しい。15 － 1a 層上面よりピット、平坦地と谷 1 の落ちかたにある 143 溝等を検出した。

15 － 3b・4b 層　南東側から谷の南側斜面に沿って流れる 256 流路や 257 溝と、これらから溢流した破堤堆積である。15 － 3b 層は 7.5Y7/1 灰白色細～粗粒砂で、厚さ約 40cm を測る。3 ～ 10cm 大の角礫を多く含み粘性・締まり共になく、土石流となり一気に堆積した。15 － 4b 層は破堤堆積のなかでも調査区西端の一部に堆積する。7.5Y6/1 灰色粗～細粒砂で、厚さ 10 ～ 20cm を測る。植物遺体を含む。6 世紀後半から 7 世紀の土師器・須恵器、斎串等の木製品が出土した。

16a 層　調査区東端では黄色味を帯びるが、西側に移る程酸化が進み暗色化する。5YR2/1 黒褐色

砂質シルト、厚さ約6cmを測る。調査区中央付近では砂の量が少なくなる。上面より古墳時代後期の掘立柱建物を検出した。遺物の多くは古墳時代前期の土師器であるが、須恵器も出土した。

17－1a・2a層　17－1a層は調査区東側より2/3まで堆積する。16層と同じように東端では黄色味を帯びる。西側に移る程暗色化し10YR6/1褐灰色砂質シルトとなり、厚さ約22cmを測る。3～5cm大の礫を含み、調査区中央付近では砂の量が増え淘汰が悪い。中粒砂(5B7/1明青灰色中粒砂、10YR8/1灰白色中粒砂)のブロックが斑状に混じる。17－2a層は砂粒が少なく、淘汰が良い。遺物の多くは古墳時代前期の土師器であるが、須恵器も出土した。

17－2b層　調査区東側と北側の一部に堆積する。5Y7/2灰白色細～極細粒砂で、厚さ約8cmを測る。

18a層　調査区北東側には堆積せず、南西側の堆積は厚い。10YR3/1黒褐色シルトで、厚さ約8～36cmを測る。粘性はややあり、締まりがない。上面より竪穴建物1・2を検出した。遺物の状態はよく、古墳時代前期初め頃の包含層と考える。

18b層　調査区東端から中程まで、谷の中心付近に堆積する。7.5YR8/6浅黄橙色砂質シルト～シルトで、厚さ約10～24cmを測る。リバースグレーディング構造を認める。

19a層　10G2/1緑黒色砂質シルトで、厚さ最大44cmを測る。粘性はややあり、締まりが弱い。古墳時代前期の土師器が出土した。

20b層　谷2の埋土である。10Y6/1灰色砂質粘土で、厚さ最大50cmを測る。谷の中心は北側にあるため北西側の堆積は厚く、下層を大きく削り込んでいる。部分的に5～8cmの礫を多く含み、21a層の水田や畦畔が確認できる部分では、下位にシルトが堆積し、リバースグレーディング構造を認める。弥生土器や古墳時代前期の土師器が出土した。

21a層　調査区東側に堆積する耕作土である。5GY7/1明オリーブ灰色砂質シルトで、厚さ約10cmを測る。淘汰がやや悪く、締まりが弱い。中央トレンチ付近では3～5cm礫、砂を多く含む2.5GY6/1オリーブ灰色シルト質砂がこれに対応する。

21b層　7.5YR7/3浅黄色粗粒砂～10YR7/3にぶい黄橙色シルト質極細粒砂で、厚さ約15cmを測る。下位にシルト質極細粒砂が堆積し、リバースグレーティング構造を認める。調査区中央と南壁中央で部分的に残る水田の上面では、薄くシルト質極細粒砂が堆積する。

22a層　調査区中央に堆積する耕作土である。5G6/1緑灰色砂質シルトで、厚さ約20cmを測る。淘汰が悪く、7.5Y8/1灰白色細粒砂のブロックを多く含むところがある。西側側溝でも畦畔を確認したが、遺構の遺存状況が悪く、平面では検出できなかった。

22b層　10YR7/4にぶい黄橙色粗粒砂～5BG7/1明青灰色シルトで、厚さ約10cmを測る。下位にシルトが堆積し、リバースグレーティング構造を認める。

23a層　ほぼ調査区全面に堆積する耕作土である。5B4/1暗青灰色シルト質砂で、厚さ約14cmを測る。粘性はあり、締まりが弱い。水田の上面には、22b層のシルトが約3cm均等に堆積する。弥生時代後期前半の土器片や建築材と考えられる木製品が出土した。

24b層　本層以下は無遺物の自然堆積層である。10YR6/6明黄褐色粘土で、厚さ約27cmを測る。

25b層　10G6/1緑灰色細～粗粒砂で、厚さ約20cmを測る。1～2cm大の礫を多く含む。ラミナが見られるが、上面の一部に0.3～1cmの礫が入り部分的に攪拌されたところがある。

26b層　5Y7/1灰白色中～粗粒砂で、厚さ約20cmを測る。ラミナが見られる。

27b層　10BG6/1青灰色砂質シルトで、腐植土である。ラミナが見られる。　(西山)

第３節　検出した遺構と出土遺物

調査区は谷にあり、同じ土が何度も堆積し遺構の検出は困難であった。そのため、明らかに帰属する遺構面で検出できず下面で検出した場合は、本来帰属していた遺構面の遺構に戻して記述した。しかし、帰属する遺構面が明確でない場合は、検出した遺構面で記述する。

第１項　１面（第14図、図版１－１・２）

１　概　要

近・現代客土を掘り下げた段階で検出した面を１面として、遺構面調査を実施した。標高は調査区北西部が10.34mで、南東部では11.08 mである。谷部の前面側（北西部）に向かって緩やかに傾斜していく。

この遺構面では、調査区西半において、整然と並ぶ多くの小溝群と耕作段差を検出した（第14図）。近・現代客土が残っていない調査区東半、特に南東部では、これら溝等の遺構を全く確認しなかったことから、当該範囲では関連遺構は大きく削平され、消失してしまっていると察する。

小溝の規模には差がやや見られるが、浅く直線的な溝で構成されている点は共通している。それら溝の走向軸は、北東から南西、及び北西から南東方向の２方向に分類される。両者は交差こそしていないが、直交する位置関係をなす。１面の時期は、1a 層中からの磁器・陶器類の出土より、近世以降と判断される。

２　調査の成果

（１）耕作溝

1a 層上面（１面）では、調査区北西隅を中心として小溝群を検出した。溝の検出標高は、10.6 m前後である。検出できた範囲内では、北西から南東方向に７条、北東から南西方向に12条の小溝を確認しているが、いずれも検出時には深さ10cm 以下と非常に浅い。北西から南東方向の小溝は、概ねＮ－45°－Ｗを向き、一方北東から南西方向の小溝は概ねＮ－40°－Ｅの走向を示す。

北西から南東方向に延びる小溝はすべて 1c グリッド内で検出され、南側３条が単独で、また残りの北側４条は調査区外へ延伸する様相を呈している。いずれも長さ２m、幅40cm以下の小規模な溝である。これらの溝は、当時の掘込面が遺構検出面よりもさらに上位に位置することが想定できることから、元来はさらに北西方向へ延びていた可能性がある。ただし、これらと直交関係にある、北東から南西方向に延びる小溝群と当時実際に交差していたかどうかは不明である。また、この小溝群はその南西側にさらに列を成していたことも想定されるが、当該範囲は大きく後世の攪乱を受けており、状況は不詳である。

北東から南西方向に延びる小溝は、北西から南東方向に延びる小溝と同様の規模を誇るものと、それよりもかなり長大になるものとに区分できる。後者の規模には、長さ７～10 m程度になる溝も存在する。規模の違いはあるものの、これらの溝の方向性は全て揃っている。北東から南西方向に延びる溝のうち、最も西側から３条分については、攪乱部分を挟んで一直線状に連なることから、本来は各々１条として機能していた可能性がある。これらの溝群は、当該面における規格的な方向性等から、

耕作土（近・現代客土）下面に刻まれた耕作関連遺構（耕作溝）と考えられる。

（2）耕作段差

耕作溝に関連する旧地形として、近・現代客土残存範囲の北東端では、北東から南西方向への段差を検出した。段差の走向はN－44°－Eで、北東から南西方向の耕作溝群とほぼ同じ軸方向を呈している。このことから、この段差は、耕作面の境界を示す地形段差（耕作段差）に該当しよう。この段差を境とした高低差は10～15cm程度であり、北西に向かって下降していく。この段差の軸線は、本遺跡が位置する狭小な谷部の開口方向に対してほぼ直交することから、この谷を段々に区切る軸線として妥当といえる。またこの段差は、その軸線の中でも最も谷の下手側の段差の1つに該当しよう。

この段差の裾では、他の耕作溝に比してやや深い溝（1溝）を検出した。埋土は近・現代客土に類する粘質土である。現存する範囲での規模を記すと、長さ11.7m、幅60cmで、北西方向の延長部分は調査区外へと続く。走向はN－44°－Eを示し、ほぼ北東－南西の方位軸に沿っている。この溝は、耕作段差に関連する畦畔等の造営や管理に関わる土地利用によって生じたとも推測されるが、現況からその詳細について推し量ることは難しい。

1溝を含めたこれら耕作溝の時期については、ベース層（1層）で出土した伊万里焼の椀（Po69）よりも後に築かれたことは確実であることから、近世以降と考える。（水村）

第2項　2面（第15図、図版1－3）

1　概　要

1a層を掘り下げ検出した2a層上面を2面とし、遺構面調査を実施した。2面調査に至るまでに掘り下げた1a層は、調査区内では部分的な検出に留まるため、2面の標高は1面のそれとほとんど変化していない（標高10.32～11.08m）。このため、1面と同様に南東部の状況は判然とせず、調査は事実上調査区西半に限定される。

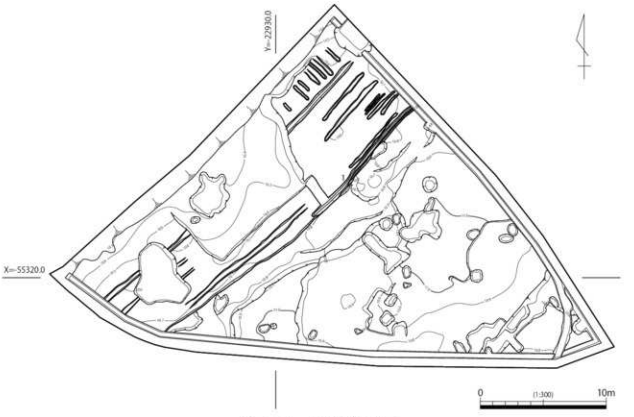
2面においても、上位面と同様に耕作段差1ヵ所と耕作溝を検出した。この耕作段差は、1面で検出したものとほぼ同位置にある。また、小規模な耕作溝は、調査区南西隅付近において検出した。2面の時期は、検出遺構と1a層の層相及び出土遺物から判断して、近世以降と考えられる。

2　調査の成果

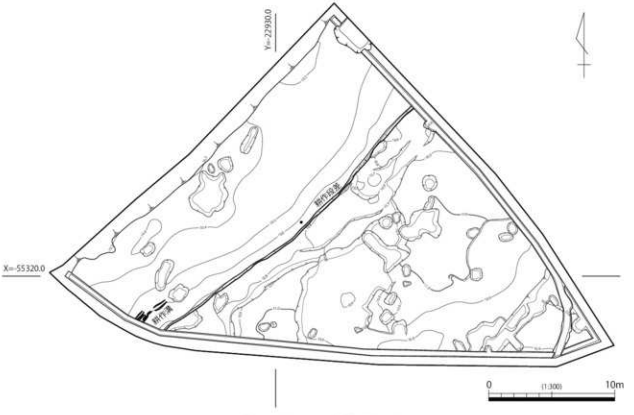
（1）耕作溝

耕作溝は、3d及び3eグリッド北側で検出した。並走する2条の溝を主体とし、調査区南端に進むにつれさらに細かく分割される。1a層系統の粘質土を埋土とする。溝としての遺存状態は非常に悪いが、本遺構面でも検出した耕作段差に平行していること等、上位遺構面で耕作溝と認定した遺構に類する性格を有することから、一連の耕作関連遺構と判断した。この小溝群は調査区外南方面へと続くため、元来の規模等については不詳である。また、現況では1面で検出した耕作溝に比して小規模であるが、これは遺存度の低さが影響しているのかもしれない。

時期を特定できる遺物には恵まれていないため、直接的に本遺構の帰属時期について言及することはできないが、基盤層や被覆する1a層の時期から勘案して、近世以降の耕作溝と考える。



第 14 図　１面遺構配置図



第 15 図　２面遺構配置図

（２）耕作段差

当該面で検出した耕作段差は、調査区西端から約９ｍの位置において、Ｎ－48°－Ｅの走向を示している。この耕作段差は１面で検出した耕作段差とほぼ同位置にあり、この段階の地形が、この後も踏襲されていることが分かる。（水村）

第３項　３面（第16図、図版２～３－１）

１　概　要

2a層を掘り下げ検出した3a層の上面を３面とし、遺構面調査を実施した。ただし、３面調査に至るまでに掘削した2a層は、上層である1a層の直下にのみ残存する薄層であることから、2a層掘削は、結果的に調査区西半部分の限定的な調査となり、３面の標高値は２面それと近似する（9.85～11.08m）。このため、２面調査と同様に、層が残存しない南東部の状況ははっきりしない。

当該面では、耕作段差と耕作溝２条（２溝及び３溝）を検出した。耕作段差は北東から南西方向に平行して２単位見られる。そのうち西側の段差の裾において、2a層系の粘質土で充填される耕作溝を確認した。

３面は、検出遺構と2a層の層相、地形及び出土遺物から判断して、中世の耕作面（畠）と考える。

２　調査の成果

（１）耕作溝

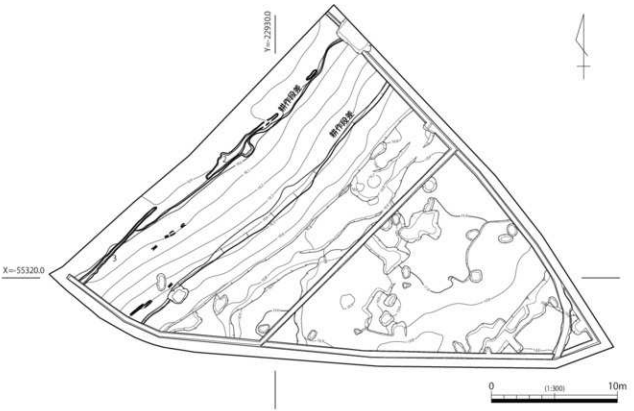
耕作溝は、調査区西端付近で２条検出した。北側の溝を２溝、南側の溝を３溝とした。いずれの溝にも遺物は含まれていない。これらの溝以外にも、２溝及び３溝と平行関係をなす非常に狭く浅い掘り込みの溝状痕跡を複数認識したが、プラン等が不明瞭であったため個別に検出することは困難であった。結果として、掘削にまで至ったものは上記２つの溝に留まった。

２溝は、1d・2dグリッドで検出し、長さ7.7ｍ、幅は40cm～１ｍと変動的である。走向はＮ－48°－Ｅで、３溝の走向（Ｎ－45°－Ｅ）とほぼ揃う。３溝は、南西部分が調査区外へと続くため、正確な規模は不詳である。2eグリッドを主体として検出した範囲では、長さ8.5m、幅0.5mを測る。両溝は、上位面で検出した溝と走向、位置、また性格等が同質であることから、いずれも耕作段差に関連する加工痕跡と思われる。

この耕作溝の東側、2dグリッド中央付近では、径40cmの範囲でウシと見られる偶蹄目の足跡を複数検出した（図版３－１）。足跡内はやや砂質の強い2a層系粘質土で充填されることから、2a層帰属の痕跡と判断した。遺存状態の良好な足跡を見ると、長軸方向約15cm、短軸方向約10cmを測る。歩行方向は、耕作溝と耕作段差に沿ってほぼ直線的である。これらの状況証拠に鑑みて、当該面に広がる溝群は、埜溝に該当する可能性があり、もしそうならば、当面段階では牛耕が行われていたと考えられる。

（２）耕作段差

耕作段差は、北東から南西方向に平行して２単位見られる。両段差はほぼ平行しており（Ｎ－45°－Ｅ）、その段差間は約５ｍ間隔を均一に保持し、その中で約40cm北西側へ下がる。２つの耕作段



第16図　３面遺構配置図

差に挟まれる範囲は、北西方向への傾斜が強い。

段差の肩は緩やかながら、１及び２面の耕作段差と同じ軸方向を呈する直線的ラインが認識でき、旧地形面の変化点と判断した。

調査時には、この段差に挟まれる範囲が狭小な水田面（棚田）となる可能性も想定した。しかし、畦畔が全く検出しなかったこと、水を張るには急傾斜であると考えられること、また水田一枚の幅が比較的狭くなってしまうと考えられるため、現況からは水田面の可能性を積極的に肯定することは難しい。以上の点から、当該面は畠地として利用されていた可能性を掲げておく。以上から、３面は、検出遺構と2a層層相及び出土遺物から判断して、中世の耕作面（畠）と考える。　（水村）

第４項　４面（第17図、図版３－２）

１　概　要

3a層を掘り下げて検出した4a層の上面を４面とし、遺構面調査を実施した。3a層は、調査区中央付近の一部にしか存在しないため、当該部分のみの部分的な掘削となった。このことから、４面に関する標高値は、３面のそれと変化していない（9.85～11.08m）。当該面も上下遺構面と同様に、谷の前面方向である北西へ向かって平面的に緩傾斜する旧地形の様相が見受けられる。

当該面では、耕作段差１ヵ所と杭列を検出した。耕作段差は、２面のそれとほぼ同じ位置にある。杭は、この段差の西側裾に沿うように並列する。４面は、検出遺構と３層層相及び出土遺物から判断して、中世の耕作面（畠）と考える。

2　調査の成果

（1）耕作段差

調査区中央付近において、北東から南西方向に走る耕作段差を確認した。この段差への3層のすりつきが確認されたため、当段階の耕作段差と判断した。検出できた長さは、24.4m である。段差は一部途切れているものの、ほぼ一直線状に N－46°－E 方向に走り、北側は調査区外へと続く。段差の南端は調査区内南壁手前で収まるが、本来はさらに南西方向へ延伸していた可能性もある。検出位置は、2面で検出した耕作段差とほぼ同じである。このため、明瞭な耕作段差が確認されなかった3面においても、本来はこの位置に耕作段差が存在していた蓋然性が高い。

（2）杭　列

耕作段差の西側に当たる法尻に該当する部分で、杭列を検出した。この杭列は、調査区内で検出した耕作段差とほぼ平行関係を成している。2c、2d、3d グリッドにまたがって検出した杭は、合計25本を数える。直線状に並ぶ杭列の両端の杭を結ぶ直線距離は、約 12m を測る。ただし、杭列の一部は2列になっている箇所もあり、真正の一直線とはならない。

杭は、粗い加工ながら先端を尖らせている。杭同士の間隔は均一ではなく、非常に近接し隣り合う部分もあれば、1.5 m程度離れて打設されている箇所もある。杭列とは認識しているが、列を成している以外にその様相に斉一性はあまりない。検出した範囲内では、南側に特に密集している様子が確認できた。

これら杭列と耕作段差の関係性から鑑みて、杭列は、段差に伴う土留構造物の構成物や、地形の境界を意味する構造物の機能を果たしていたと考えられる。（水村）

第5項　5面（第18図、図版3－3）

1　概　要

4a層を掘り下げて検出した5層の上面を5面とし、遺構面調査を実施した。上下の遺構面と同様に、北西へ向かって面的に下がる地形を踏襲している。検出面の標高は、9.78 ～ 11.02m であったが、遺構が検出された範囲に限定すれば、9.8 ～ 10.8m となる。4a層は、調査区中央部から北西部にかけて存在のみであるため、部分的な掘削となっている。この4a層から備前焼の擂鉢や土師器の杯（Po70・71）が出土すること、また6面が中世段階の遺構面となることから、本遺構面についても、中世段階の遺構面と考えられる。

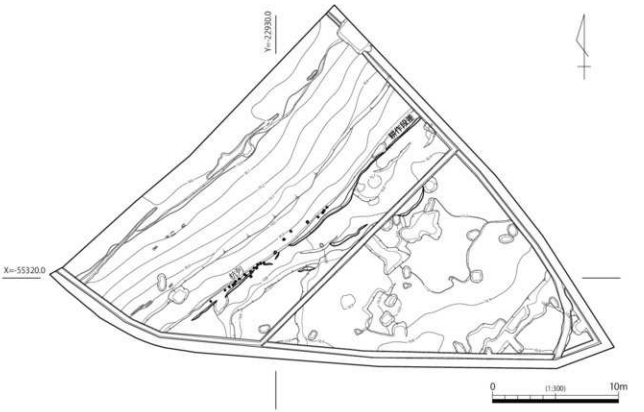
5面では、耕作段差を2ヵ所、また耕作溝を6条検出した。

2　調査の成果

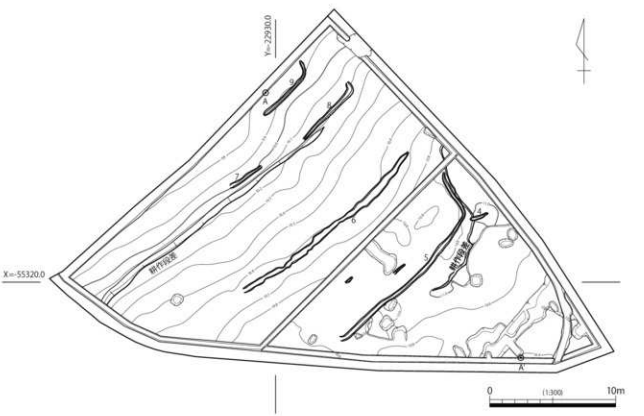
（1）耕作段差（第20図）

当該面において、耕作段差と認定できた箇所は2ヵ所である。西側の耕作段差を耕作段差a、東側を耕作段差bと称する。

耕作段差aは、上位面で確認した耕作段差とほぼ同じ位置関係を示しており、N－52°－E の軸方向を示す。調査区内で確認できた限り、この段差は約 22.5 m続き、調査区南西隅の調査区外へと延



第 17 図　４面遺構配置図



第 18 図　５面遺構配置図

伸していく。耕作段差aの裾で検出された4a層系統の粘質土を埋土とする耕作溝（7溝及び8溝）は、この段差に伴う蓋然性が高い。

耕作段差bは、耕作段差aから南東へおよそ15m離れて位置する段差である。明瞭な段差として検出されたのは、北東隅の一部のみで、南側部分は撹乱により破壊されたと考えられる。この段差は既述の耕作段差とは異なり、緩やかに屈曲して調査区北端へと進み、調査区外へと続く形状を成す。これは、調査区外北東側に位置する痩せ尾根によって地形的制約を受けたため、このような地割を呈していると考えられる。もしこの仮定が正しければ、この平面形態は当時の微地形に影響された土地区画を詳細に反映している可能性がある。この耕作段差に沿うように、同じく北東隅で北西方向に屈曲している耕作溝（5溝）も検出している。段差の屈曲部では、耕作溝（4溝）も検出した。

（2）耕作溝（第19・21図）

5面では、6条の耕作溝を検出した（4～9溝）。4・5溝は耕作段差bに、また7・8溝は、耕作段差aにそれぞれ付随する溝と考える。6溝及び9溝は、耕作段差と並行関係を成すものの、段差とは隣接しない位置に築かれている。いずれの溝も、旧地形の傾斜（等高線）とほぼ一致する。

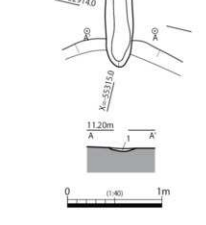
4溝は、耕作段差bの屈曲部頂点付近の2bグリッドに位置し、長さ1.5m、幅30cmを測る。深さは最深で6cmと非常に浅く、大部分は2cm程度である。走向はN－73°－Eである。検出規模が小さいため即断しかねるが、耕作段差bによって東西方向に区画されていた平坦面のうち、東側（谷奥側）の面が、この溝によってさらに南北方向に区画されていた状況も示唆される。

5溝は、耕作段差bの西側に沿うような位置関係を成し、耕作段差bの屈曲と同様、調査区北東側付近で屈曲する平面形態を成す。調査区南端付近から約14mの距離をほぼ北東の方向に進み（N－45°－E）、その後N－28°－Wへと向きを変え、約4m先で消失する。

6溝は耕作段差aとbの間に存在する溝である。当該面で検出した溝の中では最大規模であり、残存長17.2mを測る。調査区内で緩やかに湾曲しているが、5溝のように明らかな屈曲部分はなく、ほぼ等高線に沿うように、N－50°－Eの方向に直線的に延びる。

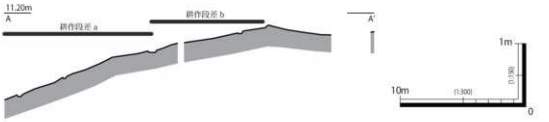
2dグリッドに位置する7溝の遺存状態は悪く、耕作段差aのすぐ西側において、約3m長検出したのみである。走向はN－55°－Eである。

8溝についても、7溝同様に耕作段差aの西側（下手側）に沿うように築かれている。N－43°－Eの方向性を持って約5.1m延び、その後急激に北西方向へ屈曲し（N－31°－W）、70cm先で消失する。屈曲する溝のプランは、前述の5溝及び後述の9溝と類似した性格を持つ。耕作段差bと5溝の関係性を適用させるならば、耕作段差aについても、おそらく調査区外において、旧地形に制約される形で北西側へ屈曲することが想定できよう。

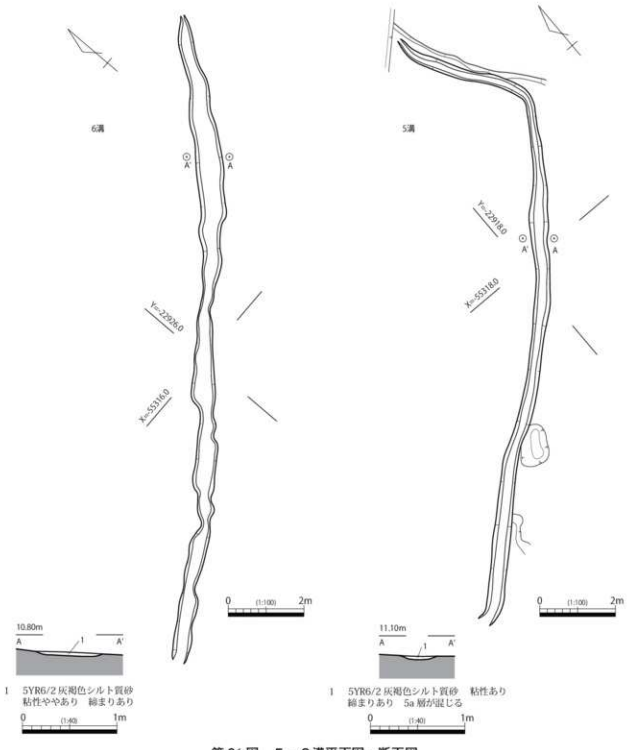


1　5YR6/2 灰褐色シルト質砂　粘性なし締まり弱い　5a層が混じる

第19図　4溝平面図・断面図



第 20 図　５面耕作段差断面図



第 21 図　５・６溝平面図・断面図

9溝についても、北東端付近が北西方向に短く屈曲する状況が確認されており、この付近にも尾根筋に沿った北西から南東方向の区画（もしくは耕作地の終端）が存在した可能性がある。9溝の規模は8溝のそれに近く、N－45°－Eの方向で約4.6m延び、その後急激に北西方向へ屈曲し（N－25°－W）、1.1m進んだ先で消失する。

この他、5溝の南西側（2cグリッド）では、5溝と並走する溝状の浅い掘り込みの痕跡を視認した。しかし、それらに関しては、検出規模が狭小であることや遺存状態が芳しくないこと等の理由から、遺構としては認定しなかった。おそらく、営農行為によって偶発的に生じたと推測されるこのような微細な利用痕跡は、当該面も含め類似する土地利用面において複数存在していたと思われるが、大部分は後世の開発等の関与によって消失してしまったと察する。

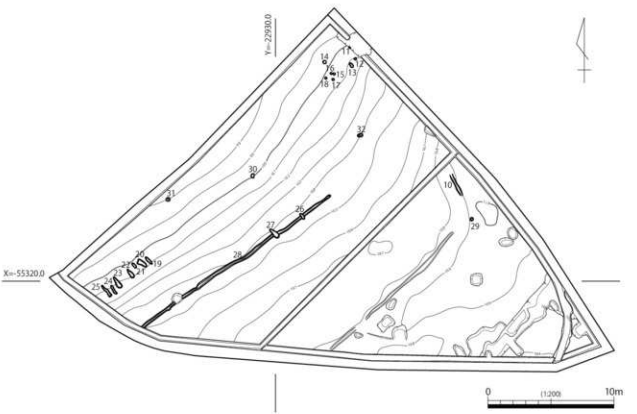
5面の時期は、検出遺構と4a層層相及び出土土器から判断して、中世の耕作面と考えられる。検出面における約4°という勾配からは、水田面とは想定し難く、5面は畠地として利用されたのだろう。

（水村）

第6項　6面（第22図、図版4）

1　概　要

5a層を掘り下げ検出した6a層の上面を6面とし、遺構面調査を実施した。当該面も北西方向へ下降していく平坦面である点は、上位の遺構検出面と同様である。調査区南東端から北西隅に向かって、約1mの比高差があり、28溝から西側の範囲は、特に傾斜角が大きくなる。5a層は、調査区中央部



第22図　6面遺構配置図

付近から北西部にかけて存在するが、中央部が最も厚く、周縁に向かって薄くなる。

当該面では溝２条、ピット12基、耕作溝を形成する溝群２条を検出した。時期については、5a層から出土した羽釜破片（Po72）及び下位の6a～8a層の出土遺物から、６面についても中世と考える。

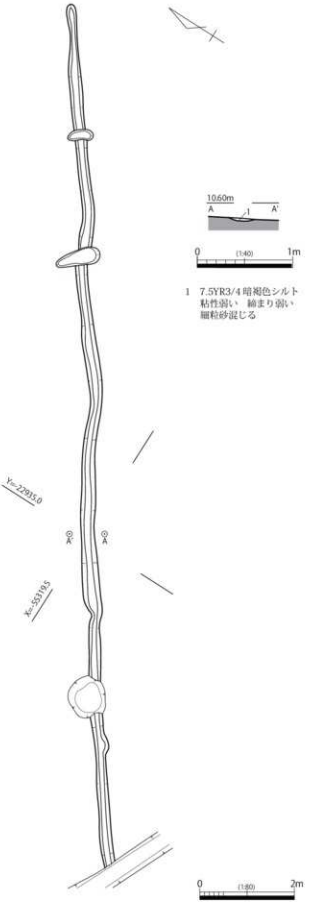
２　調査の成果

（１）溝（第23・24図）

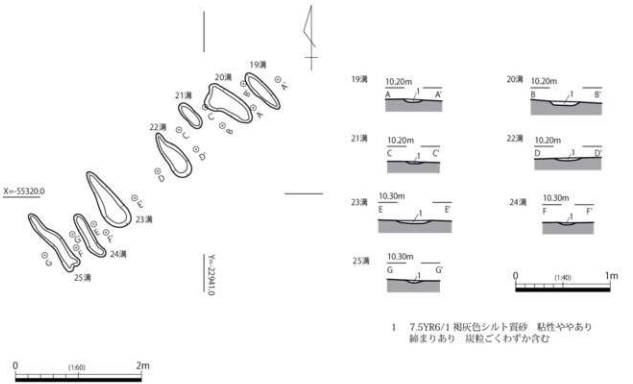
調査区東半で１条（10溝）、また西半で１条（28溝）の計２条の溝を検出した。2bグリッドで検出した10溝は、上位遺構面である５面検出の５溝とほぼ同じ位置にあり、N－25°－Wの向きで長さ約1.9ｍを測る。検出位置と軸方向からは、５面と同様に、耕作段差の裾を示す溝状遺構に該当する可能性が高い。この溝の周囲では、偶蹄目のものと見られる足跡が確認できた。蹄の先端部が２つに分かれていることが明瞭に視認でき、ウシの足跡と考えられる。この足跡は一方向に向かって連続的に並んでおらず、ランダムな状態で残存していることから、当該動物はこの場に留まっていた様子がうかがえる。

一方、28溝は遺跡が所在する谷部の旧地形の等高線に沿うように、N－56°－Eの方向で約18.2ｍ確認でき、調査区外南側へと続く。溝の幅は30cm前後と規格性がある。溝の緑には細砂が薄く入る箇所が見られることから、弱い水流を伴う溝として機能していた可能性がある。10溝及び28溝共に、後世の溝や耕作段差と同様な性格を持つ、一連の耕作関連遺構の一部であると考える。

19溝～27溝とした小溝は、その密集状況や不定形な平面形状、また法量等から、溝として個別に掘削され、それらが単体で



第23図　28溝平面図・断面図



第24図　19～25溝平面図・断面図

機能していたとは考えにくい。むしろ、これらは大きく分けて、19～25溝、及び26溝と27溝でユニットを形成し、それぞれが耕作関連遺構（耕作溝）であった可能性が高いと考える。

（2）ピット

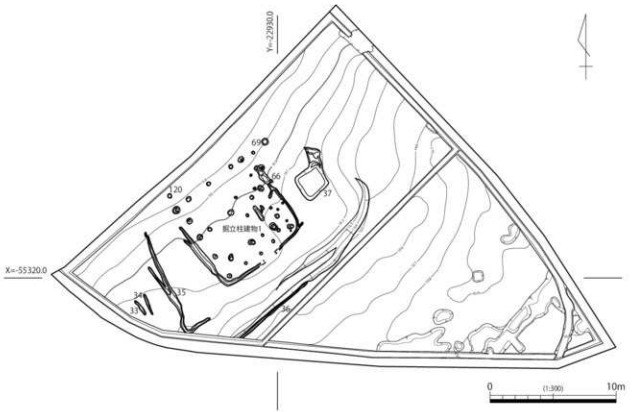
この遺構面では、12基（11～18ピット、29～32ピット）のピットを確認した。このうち8基（11～18ピット）は1cグリッドに密集しているが、特に意図的な並びを確認することはできず、その位置関係に特段の意味は見いだせない。この他の4基（29～32ピット）は、いずれも単独ピットである。これらは、径30～50cm程度の小規模のもので、平面形状も不定形なうえ時期決定に用いられ得る遺物も出土していない。このため、詳細な時期やその機能等については不詳である。　（水村）

第7項　9面（第25図、図版5～6）

1　概　要

9面は、砂質シルトである8a層を除去して検出した遺構面である。1～6面までは耕作面が続いたが、本面では中世の建物を検出した。

元の地形は谷の開口部に向かって下がる斜面であることから、建物とこれに関連する土坑の部分を方形に掘削、造成することにより、水平な平坦地を確保する。造成の範囲は長幅約14m、短幅役7mを測り、その周辺には斜面地が残る。遺構面の時期は13世紀頃で、主な遺構は掘立柱建物1棟・溝4条・土坑2基を検出した。



第 25 図　９面遺構配置図

２　調査の成果

（１）建　物（第 26 図）

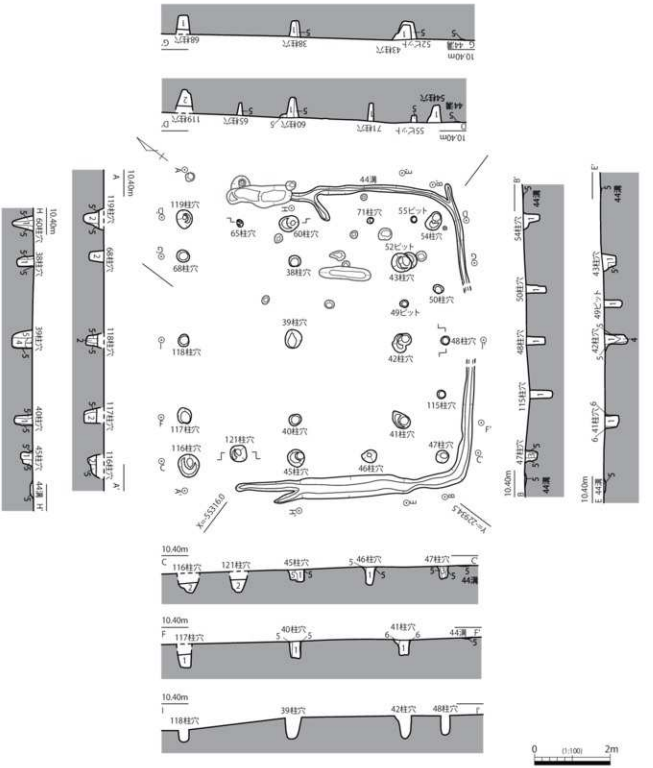
掘立柱建物１

2c・d、3d グリッドに位置する。３面の外周に柱穴列を配する２間×２間の掘立柱建物で、主軸方位は N － 37° －W、梁間約 4.2m、桁行約 5.8m を測る。谷の開口部に対して主軸を取る。

建物を構成する柱穴は 38 ～ 43、68・117・118 柱穴である。117・118 柱穴は本面で検出できなかったが下面で確認した。

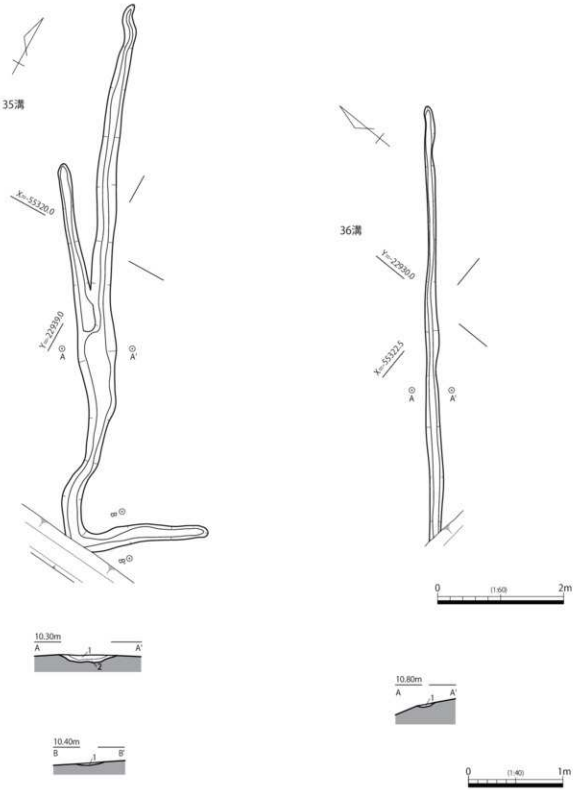
身舎の柱穴掘方はほぼ円形で直径 28 ～ 48cm、底面の高さは標高 9.35 ～ 10.6m を測る。斜面の傾斜にあわせて掘られており、深さ 62cm ともっとも深い 42 柱穴を除くと深さ 36 ～ 52cm である。梁間の柱間は 117 － 118 柱穴が 2.05m、118 － 68 柱穴が 2.20m、40 － 39 柱穴が 2.05m、39 － 38 柱穴が 2.10m、41 － 42 柱穴が 2.15m、42 － 43 柱穴が 2.05m を測る。桁行の柱間は 117 － 40 柱穴が 2.90m、40 － 41 柱穴が 2.90m、118 － 39 柱穴が 2.85m、39 － 42 柱穴が 3.00m、68 － 38 柱穴が 2.95m、38 － 43 柱穴が 2.95m を測る。相対する柱間はほぼ同じ長さである。

45 ～ 48・50・54・71・60・65・68・115・116・119 柱穴は、３面にある柱穴列である。115・116・119 柱穴は本面では検出できなかったが、下面で確認した。北西面の 116・119 柱穴は若干外側に開き、南東面中央の 48 柱穴は柱間のライン（B － B'）の外側にある。さらに、建物外周の３面を巡る雨落ち溝、44 溝を検出した。幅 10 ～ 28cm、深さ２～４cm を測る。外周の柱穴列の北西面が開いていることから、この面に入口がある妻入りの建物と考える。38・39・40・42・43 柱穴より土師器、47・54 柱穴より土師器・須恵器が出土した。47 柱穴は６世紀後半の須恵器杯蓋が出土したが、造成土から混入



1　N6/0 灰色粘土　粘性あり　締まり弱い
2　N6/0 灰色砂質粘土　粘性あり　締まり弱い
3　5YR4/3 にぶい赤褐色砂質シルト　粘性弱い　締まりあり　N4/0 灰色粘土混じる
4　N4/0 灰色粘土　粘性弱い　締まりあり
5　5YR4/3 にぶい赤褐色砂質シルト　粘性弱い　締まりあり　N6/0 灰色粘土混じる
6　5YR4/3 にぶい赤褐色砂質シルト　粘性弱い　締まりあり　炭化物混じる

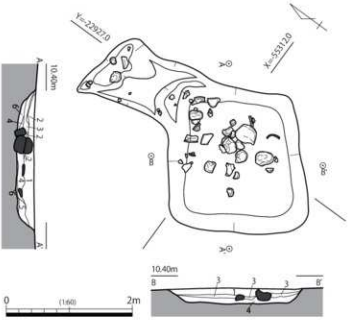
第 26 図　掘立柱建物 1 平面図・断面図



1　5YR4/3 にぶい赤褐色砂質シルト　粘性弱い　締まりあり
2　N6/0 灰色粘土　粘性あり　締まり弱い

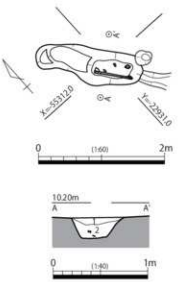
1　7.5YR7/1 明褐灰色極細粒砂　粘性なし　締まり弱い
5YR4/8 赤褐色砂質シルト混じる

第 27 図　35・36 溝平面図・断面図



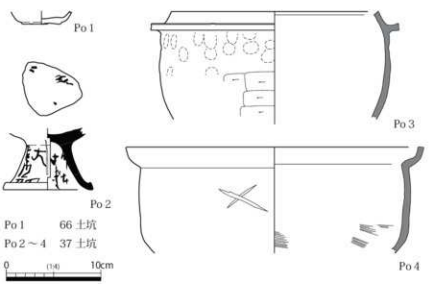
1　5YR4/3 にぶい赤褐色砂質シルト　粘性弱い　締まりあり
　　N6/0 灰色粘土が混じる
2　7.5YR7/1 明褐灰色極細粒砂　粘性なし　締まりなし
3　N6/0 灰色粘土　粘性あり　締まり弱い
　　極細粒砂混じる
4　N4/0 灰色粘土　粘性あり　締まり弱い
5　5YR4/3 にぶい赤褐色砂質シルト　粘性弱い　締まりあり
　　N6/0 灰色粘土が多く混じる
6　7.5GY7/1 明緑灰色粗粒砂　粘性なし　締まりなし

第 28 図　37 土坑平面図・断面図



1　5YR4/3 にぶい赤褐色砂質シルト
　　粘性弱い　締まりあり
　　N6/0 灰色粘土混じる
2　N6/0 灰色粘土　粘性あり　締まり弱い
　　粗粒砂混じる

第 29 図　66 土坑平面図・断面図



第 30 図　37・66 土坑出土遺物

した遺物で、遺構の時期を示すものではない。

遺構の時期を示す遺物は出土しなかったが、建物の北側の同じ平坦地内に隣接して37土坑がある。この遺構は軸線も同じで、建物に関連する遺構と考えられる。また、本面の包含層である8a層からも37土坑と同時期の瓦質羽釜・鍋が出土した。これらから、遺構の時期は37土坑と同時期、13世紀頃と考える。

（２）溝（第27図）

35溝

2d・e、3dグリッドに位置する。掘立柱建物１の南側、上る斜面に「L」字状に掘られた溝で、部分的に２条に分かれる。幅16～31cm、深さ３～８cmを測る。土師器が出土した。

36溝

2c、3c・dグリッドに位置する。段上に谷に直交するように掘られた溝で、幅８cm、深さ３cmを測る。土師器が出土した。

（３）土　坑（第28～30図）

37土坑

2cグリッドに位置する。掘立柱建物１の北側に位置する方形の土坑で、長辺2.28m、短辺2.16m、深さ28cmを測る。底部は平坦である。主軸方位は掘立柱建物１とほぼ同じであるが、北側に向かって埋土が流出したため拡張部ができている。遺物は瓦質羽釜・鍋、須恵器高杯の脚部、被熱した板状の自然石が出土した。

Po3の羽釜は焼成が良好で、瓦質土器の特徴である燻しがよく掛っている。口縁は内傾し口縁端部と鍔端部に面を作るようにヨコナデする。Po4の鍋は口縁部を「L」字状に屈曲させるもので、端部に面を作るようにヨコナデする。Po3・4は13世紀と考える。Po2の高杯脚部の内外面には墨書がある。墨書には文字と筆慣らしの２種類がある。遺物自体の時期は７世紀末であるが、墨書された時期は、書体から平安時代以降と考える（注１）。

遺構の時期は13世紀と考える。

66土坑

2dグリッドに位置する。掘立柱建物１の雨落ち溝、44溝に続く土坑で長辺1.73m、短辺58cm、深さ22cmを測る。土師器・須恵器、漆器の破片や自然木が出土した。

Po1は杯で、口縁を欠失する。底部の切離しは糸切りと思われる。　（西山）

第８項　10面（第31図、図版７～９）

１　概　要

10面は、砂質シルトである9a層を除去して検出した遺構面である。この面では、調査区北東壁に沿うように平坦地があり、その上から掘立柱建物や多くの遺構を検出した。平坦地を形成する10a層は自然に堆積したものではなく、破堤堆積（15－3b層）等を盛上げて造成した15－1a・2a層を、さらに攪拌して造られた。しかし、この平坦地は造成されたままの状況を表すものではなく、上層か

ら削平を受けている。平坦地の段下には遺物が集中して出土する部分があり、須恵質の土馬（Po87）、いわゆる陶馬が出土した。主な遺構は掘立柱建物1棟・ピット24基を検出した。遺構面の時期は平安時代と考える。

なお、本面より18面に亘って多くのピットを検出した。これらの遺構も度重なる造成面に関連するピットと考える。

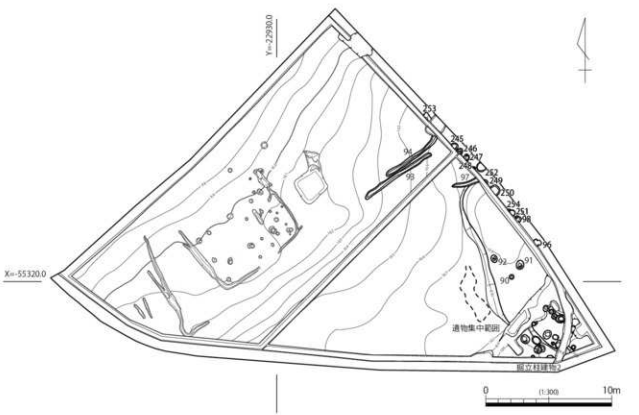
2　調査の成果

（1）建　物（第32図）

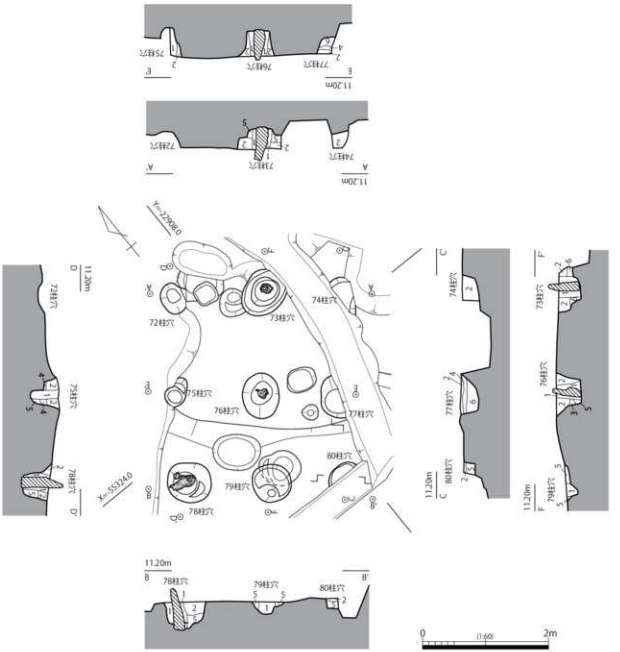
掘立柱建物2

3aグリッドに位置する。2間×2間の総柱建物である。建物を構成する柱穴は72～80柱穴で、主軸方位はN－52°－W、梁間約2.6m、桁行約3.3mを測る。

柱穴掘方は円形、もしくは楕円形で、遺存状態のよいものは直径58～72cm、底面の高さは標高10.25～10.59mを測る。78柱穴は極端に深いが、底面の高さは疎らである。梁間の柱間は72－73柱穴が1.45m、73－74柱穴が1.20m、75－76柱穴が1.40m、76－77柱穴が1.20m、77－79柱穴が2.15mを測る。桁行の柱間は72－75柱穴が1.60m、75－78柱穴が1.40m、73－76柱穴が1.67m、76－79柱穴が1.67mを測る。73・76・78柱穴には柱根が残っていた。遺物は柱材の他に土師器・須恵器が出土したが、ほとんどは周辺を造成した際の混入である。78柱穴の柱材は直径約17cmを測る。円形の柱で、周囲に面取りを施す。土師器・須恵器が出土した。柱痕より出土した須恵器は、内面に返りがある杯蓋片である。79柱穴の掘方でも同様の遺物が出土した。



第31図　10面遺構配置図



1　N4/0 灰色粘土　　粘性あり　締まりややあり
2　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト　　粘性ややあり　締まりややあり　N4/0 灰色粘土ブロック混じる
3　7.5YR7/1 明褐灰色極細粒砂　　粘性なし　締まりなし
4　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト　　粘性あり　締まりややあり　N4/0 灰色粘土ブロック・礫多く混じる
5　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト　　粘性ややあり　締まりややあり　N4/0 灰色粘土ブロック多く混じる
6　7.5YR6/1 褐灰色砂質シルト　　粘性弱い　締まり弱い

第 32 図　掘立柱建物２平面図・断面図

（2）溝（第33図）

93溝

2b・cグリッドに位置する。北東から南西に延びる溝である。幅37cm、深さ5cmを測る。土師器・須恵器が出土した。

本遺構は9面35溝と方位がほぼ同じで、9a層の下面遺構である。94溝と共に、同時期に機能した可能性がある。

（3）ピット（第33～36図）

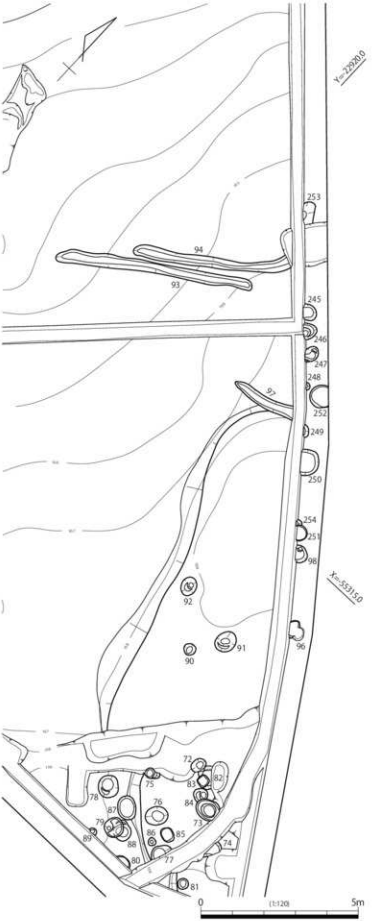
掘立柱建物2の北側と土層観察用のアゼ、北東壁内よりピットを検出した。

前述したように本面から18面の間で、類似したピットを多数検出した。調査区内へは、北東側にある丘陵から同じ土が何度も堆積してくる。そのため、包含層と遺構埋土の違いがなく、遺構の検出は困難であった。本報告書では、遺構は帰属する遺構面に戻して記述するが、帰属が明確でない場合は、検出した遺構面ごとに記述する。

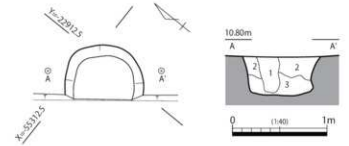
250ピット

2bグリッドに位置する。土層観察用のアゼ内より検出したピットで、上面は6a層に削平されている。掘方は隅丸方形気味で径83cm、深さ40cmを測る。柱根痕が観察できる。土師器・須恵器が出土した。

Po5は高台付の杯である。底部周縁より内側に、面を持つ低く小さい高台を貼付ける。口縁端部は小さく外反する。時期は8世紀末

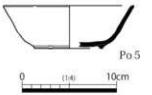


第33図　10面ピット群

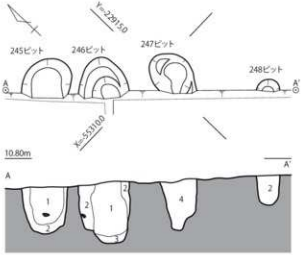


1　5YR3/4 暗赤褐色砂質シルト　　粘性ややあり　締まりややあり
2　7.5YR5/6 明褐色砂質シルト　　5B5/1 青灰色砂質粘土ブロック混じる
　　粘性ややあり　締まりややあり
3　5B5/1 青灰色砂質粘土　　7.5YR6/8 橙色砂質シルト混じる
　　粘性あり　締まりあり

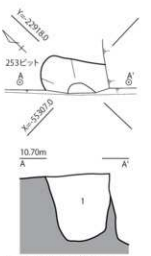
第 34 図　250 ピット平面図・断面図



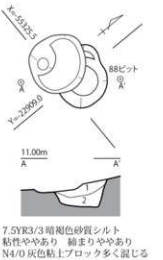
第 35 図　250 ピット出土遺物



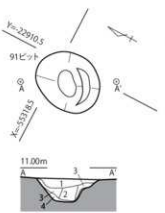
1　7.5YR6/8 橙色砂質シルト　　粘性ややあり　締まりややあり
2　7.5YR5/6 明褐色砂質シルト　　粘性ややあり　締まりややあり
3　5B5/1 青灰色砂質粘土　　粘性あり　締まりあり
4　7.5YR5/6 明褐色砂質シルト　　粘性ややあり　締まりややあり
　　7.5YR6/8 橙色砂質シルト混じる



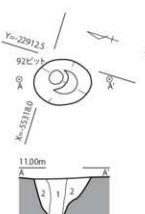
1　7.5YR6/8 橙色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり



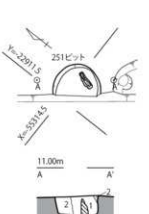
1　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり
　　N4/0 灰色粘土ブロック多く混じる
2　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり
　　N4/0 灰色粘土ブロック混じる



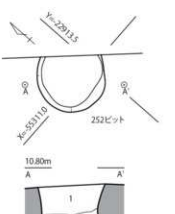
1　5YR4/8 赤褐色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり
2　N5/0 灰色粘土
　　粘性ややあり　締まりあり
3　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり
4　5B5/1 青灰色粘土
　　粘性あり　締まりややあり



1　7.5YR5/6 明褐色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり
2　7.5YR5/4 にぶい褐色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり



1　5B6/1 青灰色粘土
　　粘性あり　締まりややあり
2　7.5YR5/6 明褐色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり



1　7.5YR5/6 明褐色砂質シルト
　　粘性ややあり　締まりややあり
　　7.5YR6/8 橙色砂質シルト混じる
2　5B5/1 青灰色砂質粘土
　　粘性あり　締まりあり

第 36 図　10 面その他のピット平面図・断面図

から9世紀前半頃と考える。

91ピット

2bグリッドに位置する。掘方は楕円形で長径72cm、短径60cm、深さ25cmを測る。柱痕が観察できる。土師器が出土した。

92ピット

2bグリッドに位置する。掘方は楕円形で長径61cm、短径48cm、深さ42cmを測る。柱痕が観察できる。土師器が出土した。

251ピット

2bグリッドに位置する。北東壁土層観察用のアゼ内より検出した。掘方は楕円形で径51cm、深さ22cmを測る。板状の柱根を検出している。土師器・須恵器が出土した。

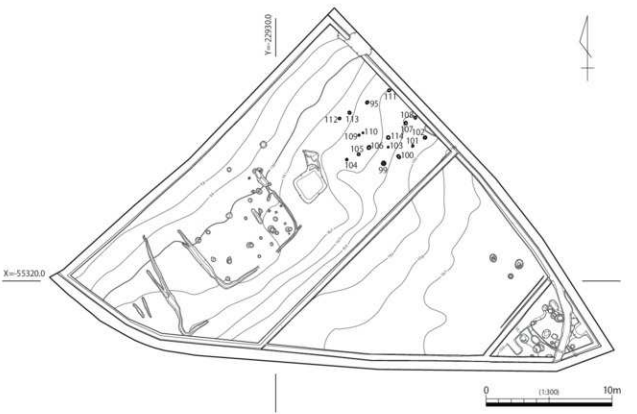
252ピット

2bグリッドに位置する。北東壁土層観察用のアゼ内より検出した。北東端は調査区外へ延びる。掘方は楕円形で径71cm、深さ48cmを測る。土師器・須恵器が出土した。　（西山）

第9項　11面（第37図、図版10－1・2）

1　概　要

11面は、10a層の砂質シルトを除去して検出した遺構面である。10a層は調査区中央では北東壁に沿うように、東側では平坦地状に堆積する。主な遺構は杭列3条を検出した。



第37図　11面遺構配置図

２　調査の成果

（１）杭　列（第 38 図）

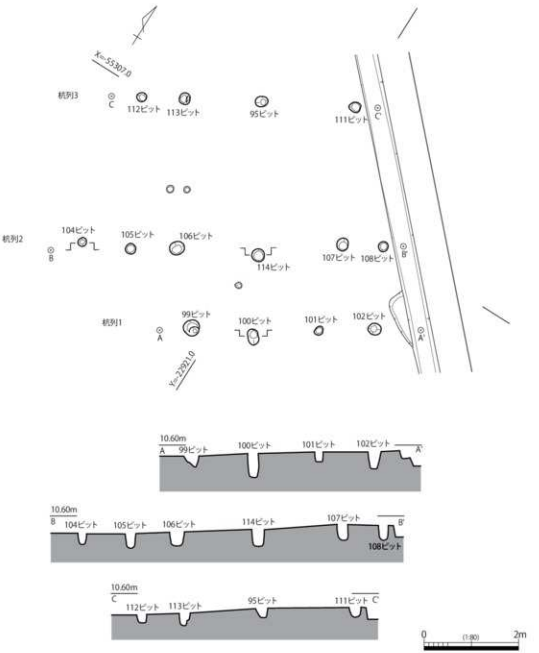
３条の杭列は、共に軸線方位は N － 60° － E を示す。しかし、同時期の遺構であるかどうかは不明である。

杭列１

1c グリッドに位置する。99 ～ 102 ピットの４つのピットで構成する。ピットは円形で 99･101 ピットは径 10cm、深さ 10cm、101･102 ピットは径 10cm、深さ 18 ～ 25cm を測る。浅いピットと深いピットが交互に掘られている。99・100・102 ピットから土師器片が出土した。

杭列２

1b・c、2c グリッドに位置する。104 ～ 108・114 ピットの６つのピットで構成する。ピットは円形



第 38 図　杭列１・２・３平面図・断面図

で径9～12cm、深さ9～13cmを測る。106ピットから土師器片、107・108ピットから土師器・須恵器片が出土した。

杭列3

1b・cグリッドに位置する。95・111～113ピットの4つのピットで構成する。ピットは円形で径8～14cm、深さ12～18cmを測る。111・113ピットから土師器片が出土した。（西山）

第10項　14面（第39図、図版10－3・11－1）

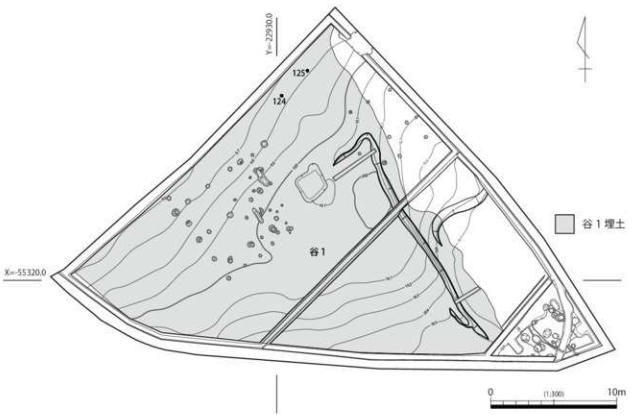
1　概　要

14面は、11a層の砂質シルト、谷1の上層に堆積する12a層の砂質シルトと斜面下に堆積する13a層のシルト質砂を除去して検出した遺構面である。

本面から新たに谷1の落ち込みが始まり、ふたたび平坦地部と谷部に分かれる。今回の検出では、10面の掘立柱建物2に関連する建物遺構やピットの検出が予想されたため、谷1の上層を除去し、遺構の検出を行った。

しかし、10面から本面にいたる間、谷1の範囲で関連する遺構は検出できなかった。この掘削により、10面で検出した掘立柱建物2の柱穴底面と近い高さになる。このことから、当初より谷部の上面まで建物が広がっていなかった可能性が高いことを確認した。

谷1上層より10世紀頃の土師器杯（Po105）が出土しており、平安時代の堆積と考える。遺構はピット2基を検出した。



第39図　14面遺構配置図

2　調査の成果

（1）ピット

1c グリッドで 124・125 ピットを検出した。6 面ではこの辺りに杭穴を検出しており、これらは上層からの遺構と思われる。遺物は出土しなかった。　（西山）

第 11 項　15 面（第 40 図、図版 11 － 2 ～ 13）

1　概　要

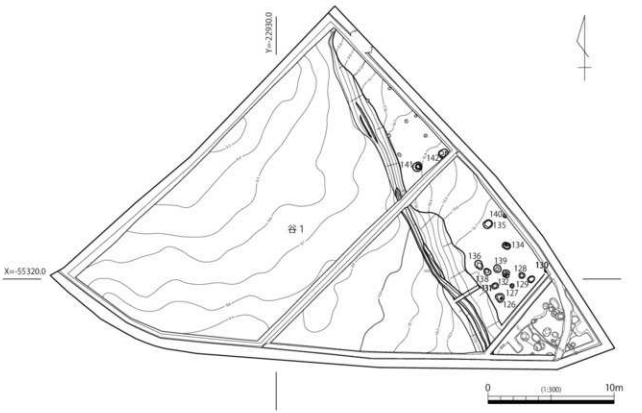
15 面は、谷 1 の下層に堆積する 14 － 1a 層のシルト質砂、14 － 2a 層の砂質シルト、15 － 3b・4b 層の細～粗粒砂を除去して検出した遺構面である。15 面の基盤層は、後述するように出土遺物の散乱から 16 面の 256 流路、または 257 溝の破堤堆積（15 － 3b 層）を盛上げ造成したことが分かっている（P.52 参照）。また、調査区北東側の丘陵からの土が混じっている。このため、基盤層内に弥生時代から古代の遺物が混在する。谷 1 下層より 6 世紀後半から 8 世紀頃の遺物が出土しており、これ以降にできた谷と考える。遺構は溝 1 条・ピット 15 基を検出した。

2　調査の成果

（1）溝（第 41 ～ 43 図）

143 溝

1c、2b・c、3b グリッドに位置する。調査区東から北に向けて存在する平坦面の斜面の下にあり幅

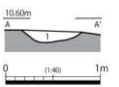


第 40 図　15 面遺構配置図

約12cm、深さ約12cmを測る。北側と中央部では残りが悪く途切れる。前述したように15面の基盤層は造成土であるため、弥生時代から古代の遺物が出土した。土師器（Po12）・須恵器（Po6～11）が出土した。

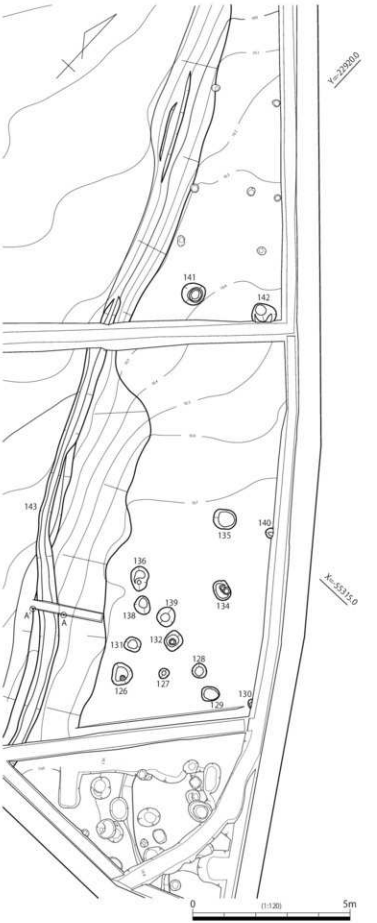
Po6・7は底部から体部が内湾気味に立上がる杯である。Po6は底部外面を回転ヘラケズリ、Po7は回転糸切りする。Po8は体部の立上がりが丸みをおびた高台付の杯である。底部から体部が内湾気味に立上がる杯に高台を付したものである。Po10は短頸壺である。Po11は外面にタタキを施す大型の短頸甕である。外面のタタキの後、帯状に間隔をあけて横方向のカキメを施す。口縁端部は若干肥厚し、丸く収める。Po12は甕である。口縁の接合部分にできた段をナデ消さず、複合口縁の名残りを残す。端部は内傾し、外側へ小さく折り返す。全体に器壁は厚く、胴部はほぼ球形である。古墳時代中期頃と考える。

遺構の時期は、Po12が15面の造成土からの混入したであるこ

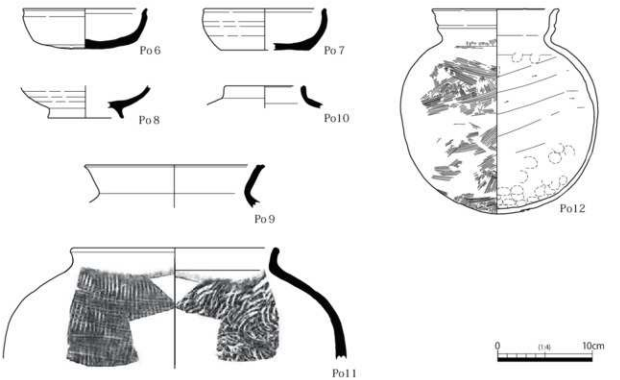


1　10YR7/1 灰白色中粒～粗粒砂
粘性なし　締まりなし

第42図　143溝断面図



第41図　143溝・15面ピット群



第43図　143溝出土遺物

とから、Po7の杯とPo10の短頸壺より8世紀頃と考える。

（2）ピット（第41・44図）

ピットは、10面で検出した範囲に加え、調査区北東側の平坦地が西に向かって伸展した部分でも検出した。

126ピット

3bグリッドに位置する。掘方は楕円形で長径72cm、短径64cm、深さ21cmを測る。柱痕が観察できる。土師器・須恵器が出土した。

129ピット

2a・3aグリッドに位置する。掘方は楕円形で長径57cm、短径44cm、深さ35cmを測る。柱根を検出した。柱根の他、土師器が出土した。

131ピット

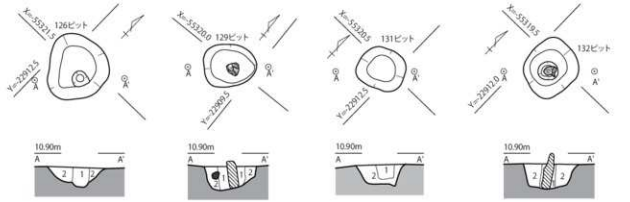
3bグリッドに位置する。掘方は隅丸方形で長径50cm、短径44cm、深さ21cmを測る。柱痕は観察できるが、この底面はピット底面に達していない。土師器・須恵器が出土した。

132ピット

2bグリッドに位置する。掘方は歪な隅丸方形で長径60cm、短径54cm、深さ27cmを測る。柱根を検出した。土師器の低脚杯が出土したが、これも143溝と同様に造成土からの混入である。

134ピット

2bグリッドに位置する。掘方は楕円形で長径65cm、短径50cm、深さ38cmを測る。柱痕が観察



第 44 図　15 面その他のピット平面図・断面図

できる。土師器が出土した。

136 ピット

2b グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径 79cm、短径 52cm、深さ 61cm を測る。土師器・須恵器が出土した。

138 ピット

2b グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径 60cm、短径 49cm、深さ 24cm を測る。土師器・須恵器が出土した。

141 ピット

2b グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径 74cm、短径 70cm、深さ 69cm を測る。柱痕が観察できる。口縁端部が外反する、平安時代の須恵器杯の小片の他、土師器・須恵器が出土した。

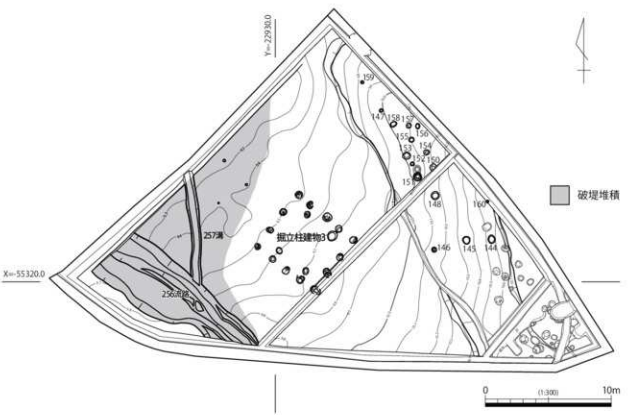
142 ピット

2b グリッドに位置する。掘方は楕円形で径約 77cm、深さ 54cm を測る。板状の柱根を検出した。柱根底面はピット底面に達していない。土師器・須恵器が出土した。　（西山）

第 12 項　16 面（第 45 図、図版 14 ～ 17）

1　概　要

16 面は、15 層の砂質シルト等を除去して検出した遺構面である。この面では 14 面で現れた平坦地の基盤になる 14 層を除去すると、東側に 15 － 1a・2a 層の砂質シルト、南側から西側に向かって 15



第 45 図　16 面遺構配置図

－3b･4b層の粗～細粒砂が堆積していた。15－3b･4b層は破堤堆積に起因する堆積で、多くの遺物、特に祭祀関連遺物が出土した。遺構は掘立柱建物1棟・ピット16基を検出した。

なお、掘立柱建物3は、16面に帰属する遺構であることを中央トレンチの土層観察で確認している。しかし、16層と柱穴の埋土が酷似しており、本面で柱穴を検出できなかったので17面で調査を行った。そのため、ここでは元の面に戻し記述した。

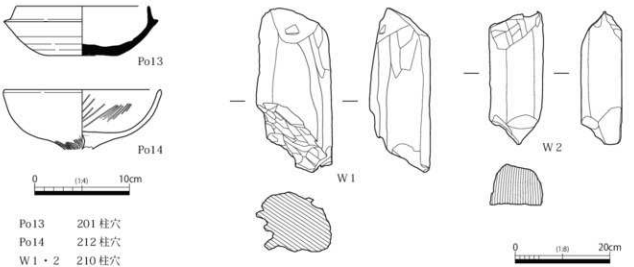
2　調査の成果

（1）建　物（第46・47図）

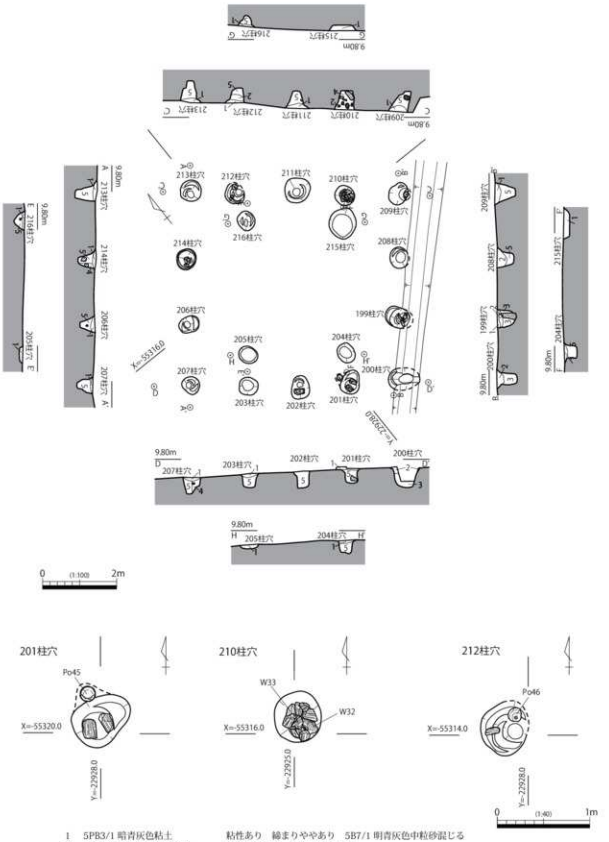
掘立柱建物3

2c・dグリッドに位置する。3間×4間の掘立柱建物で、主軸方位はN－51°－W、梁間約5.1m、桁行約5.8mを測る。内側には1間×1間の柱穴を検出した。

外側の柱穴掘方は円形、もしくは楕円形で直径44～94cm、底面の高さは標高8.81～9.13mを測る。四隅の柱穴は他より若干深い。209柱穴はやや南東側へ斜めに掘られている。柱間は207－206柱穴が1.65m、206－214柱穴と214－213柱穴が1.75m、212－213柱穴が1.30m、211－212柱穴が1.55m、210－211柱穴が1.30m、209－210柱穴が2.10m、208－209柱穴が1.70m、199－208柱穴が1.65m、199－200柱穴が1.65m、200－201柱穴が1.50m、201－202柱穴が1.35m、202－203柱穴が1.40m、203－207柱穴が1.60mを測る。相対する柱間はほぼ同じ長さで、北東・南西間が広い。内側の柱穴掘方も円形、もしくは楕円形で直径45～82cm、底面の高さは標高9.15～9.37mを測る。外側の柱穴より浅い。215柱穴は、特に直径が大きく浅い。柱間は205－216柱穴が3.6m、216－215柱穴が2.6m、204－215柱穴が3.5m、204－205柱穴が2.6mを測る。相対する柱間はほぼ同じ長さで北西・南東間が広くとられており、北東・南西面は外側の柱穴列との間は5～36cmしかなく狭い。199柱穴から直径約20cmの柱根、201・210・214柱穴から切り刻まれた木片が出土した。210柱穴からも同様の木片が10片出土した。出土状況より、柱穴を埋める際に廃棄したと思われる。遺物は201柱穴から須恵器、212柱穴からは土師器高杯、木片が出土した。



第46図　201・210・212柱穴出土遺物



1　5PB3/1 暗青灰色粘土　　粘性あり　締まりややあり　5B7/1 明青灰色中粒砂混じる
2　5PB4/1 暗青灰色砂質粘土　　粘性ややあり　締まりややあり
5B7/1 明青灰色中粒砂と 10YR8/1 灰白色中粒砂ブロック混じる
3　5B3/1 暗青灰色粘土　　粘性あり　締まりややあり　5G7/1 明緑灰色極細粒砂ブロック混じる
4　5Y3/1 オリーブ黒色粘土　　粘性あり　締まりなし
5　5Y3/1 オリーブ黒色粘土　　粘性あり　締まりなし　5B7/1 明青灰色中粒砂混じる

第 47 図　掘立柱建物３平面図・断面図

Po13は杯身である。胎土はやや粗く、焼成が悪いため土師質である。口縁端部に沈線や面はない。6世紀後半と考える。Po14は高杯杯部で脚部を欠失する。杯部と脚部の接合部にはハケメ、内面にはヘラミガキを施す。

W1・2は木片である。両端を乱切りするが製品を作るための加工ではなく、単に切り刻んだだけと思われる。柱等の建築部材として使用されていたものを切り刻み、廃棄したものと考える。

遺構の時期は、201柱穴出土の杯身から6世紀後半頃と考える。

（2）流路・溝（第48～52図）

256流路

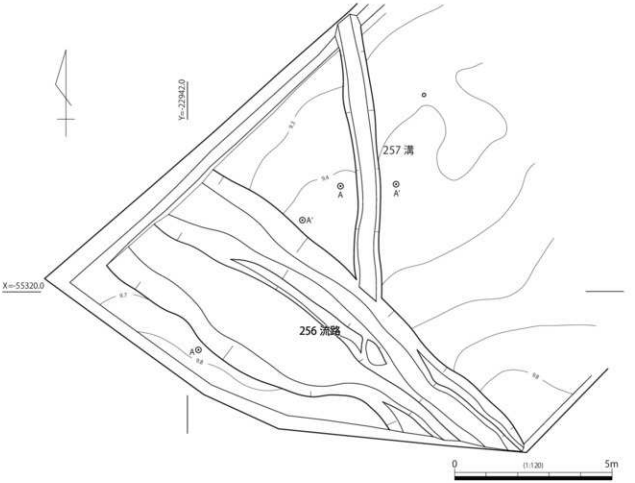
2d・e、3c・d・eグリッドに位置する。谷の南側を走る流路で、主軸方位N－49°－W、幅2.6～4.7m、深さ39cm～47cmを測る。埋土は激しく土砂が一気に流れたため、粗～細粒砂で角礫を多く含む。同一の埋土は広範囲に堆積しており、流路は破堤して周辺へ溢流したと考える。ここでは流路としたが、土石流が流れた痕跡の可能性もある。多くの土師器・須恵器・木製品が出土した。

なお、遺物の取り上げについては、埋土が同じであるため、256流路・257溝・破堤堆積で分けていない。

遺物は、同一個体が広範囲に散乱した状態で出土するという特徴がある。例えば、須恵器甕（Po45）は流路部分の他、周辺の溢流堆積物内からも出土した。他にも須恵器甑（Po44）は、10a層（1bグリッド）・11a層（1c・2cグリッド）・14－3a層（1cグリッド）・15－1a層（2bグリッド）・15－3b層（2dグリッド）・15～16層（2bグリッド）に亘って出土した。15－3b・4b層は自然堆積層なので、この層自体に、人為的に攪拌された痕跡は見いだせない。これは破堤堆積が検出した以上に厚く堆積しており、後世の堆積や造成の際に攪拌され移動したことを示している。このような場合、取上げ状態にやや難もあるが、出土した最下層である破堤堆積（15－3b層）の中に含まれていた遺物として考える。土師器・須恵器の他、木製品、特に祭祀関連遺物が出土した。

甕は、Po15の体部が張ったものと、Po16～20の張らないものに分類することができる。体部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。表面磨滅のために調整が不明なものもある。Po19は小型の甕、Po21・22は竈の庇、Po23～25は土製支脚である。

杯蓋のうち、Po26～30はほぼ同じ時期で陶邑Ⅱ－5～6、TK209～217併行と考える。Po30は外面に漆が付着する。Po31は口縁端部に内傾する凹面、外面に稜がある。やや扁平で古相を示し、陶邑Ⅱ－2、TKIO併行と考える。Po32～36は杯身である。Po33は小型で立上がりが小さく、平底である。内面にハケメ状の痕を残す。Po36は口径が大きい。Po37は無蓋高杯で、脚部には穿孔はなく端部を折り返す。Po38の高杯は脚部に透かし窓を穿つ。Po39は脚付きの鉢である。口縁端部を外反する。Po41の壺は直口する口縁を持ち、頸部に2条の沈線を巡らす。Po42は平底の鼈で、頸部に1条、体部2条の沈線を施す。Po43は底部に皿状の円盤を付けた鉢である。比較的立上がりが低い。器壁は厚く、体部外面に2条の沈線を施す。底部に直径2mmの穿孔を外面に51ヵ所、内面に14ヵ所施すが、うち貫通するのは7ヵ所である。Po44の甑は、胎土は精良であるが、焼成は悪い。還元されておらず軟質で、瓦質の状態である。体部に2条、または3条の沈線を巡らせ、間にハケメの調整を行う。口縁は帯状に肥厚し、底部に方形と思われる穿孔がある。Po45の大型の甕は、口縁端部をやや帯状に肥厚させ、沈線と荒い波状文を施す。底部は大きく焼け歪む。



256 流路

1　7.5Y7/1 灰白色層～粗粒砂
　　粘性なし　締まりなし
　　３～ 10cm 大の角礫多く含む

257 溝

1　7.5Y7/1 灰白色層～粗粒砂
　　粘性なし　締まりなし
　　３～ 10cm 大の角礫多く含む

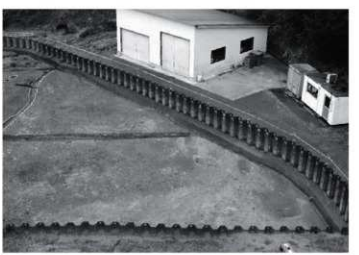
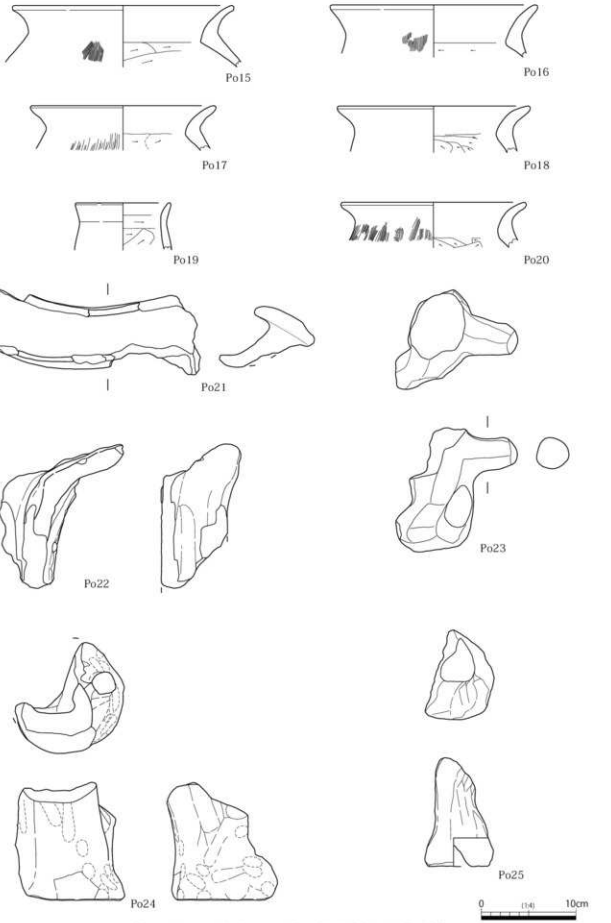
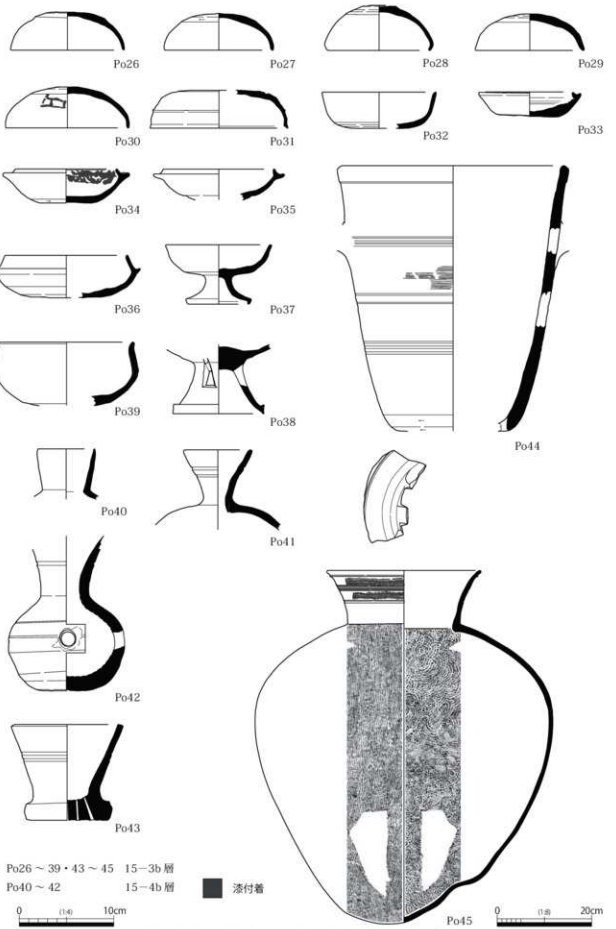


写真１　破堤堆積検出状況（北西から）

第 48 図　256 流路・257 溝平面図・断面図



第49図　256流路・257溝・破堤堆積出土遺物（1）



第50図　256流路・257溝・破堤堆積出土遺物（2）

W3～20・Po46は祭祀に関連すると考える木製品・土製品である。W3～7は木製の形代類、W8～12は斎串、W13～20は燃えさし、Po46は土製の玉類である。

W3は馬形である。尻から尾を欠失しており、馬の頭から胴にかけて表した部分である。背部を欠損する。表現の方法は抽象的で、薄材状に加工した板に切込みを入れる「切欠き」によって馬を表す。目等が墨書されている場合もあるが、ここでは確認できなかった。頭部にあたる端部は、曲線をだすために丁寧に加工する。口を表現した切欠きは非常に小さく、胴を表わす切欠きは左右の角度が異なる。

W4は舟形である。半身を欠失しているが、左右対称に作られていたとしてよいだろう。端部を圭頭に加工し舟の舳先を表現する。内側は刳り抜き、舳先側はやや丸みをもって表現する。艫側は大きく欠損しているが、内側は外側の輪郭に沿って刳り抜かれているようである。W5も小片であるが舟形と考える。

W6・7は武器形である。共に先端部を欠失しており、細部は不明であるが、剣形か刀形と考える。W6は柄尻を圭頭に切り落とす。W7は柄の部分も欠失する。

W8～12は斎串である。斎串はただ木材を割っただけではなく、面と端部を加工するものとした。W8は片方の端部を欠失するが、切り落とす角度が浅い。刀形の刃である可能性もある。W7は両方の先端を同じ方向に斜めに切り落とす。長辺の幅は欠失している。W10は両端を別方向に切り落とす。W11はW9と同じ角度で切り落とすが、片方の端部を欠失する。W12は両端を切り落とす。上端はW9と同じ角度だが、下端は一度中程まで切り落とし、さらに先端を細く尖らせる。

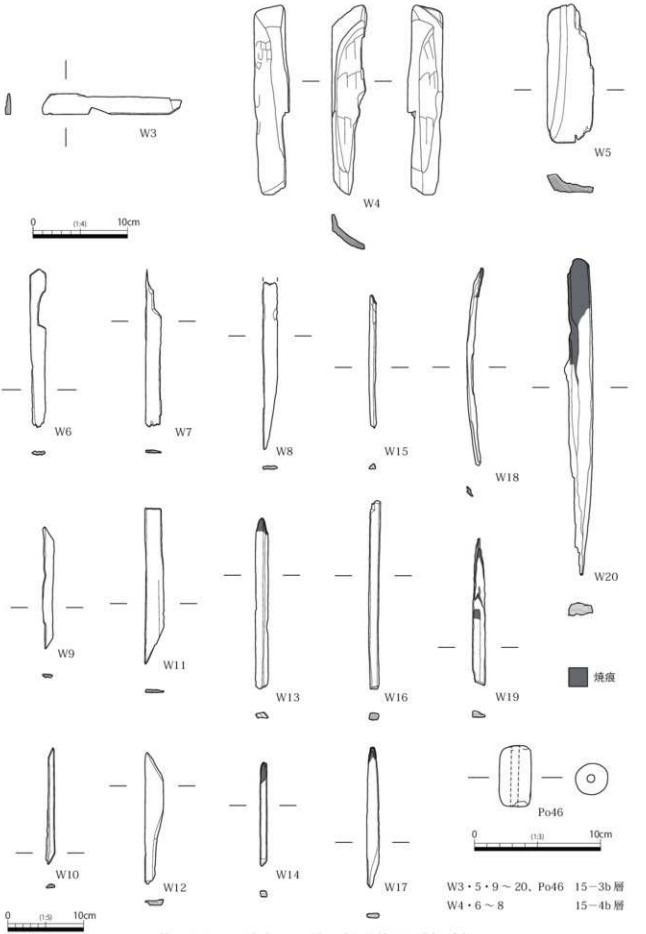
W13～20は薄く、または細く籤状や短冊状に割った木片である。端部を斜めに切り落としたものや焼痕を残すものがある。W13～17は籤状に割った木片である。W13～15は上端に焼痕を残す。W16には焼痕がない。W17は焼痕を残しているが、下端を斜めに切り落とす。W18は焼痕を残すが、原材料を割っただけのものである。W20は大きく下部を尖頭状に切り落とす。しかし、表面を平滑にする加工は行われておらず、原材料を割っただけである。

Po46は土師質の円柱状製品で、小口には貫通する孔を穿つ。形態から玉と土錘の区別はつきにくいが、破堤堆積の中に祭祀関連の遺物が多いことから玉類とした。(注2)。

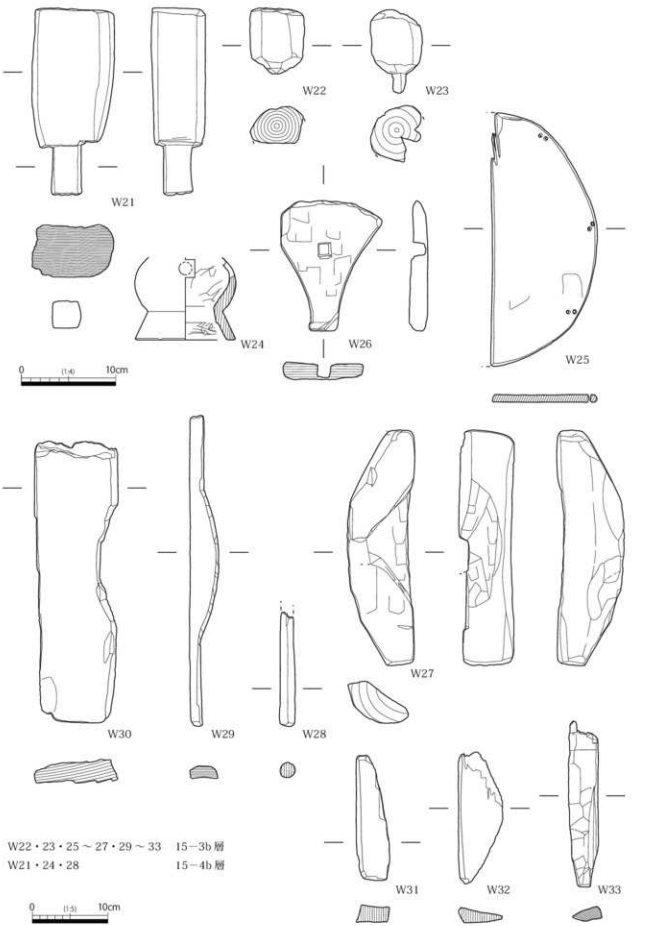
W21の横槌は握りの端を欠失する。身（鼓打部）・握り共に断面方形で、芯持ち材ではない。

W22・23は芯持ちの円柱材を削るもので、独楽状の木製品と思われる。W23は芯状に先端を細く削り出しが残る。W24は用途不明である。W25は曲物の底板である。縁に沿って、2つ対になった円形の孔を3ヵ所穿つ。W26は銀杏葉状の板状製品で、中央に貫通しない方形の包枘穴を穿つ。細い側の端を一段下げ、面取りを行う。W27は斗状の木製品である。半裁の状況での出土と考えられ、中央に逆三角の孔、その頂点の下に小さい方形の孔を穿つ。W28・29は棒状木製品で、W29は中央に半円形状の突出部がある。W30～32は板状木製品、W33は杭の先端である。

256流路の時期は、出土遺物の時期差が大きく判定が難しい。この原因は、破堤堆積という性格からくる。これは周辺の遺物を巻き込んだ堆積であり、時期差を持った遺物が混在するからである。土器では弥生土器片も含まれていたが、時期は古墳時代後期から7世紀に集中する。実測可能な遺物でもっとも新しいと考られる土器は須恵器の鉢（Po43）であろう。8世紀頃と考える。木製品では、出土遺物の特徴である祭祀関連の遺物は律令期のものとされ、馬形や武器形の切欠きの角度等から概ね8世紀と考える。



第51図　256流路・257溝・破堤堆積出土遺物（3）



第52図　256流路・257溝・破堤堆積出土遺物（4）

この祭祀具は水の祭祀に関連する遺物であることから、破堤が発生する以前に溝・流路等が存在したことが窺える。

257 溝

2d・3d グリッドに位置する。256 流路の下面を斜行するしていたと考えられる溝で、主軸方位 N－5°－W、幅約 90cm、深さ 18～28cm を測る。埋土は破堤時に一気に堆積したため、256 流路と同じであり、分けることはできなかった。

（3）ピット（第 53・54 図）

北東壁に沿った平坦地の部分では、造成に使用した 15－1b・2b 層を除去した後も、続いてピットを検出した。多くのピットは浅く、上層より掘られたと考える。

145 ピット

2c グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径 62cm、短径 60cm、深さ 32cm を測る。土師器・須恵器が出土した。

146 ピット

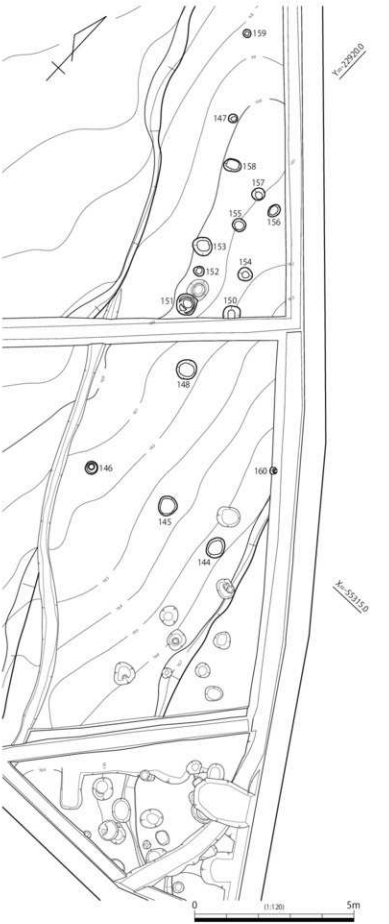
2c グリッドに位置する。掘方は円形で径約 40cm、深さ 13cm を測る。柱痕が観察できる。土師器・須恵器が出土した。

148 ピット

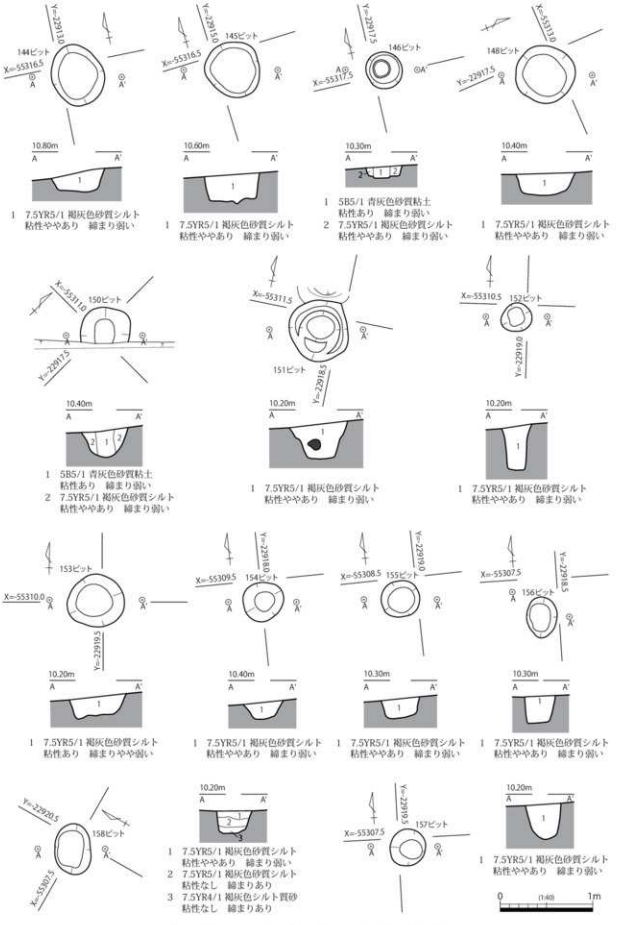
2c グリッドに位置する。掘方は円形で径 62cm、深さ 24m を測る。土師器が出土した。

150 ピット

2c グリッドに位置する。掘方は隅丸方形気味で幅 54cm、深さ 29cm を測る。柱痕が観察できる。



第 53 図　16 面ピット群



第 54 図　16 面その他のピット平面図・断面図

土師器・須恵器が出土した。

151 ピット

2c グリッドに位置する。掘方は円形で径約 60cm、深さ 24cm を測る。掘方と柱痕から土師器・須恵器が出土した。

155 ピット

1c グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径 42cm、短径 39cm、深さ 21cm を測る。土師器が出土した。（西山）

第 13 項　17 面（第 55 図、図版 18 － 1・2）

1　概　要

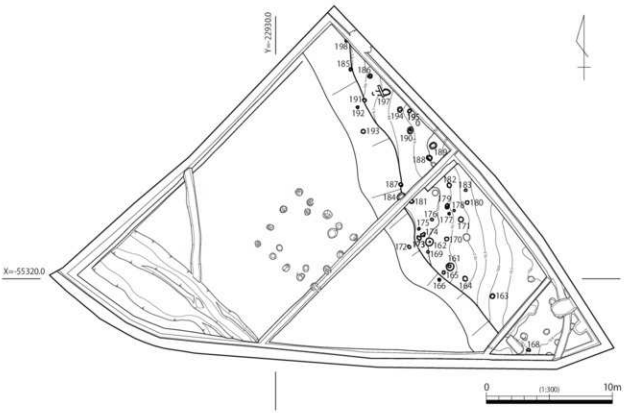
17 面は、16 層の砂質シルトを除去して検出した遺構面である。北東側にあった平坦地部分の下面では続いてピットを検出した。遺構は土坑 1 ・ピット 34 基を検出した。

2　調査の成果

（1）土　坑（第 57 図）

197 土坑

1c グリッドに位置する。溝状に広がる焼土坑で長さ 1.44m、幅 51cm、深さ約５cm を測る。周辺は被熱しており、遺構内にも焼土が残っていた。土師器片が出土したが、時期は不明である。



第 55 図　17 面遺構配置図

（2）ピット（第56・58図）

16面に引き続いて、平坦地の下の部分から、上層より掘られたピットを検出した。深さは、さらに浅くなる。

161ピット

2bグリッドに位置する。掘方は円形で径63cm、深さ9cmを測る。きわめて浅いが、柱痕が観察できる。土師器片が出土した。

162ピット

2bグリッドに位置する。掘方は円形で径63cm、深さ7cmを測る。遺物は出土しなかった。

163ピット

3bグリッドに位置する。掘方は円形で径約39cm、深さ8cmを測る。土師器片が出土した。

164ピット

2b・3bグリッドに位置する。掘方が隅丸方形気味のピットで、幅54cm、深さ29cmを測る。遺物は出土しなかった。

177ピット

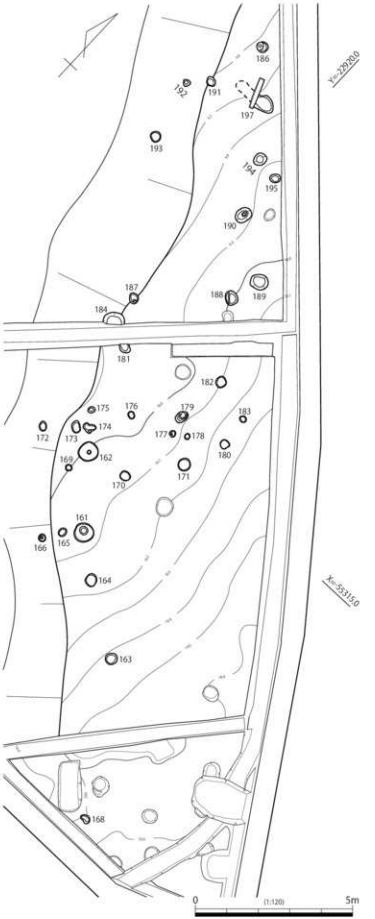
2bグリッドに位置する。掘方は楕円形で径約20cm、深さ6cmを測る。遺物は出土しなかった。

179ピット

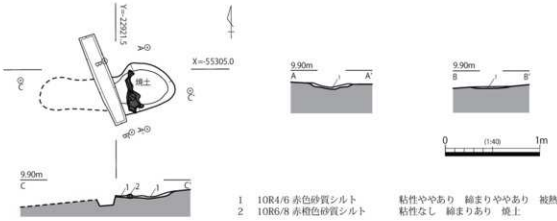
2bグリッドに位置する。掘方は楕円形で長径44cm、短径31cm、深さ13cmを測る。柱痕が観察できる。遺物は出土しなかった。

190ピット

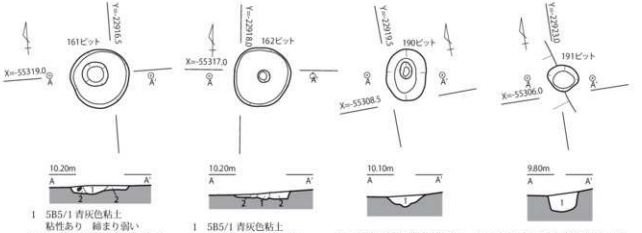
2bグリッドに位置する。掘方は楕円形で長径55cm、短径42cm、深さ12cmを測る。底面に柱痕が観察できる。土師器片が出土した。　（西山）

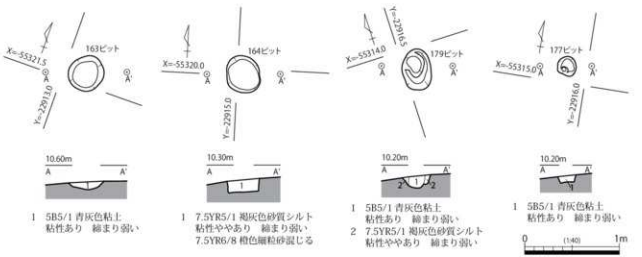


第56図　17面ピット群



第 57 図　197 土坑平面図・断面図





第 58 図　17 面その他のピット平面図・断面図

第14項　18面（第59図、図版18－3～20）

1　概　要

18面は、17－1a・2a層の砂質シルトを除去して検出した遺構面である。北東側にあった平坦地の部分を除去したことになり、調査区内は比較的平坦になる。平坦地部分の下面では続いてピットを検出した。主な遺構は竪穴建物2棟、杭列2条である。

2　調査の成果

（1）建　物（第60～62図）

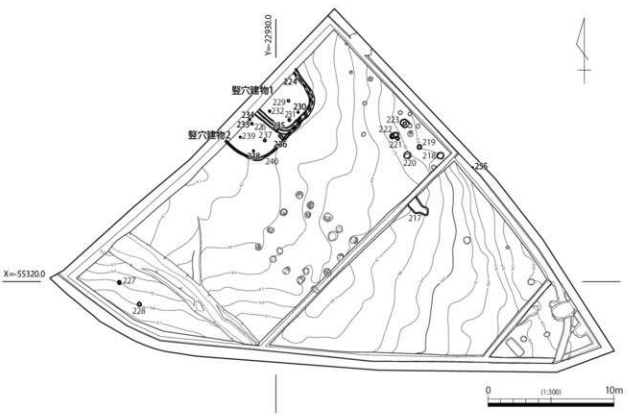
竪穴建物1

1c・dグリッドに位置する。調査区西端で検出した竪穴建物で、遺構は調査区外へ延びる。主軸方位はN－50°－W、幅約3.9mを測る。遺存状態は悪く、壁溝しか検出できなかった。224溝は掘り直しが行われており、下層遺構に226溝を検出した。224溝から土師器、226溝から土師器・須恵器が出土した。溝の内側に堆積した2層の埋土（第59図1・2層）は、締まりがややある部分があるとはいえ、貼床といえる程の締まりはない。Po47は高杯杯部で、内外面とも赤彩し、内面はヘラミガキ、外面の杯部底部にハケメを施す。Po48は杯身である。やや扁平で、下部が張っている。

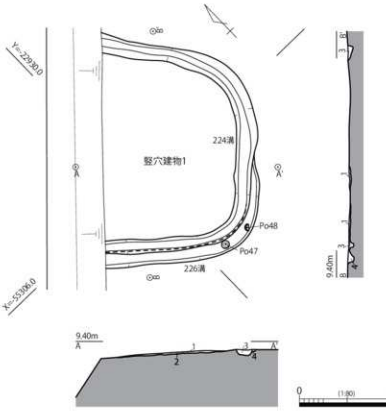
遺構の時期は古墳時代後期と考える。

竪穴建物2

1c・dグリッドに位置する。竪穴建物1の下層の竪穴建物で、竪穴建物1と同じ場所にあり、端は

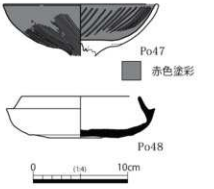


第59図　18面遺構配置図

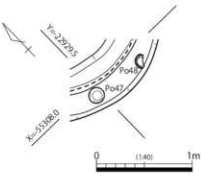


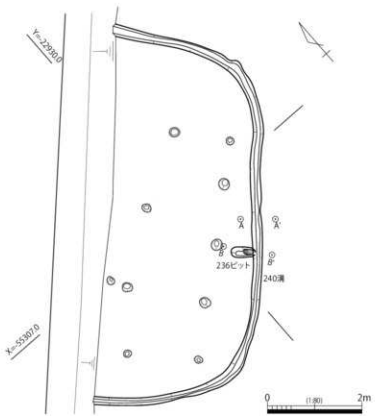
1　10YR2/2 黒褐色粘土　粘性あり　締まりややあり
2　2.5Y7/2 灰黄色中粒砂　粘性なし　締まりなし
3　10YR3/1 黒褐色粘土　粘性あり　締まりややあり　細粒砂混じる（224 溝）
4　10YR4/1 褐灰色粘土　粘性あり　締まりややあり　細粒砂混じる（226 溝）

第 60 図　竪穴建物１平面図・断面図



第 61 図　226 溝出土遺物

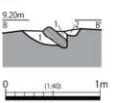




240溝

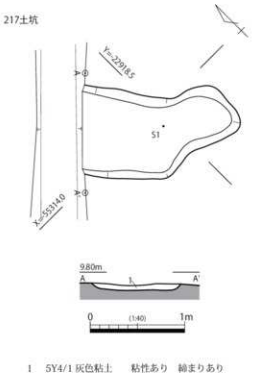
1　10YR3/1 黒褐色粘土　粘性あり　締まりややあり

236ピット



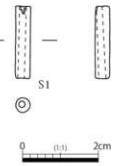
1　10R3/1 暗赤灰色粘土　粘性あり　締まりややあり
2　10YR3/1 黒褐色粘土　粘性あり　締まりややあり（240 溝）

第 62 図　竪穴建物２平面図・断面図



1　5Y4/1 灰色粘土　　粘性あり　締まりあり

第63図　217土坑平面図・断面図



第64図　217土坑出土遺物

調査区外へ延びる。主軸方位はN－50°－W、幅約7.6mを測る。壁溝240溝が巡り、236ピット内の杭は、240溝の下に向かって斜めに打ち込まれている。240溝から土師器が出土した。

（2）土　坑（第63・64図）

217土坑

2cグリッドに位置する。不定形の土坑で、北西側を中央トレンチに切られている。長辺1.69m、短辺95cm、深さ7cmを測る。土師器・石製品の管玉が出土した。

S1は緑色珪質凝灰岩製の管玉である。小口から斜めに穿孔したため、孔が中心からずれて側面に達する。

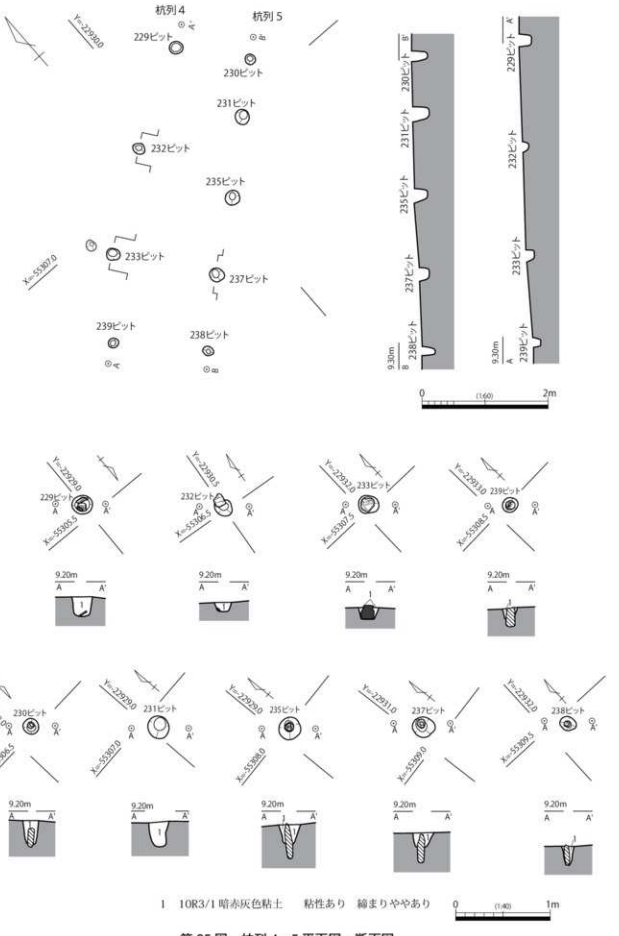
（3）杭　列（第65図）

杭列4

1c・dグリッドに位置する。229・232・233・239ピットで構成する。ピットは円形で径約8cm、深さ6～14cmを測る。239ピットから杭を検出した。229ピットから木片、232・233ピットから自然石が出土した。239ピットのみ杭が残り、他は杭を引抜いたと考える。杭・木片の他に土師器片が出土した。

杭列5

1c・dグリッドに位置する。238・237・235・231・230ピットで構成する。ピットの形状・法量は杭列4と同じで、径約8cm、深さ6～14cmを測る。230・235・237・238ピットから杭を検出した。杭の他に遺物は出土しなかった。



第 65 図　杭列４・５平面図・断面図

（3）ピット（第66・67図）

220ピット

1b・2bグリッドに位置する。掘方は円形で径60cm、深さ18cmを測る。下層から木片1片と自然石が出土した。木片は210柱穴より出土した木片と似るが、本遺構の木片は表面が被熱している。

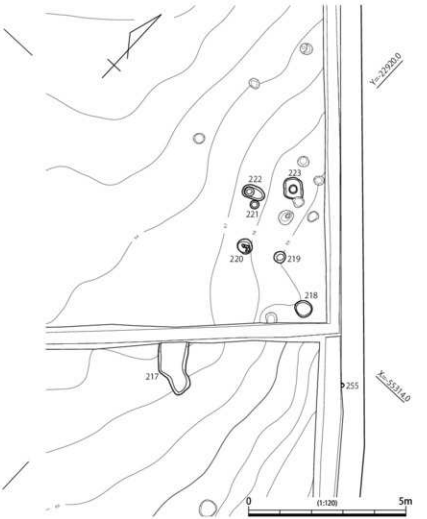
222ピット

1cグリッドに位置する。掘方は楕円形で長径73cm、短径42cm、深さ14cmを測る。土師器と自然石が出土した。

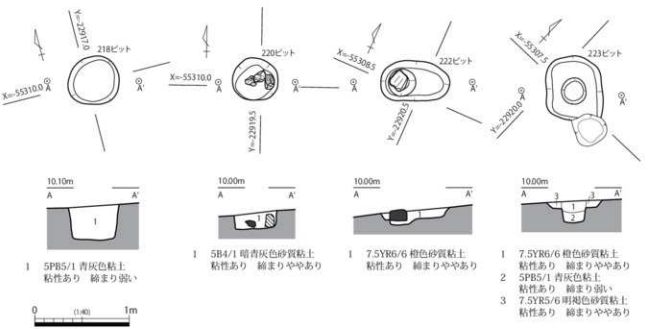
223ピット

1cグリッドに位置する。掘方は方形で長幅67cm、短幅60cm、深さ23cmを測る。柱痕が観察できる。遺物は出土しなかった。

（西山）



第66図　18面ピット群



第67図　18面その他のピット平面図・断面図

第 15 項　23a 面（第 68 図、図版 21 ～ 23 － 1）

1　概　要

23a 面は、18a 層のシルト～ 19a 層の砂質シルト、谷２に堆積する 20b 層の砂質粘土、21a ～ 22a 層のシルト～砂質シルトの互層、22b 層の粗粒砂と部分的に水田直上に薄く堆積する明青灰色シルトを除去して検出した遺構面である。土層断面の観察より 21a・22a・23a 層は耕作土であり、３面の水田が存在したと考える。しかし、21a・22a 層は残り遺存状態が悪く、耕作土上面の b 層堆積が希薄であることから、もっとも残りの良い 23a 面を遺構面として調査した。

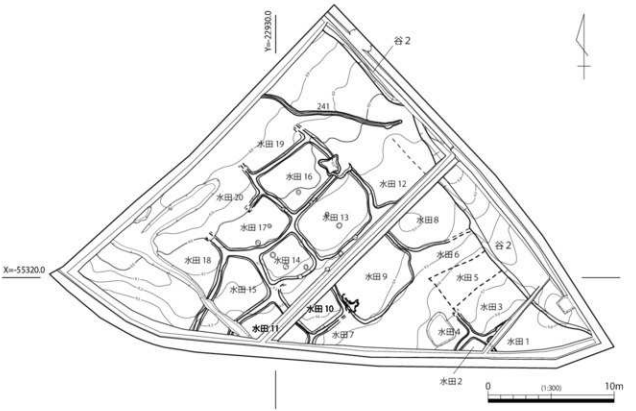
北東壁に沿って調査区外へ広がる谷２は、19a 層下面から 23b 面まで達する。時期幅のある遺物を含んでいるが、古墳時代前期の堆積と考える。主な遺構は水田 20 枚・溝１条を検出した。

2　調査の成果

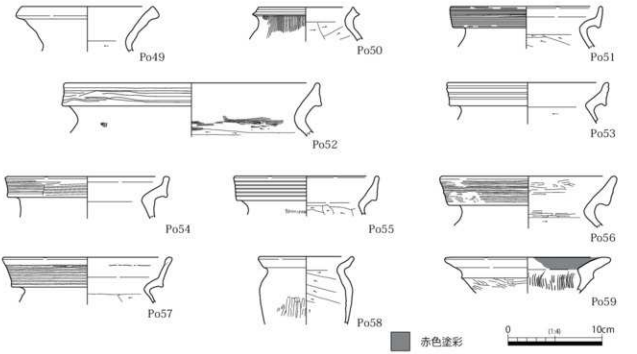
（1）水　田（第 69 図）

1b・c・d、2b・c・d、3b・c・d グリッドに位置する。水田は南東から北西に向って下る、緩やかな斜面を利用して営む。等高線に直交する幹線小畦畔３条と支線小畦畔を検出した。下降する畦畔の軸線は N － 38° － W を示し、一部の検出にとどまる水田を含めると 20 枚を数えた。

水田の面積は約９～ 24㎡で、谷の中心にある水田９・13・16 の列は面積が大きい。この列の北東側の列は、畦畔の残りが悪いが、東西幅はほぼ同じである。調査区南側は谷が立上がり、上り勾配になる。水田 10・14 から一段高くなり、面積が小さい。耕作土から弥生土器が出土した。



第 68 図　23a 面遺構配置図



第69図　耕作土内出土遺物

Po49～59は弥生土器である。Po49は「く」字口縁の壺である。表面磨滅のため、口縁帯に凹線は見られない。Po50～58は甕である。Po50の口縁帯は上下の拡張が小さい。内面をヘラケズリし、外面にタテハケメを施す。弥生時代後期前葉と考える。Po58は小型の甕である。Po59は有段の高杯である。外面をヘラミガキ、内面にハケメを施し、杯部内面に赤彩が残っている。

水田の時期は、概ね弥生時代後期と考える。

水田13

2cグリッドに位置する。歪んだ方形の水田で標高9.16mにあり面積23.4㎡、南北幅4.10m、東西幅6.00mを測る。北畦畔は幅約60cm、高さ4cm、東畦畔は幅約50cm、高さ4cmを測る。水田8・9・12との交点が南へ移動し、東畦畔の南側が屈折したため五角形状になる（注3）。

水田14

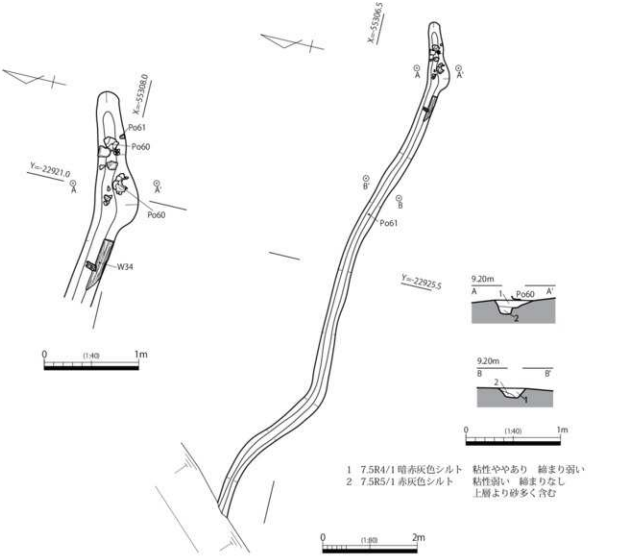
2c・d、3c・dグリッドに位置する。歪んだ方形の水田で標高9.17mにあり面積9.1㎡、南北幅3.10m、東西幅3.36mを測る。北畦畔は幅30～70cm、高さ2cm、東畦畔は幅約70cm、高さ6cmを測る。水田10・11・15との交点が北へ移動し、西畦畔の南側が屈折したため五角形状になる。歪んだ形状は、水田13を反転した形と同じである。

水田15

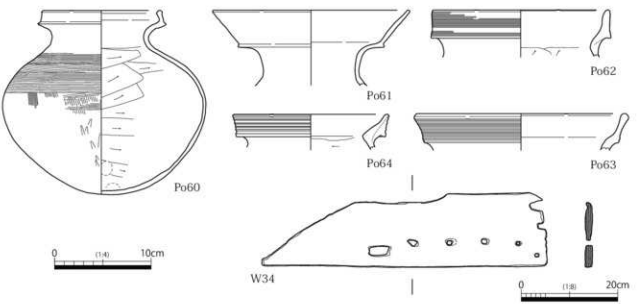
2d・3dグリッドに位置する。標高9.19mにあり南北幅4.28mを測る。東西幅が長く見えるが、南北方向に走る撹乱の東側から20cm高くなり、ここに畦畔があったとすると面積11.8㎡になる。水田17に面する北畦畔は幅80cm、高さ6cm、水田18に面する側は幅60cm、高さ4cmを測る。

水田16

1c、2c・dグリッドに位置する。方形の水田で標高8.97mにあり面積17.7㎡、南北幅3.60m、東西幅約5.00mを測る。北畦畔は幅50cm、高さ3cm、東畦畔は幅60cm、高さ5cmを測る。水田12・13との交点が土坑状に抉れる。水田16と水田17の北畦畔は、アミダクジ状にズレる。



第 70 図　241 溝平面図・断面図



第 71 図　241 溝出土遺物

（2）溝（第70・71図）

241溝

1b･c･dグリッドに位置する。蛇行する溝で幅約30cm、深さ約15cmを測る。雨裂の可能性がある。遺物は東端から弥生土器・土師器・木製品が出土した。

Po60・61は共に複合口縁の壺で、Po60の口縁は内傾して短く立上がり、端部を肥厚する。器高より幅が上回っており、胴部が若干上下に拉げている。Po61は口縁を大きく外反し、器壁が薄い。時期は古墳時代前期頃と考える。

Po62～64は甕である。Po62・63は多条平行沈線文を施すが、Po62は一部をナデ消す。Po64は口縁下端部がやや垂下し、口縁帯に凹線文を5条施す。時期は、Po62・63が弥生時代後期後葉、Po64が弥生時代後期中葉頃と考える。

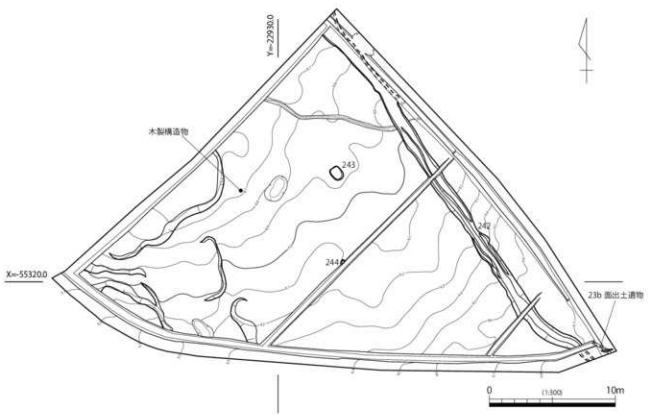
W34は板状の木製品である。斜辺の角度は40°を測る。建物の妻部に使用する妻壁板と思われる。

遺物の時期は幅があるが、遺構の時期は古墳時代前期頃と考える。（西山）

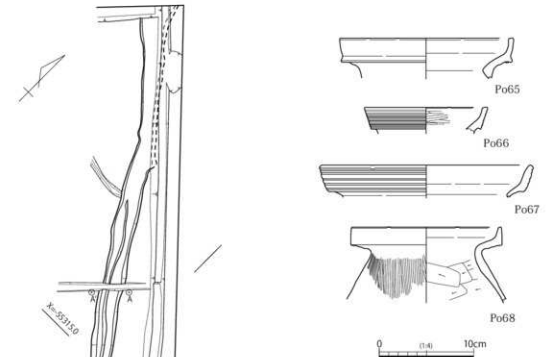
第16項　23b面（第72図、図版23－2～24－2）

1　概　要

23b面は、23a層の耕作土であるシルト質砂を除去して検出した遺構面である。本面は最終遺構面になる。トレンチにより下層の確認を行ったが、これ以下の土層より遺物は出土しなかった。遺構は溝1条・土坑1基・ピット1基・木製構造物1基を検出した。



第72図　23b面遺構配置図



第 74 図　242 溝出土遺物

第 73 図　242 溝平面図・断面図

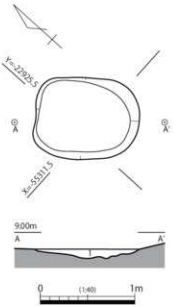
２　調査の成果

（１）溝（第 73・74 図）

242 溝

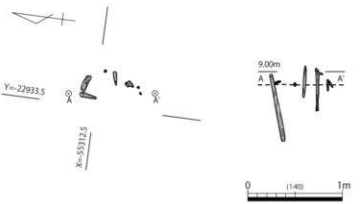
1b・c、2b、3a・b グリッドに位置する。北東壁際を流れる溝である。東側は蛇行するが谷の北側斜面下を流れ、幅約 1.2m、深さ約 22cm を測る。遺物は東端から弥生土器・土師器が出土した。

Po66 は多条平行沈線文を 11 条、Po67 は口縁帯に平行沈線文を５条施す。弥生時代後期前葉と考える。Po65 は甕である。口縁端部に面があり、口縁帯に平行沈線文がない。古墳時代前期と考える。

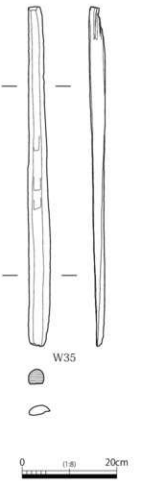


1　5B4/1 暗青灰色シルト質砂　粘性あり　締まり弱い

第 75 図　243 土坑平面図・断面図



第 76 図　木製構造物平面図・断面図



第 77 図　木製構造物

Po65 を紛れ込みとすると、遺構の時期は水田耕作土の 23a 層と大差なく、弥生時代後期と考える。

（2）土　坑（第 75 図）

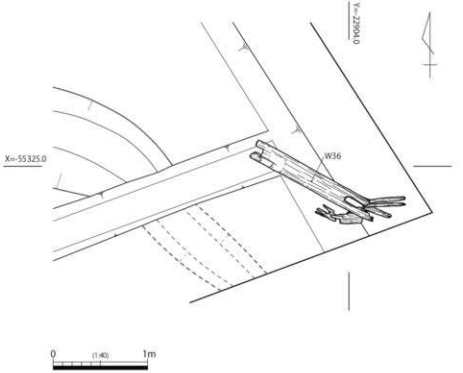
243 土坑

2c グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径 1.1 m、短径 86cm、深さ 10cm を測る。遺物は出土しなかった。

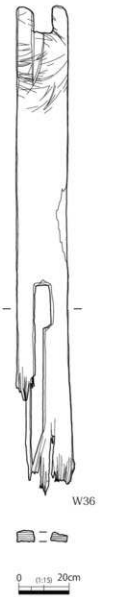
（3）その他の遺構・遺物（第 76 ～ 79 図）

木製構造物

2c グリッドに位置する。調査区西端、遺構面直上からの検出した。遺構の掘方はなく、本面より



第 78 図　23b 面遺物出土状況図



第 79 図　23b 面出土遺物

上層から、杭のように打込んだ木製品である。杭列のような遺構ではないが、なんらかの意味を持って打たれたと考える。

23b 面直上出土遺物

3a グリッドに位置する。調査区東端、遺構面直上から出土した。遺物の周辺に掘方等遺構の存在を認めることはできなかった。大型の木製品で、建築部材と考える。

W36 は建築部材の柱である。板目材で前面を製材せず、一面に木の外側の曲線が残る。下端を欠失する。上端に輪薙込の仕口が施されており、離れて貫孔がある。輪薙込の加工痕はよく残っており、深さは約 10.7cm と浅い。この周辺には別の加工痕があるが、意味は不明である。貫孔は長幅約 17cm、短幅 6.4cm を測る。（西山）

第4節　包含層出土遺物

本遺跡は、谷という遺跡の立地上、上・下層に含まれる遺物が紛れ込み、包含状況はその時期を単純には表してくれない。しかし、掘り下げる程紛れ込みは少なくなり、大まかな時代の変遷は見ることができる。そのため、ここでは包含層に紛れ込んだ遺物を取除かないで報告する。

（1）土　器

1a層出土土器（第80図）

Po69は肥前系磁器の染付で伊万里の椀である。口縁の内外面には圏線を描く。外面の一部に絵付けが見える。

4a層出土土器（第80図）

Po70（図版33）は備前の擂鉢である。片口の部分で14～15世紀と考える。Po71は土師器の杯である。体部は、底部から直線的に外傾しながら立上がり、外面の下半にヨコナデ痕、底部外面に糸切り痕を残す。12～13世紀と考える。

5a層出土土器（第80図）

Po72は瓦質土器の羽釜である。口縁はやや内傾し、端部に面を持つ。鍔端部に面はなく、丸く収める。

6a・7a・8a層出土土器（第80図）

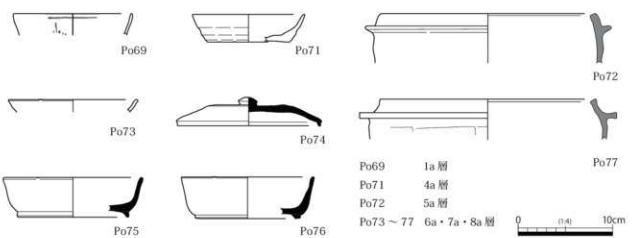
Po73は緑釉陶器の椀である。露胎部は青灰色で、焼成が良く須恵質である。9世紀後半頃の遺物で、京都洛西産と考える。

Po74は宝珠つまみを持つ杯蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリの後、ナデを施す。Po75・76は高台付きの杯である。底部周縁より内側に高台を貼付ける。Po76は高台の貼付け位置は同じで、端部に面を持つ。8世紀中頃から後半と考える。

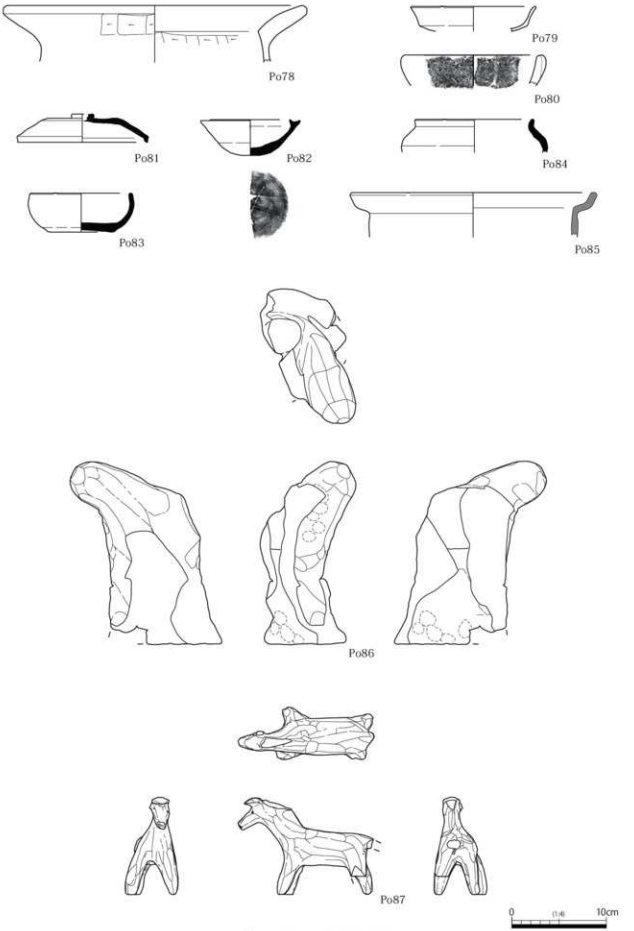
Po77は瓦質土器の羽釜である。口縁を内傾させ、面を持った端部を小さく上方に立上げる。この端部に面を持つ。鍔端部にも口縁端部と同じように面がある。13世紀頃と考える。

9a層出土土器（第81図）

Po80は焼塩に使用する製塩土器の口縁部である。内面は滑らかに仕上げられており、布目は残っ



第80図　1a層、4a層、5a層、6a・7a・8a層出土土器



第81図　9a層出土土器

ていないが、綴代痕がタワミとなって残る。Po86は土製支脚である。頂部には2方向の突起が残る。胴部内側を底部から中程まで中空にし、上方から穿孔する。背面が欠損しているが、本来は3方向の突起あったと考える。

Po81はつまみを持つ杯蓋である。天井部外面は回転糸切り痕を残す。糸切りの後、回転ヘラケズリで天井部周辺の形を整える。Po87は土馬、または須恵質であるところから陶馬とも呼ばれる。左後足と尾の一部を欠失する。目・鼻穴・尻の穴を穿つ。尻の穴は、一度穿孔した後、尾の下端まで延ばしたため沈線状である。首は長く、タテガミが表現されている。しかし、その先端は前方に折れ曲がっており、頭の形態は畿内のように三日月形ではない。8世紀初め頃と考える。

Po85は瓦質土器の鍋である。受部はやや外傾する。鍔端部に面はなく、丸く収める。

10a層出土土器（第82図）

Po88・89の甕は頸部が肥厚し、口縁部は小さく外反する。Po90は高杯の杯部で、古墳時代後期と考える。口縁は内湾し、端部を小さく外反する。内外面共に丁寧なミガキを施す。Po91は竈の焚口、Po92は土製支脚頂部の突起である。Po93は円柱状製品で、小口には貫通する孔を穿つ。前述したように、形態は土錘状であるが、玉類の可能性がある。

Po94・95は杯蓋である。Po94は天井部外面にヘラ記号と漆書きによる「×」の記号がある。口縁端部外面には刻み目を施す。Po96・97は杯である。Po96は回転糸切りした底部から体部が内湾気味に立上がる杯、Po97は高台付きの杯である。これらの杯は8世紀後半と考える。

11a層出土土器（第82図）

Po98は深い甕で、口縁端部を小さく外反する。

Po99～101は杯、Po102は皿である。Po102は底部から直線的に強く外傾しながら立上がる皿で、底部を回転糸切りする。9世紀後半頃と考える。

Po104は灰釉陶器の瓶である。幅広の高台を貼付ける。

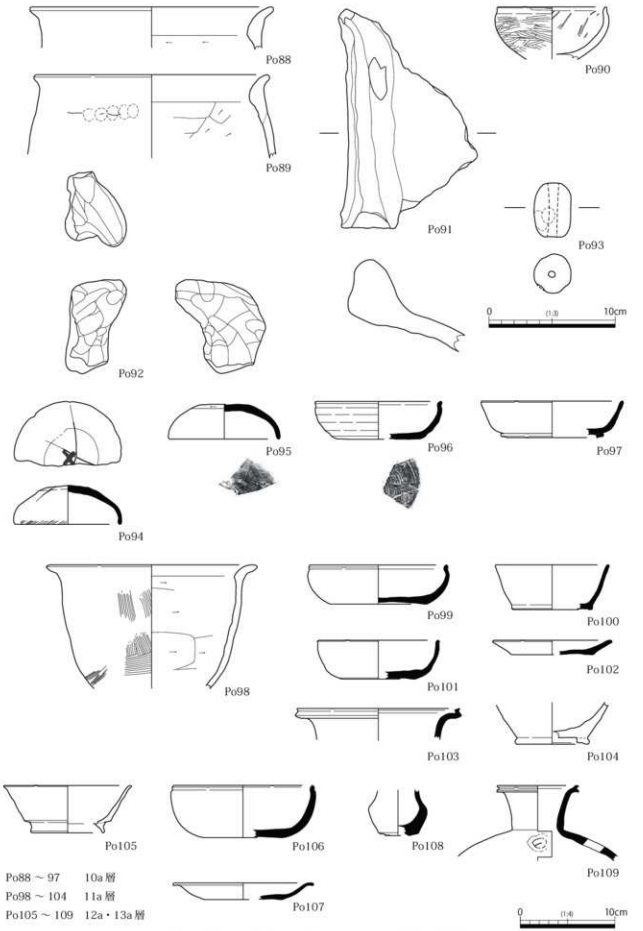
12a・13a層出土土器（第82図）

Po105は高台付の杯である。体部は直線的に外傾しながら立上がり、やや高い高台を丁寧に貼付ける。10世紀頃と考える。Po107は皿である。器壁は薄く、口縁部を外反する。9世紀前半と考える。Po108は古墳時代後期の装飾壺の小壺である。Po109は長頸壺である。肩部に穿孔する。

14a層出土土器（第83～85図）

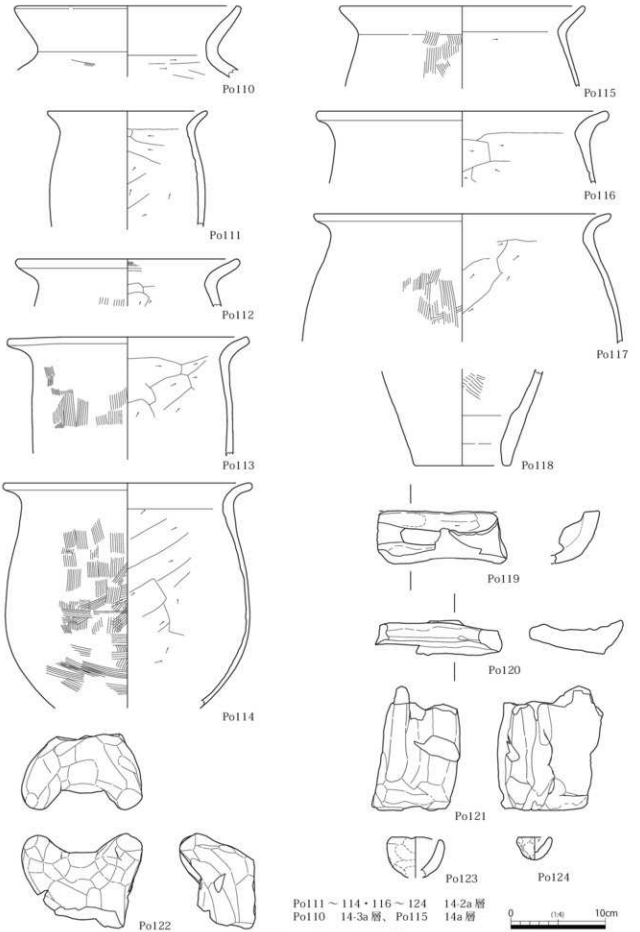
Po110～117は甕である。甕は小さく口縁部を外反させる長胴の甕で、やや胴部が張るものと、ほとんど張らないものがある。Po118は甑の底部である。Po119～121は竈の庵の部分である。Po122は土製支脚の突起部である。Po123・124はミニチュア土器である。大・小があり、手づくねで作る。口縁部も整えない、粗製の土器である。

Po125～138は底部から体部が内湾気味に立上がる杯である。Po136は体部外面に2条の沈線を巡らす。137・138は形態は前出の杯と同じであるが、口径・器高共に大きく鉢状である。Po139の鉢は器壁が薄く尖底になる鉄鉢と考える。Po140・141は高台付き杯である。Po140の口縁は強いヨコナデを受けながら、あまり角度をつけずに立上がる。Po142・143は皿である。Po142は底部から直線的に直立気味に立上がる皿で、体部外面の下半を回転ヘラケズリの後ナデ消し、底部を回転糸切りする。外観は畿内の皿に酷似する。8世紀前半～9世紀初めと考える。Po143は底部から直線的に強く外傾しながら立上がる皿で、口縁部をやや肥厚する。9世紀頃と考える。Po144～149は杯身である。

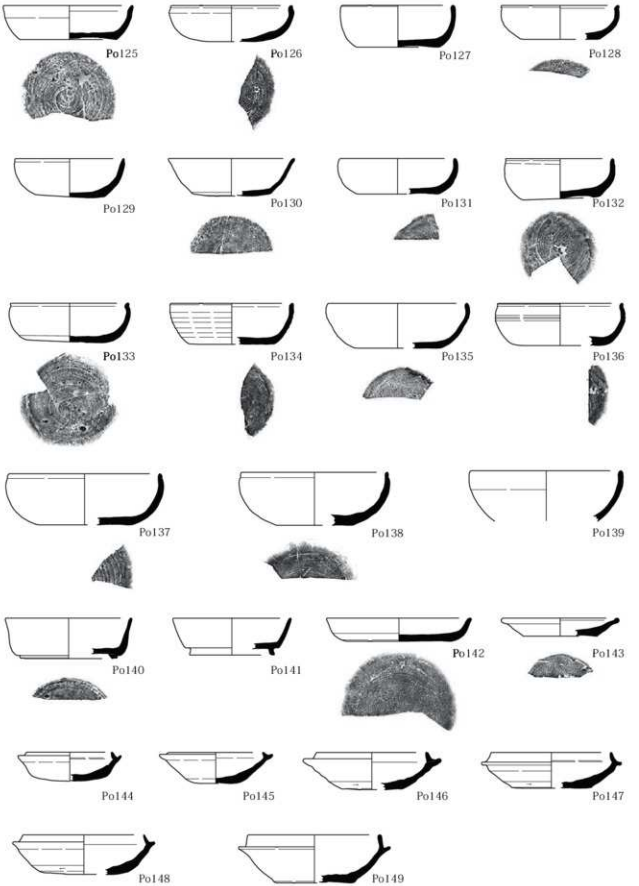


Po88～97　10a層
Po98～104　11a層
Po105～109　12a・13a層

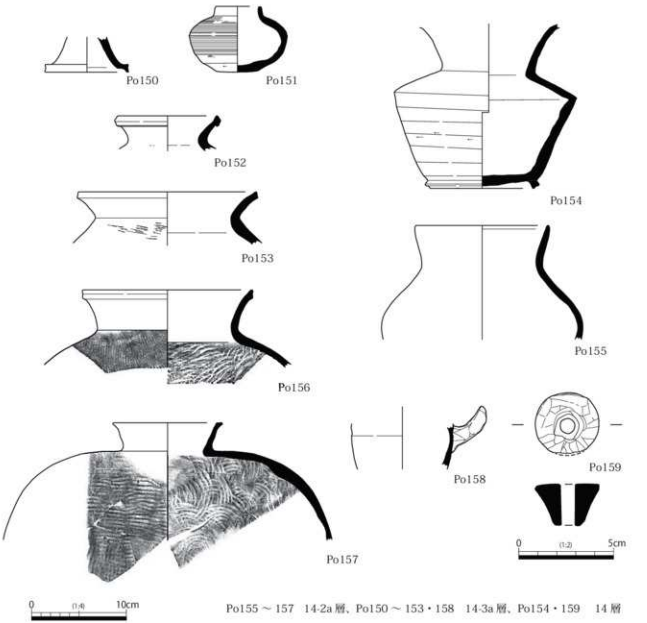
第82図　10a層、11a層、12a・13a層出土土器



第83図　14a層出土土器（1）



第 84 図　14a 層出土土器（2）



Po155～157　14-2a層、Po150～153・158　14-3a層、Po154・159　14層

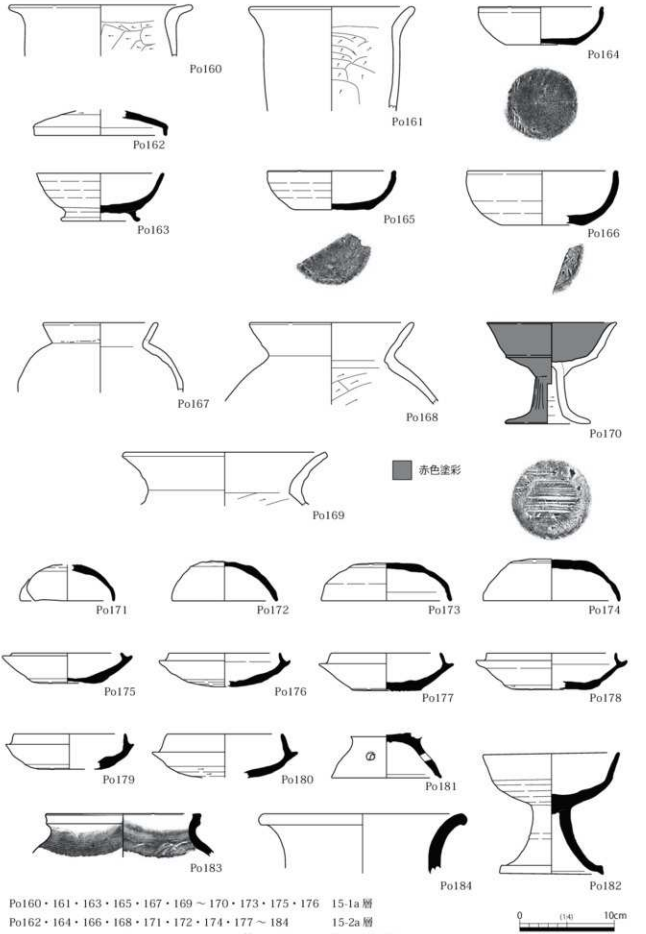
第85図　14a層出土土器（3）

口径が10cm以下で立上がりが低いものと、口径が大きく立上がりが高いものがある。Po144は陶邑Ⅱ－6、TK217併行、Po145～149は陶邑Ⅱ－4・5、TK43～TK209併行と考える。Po151・154・155は壺である。Po151は小型の短頸壺である。胴部外面の下から1/4を回転ヘラケズリし、上部はカキメを施す。Po155は頸部と胴部の境が不明瞭な壺である。Po157は横瓶である。Po158は把手付きの椀である。Po159は紡錘車である。須恵質のものは珍しい。

15a層出土土器（第86図）

Po160・161、Po167～169は甕である。Po160は小さく口縁部を外反させる長胴の甕で、やや胴部が張るものと、ほとんど張らないものがある。Po170はやや小さい稜のある高杯で、赤彩を施す。

Po163～166は杯である。Po163は高台付の杯で、体部は緩やかに内湾し、高台端部は外反する。底部の切離し痕は、高台を貼付けた際のナデで残っていない。しかし、断面より想定するとヘラ切りである。7世紀後葉と考える。



Po160・161・163・165・167・169～170・173・175・176　15-1a 層
Po162・164・166・168・171・172・174・177～184　15-2a 層

第 86 図　15a 層出土土器

16a層出土土器（第87図）

Po185・186は壺、Po187～193は甕である。Po194は2段の口縁を持つ。Po195は弥生土器の壺である。Po200は小型丸底壺である。Po196・197は高杯である。Po197は細身で色調が赤褐色をしており、胎土は他の遺物と異なり砂っぽい。Po199は小型器台である。

Po202・203は杯蓋である。Po202は内面に沈線が巡る。Po203は外面に稜あり、口縁端部に段が巡る。

17a層出土土器（第88・89図）

Po208～219は甕である。Po208～211は複合口縁、Po212～218は「く」字口縁の甕である。口縁部の形態は異なるが、口縁端部に面を持つもの、Po212～214のように口縁端部を丸く収めるものに分けられる。Po208・209・215・217・218には、端部の面に沈線状の調整痕が残る。Po219は布留系の甕である。口縁部をやや内湾させる。端部は内傾し、肥厚する。Po220～224は直口壺である。Po221は口縁端部に面があり、小さく折り返す。Po225は小型丸底壺である。Po224・226は粗製の土器である。器形は歪で器壁が厚く、調整は粗い。特にPo224は調整が粗く、外面に接合痕を残す。Po227～231は高杯である。Po227～229は杯部に明確な稜がない高杯である。Po227は杯部がやや内湾する。内面にヘラミガキ、外面にハケメを施し赤彩する。Po228の杯部は、脚部との接合部より緩やかなカーブを描きながら外反する。脚部に穿孔があり、端部は薄い。Po229は器壁が厚く色調はやや黄色味をおびるが、器形・胎土はPo228と似る。Po230・231は杯部に稜があり口縁端部を外反する。Po232・233は鉢である。器壁が厚く、Po233は口縁部に接合痕を残す。

Po236は有蓋の高杯である。口縁端部は丸く収める。脚部は短くて太く、3ヵ所に円形の孔を穿つ。

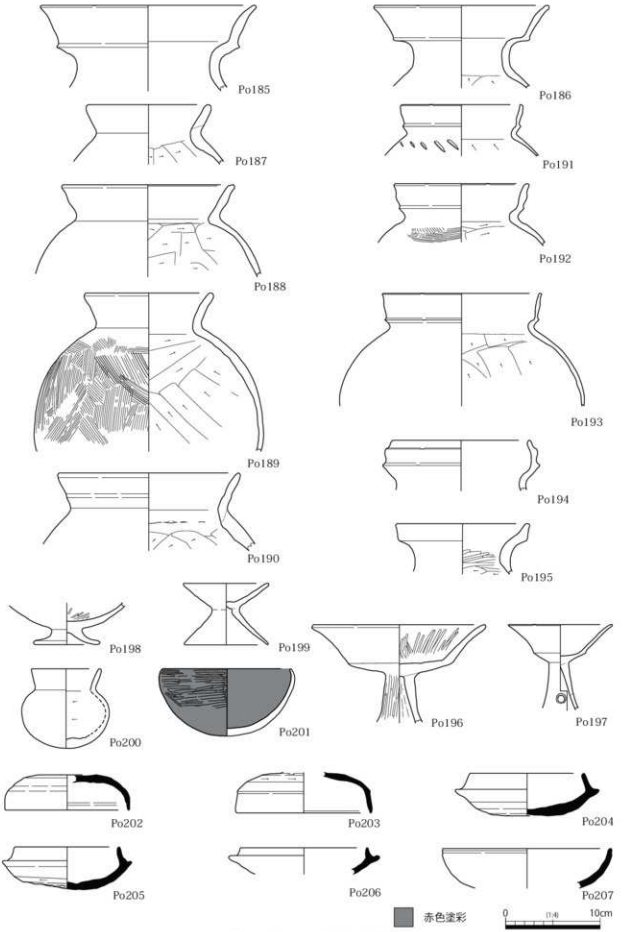
18a層出土土器（第90・91図）

Po237～239は壺である。Po237とPo239は、口縁の外傾度合いは違うが、同じ所で口縁帯を接合する。Po240～249は甕である。Po245の口縁には形骸化した複合口縁が見られる。口縁部の立上がりは短く、端部には内傾する面を持つ。肩部にはハケメと刺突文を施す。Po249は、内湾する口縁を持ち端部を小さく折り返す布留式甕の特徴を持つ。Po250～254は高杯である。Po250～253は杯部に明確な稜がない。特にPo250は器壁が厚く、杯部は脚部との接合部から緩く内湾気味に立上がる。Po256は低脚杯で、杯部は深く底部から体部がやや直線的に立上がる。Po257・258は直口壺である。Po259は長頸壺である。口縁から体部上半にかけての外面をヘラミガキし、肩部にハケメと刺突文を施す。Po260は複合口縁の長頸壺である。外面をヘラミガキする。Po265～269は椀である。Po265・266は丸底で内湾する口縁を持ち、大きさは異なるがほぼ同じ形態である。Po267は歪で器壁が厚く、粗製の土器である。外面の上半にハケメ、下半に指圧痕を残す。Po267・268は平底であるが、形態・調整は異なる。Po268は器壁が薄く、外面にハケメを施し、内面をヘラケズリとする。口縁端部をヨコナデし、内傾させる。Po269は器壁が厚く、外面に指圧痕、内面にナデの痕を残す。Po270は脚付椀である。口縁端部を小さく外反する。

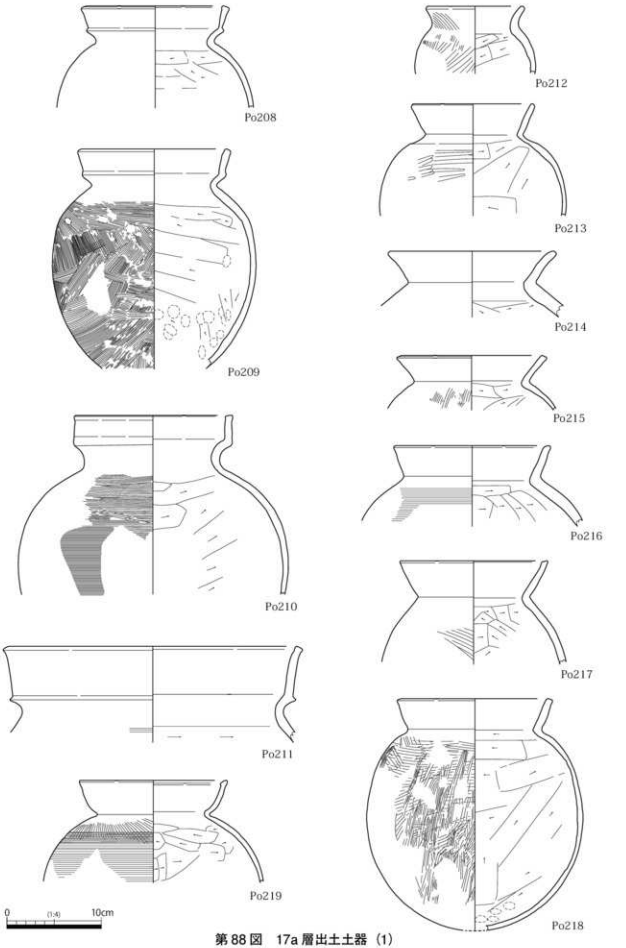
Po271～274は杯蓋である。4点とも口縁端部に内傾する面があり、Po272・273は段を巡らす。Po271は稜の表現が弱く、内面に当て具痕がある。Po273・274は器高がやや高い。Po273の天井部外面に稜、「×」印のヘラ記号がある。口径も大きいことから陶邑Ⅱ－2、TK10併行と考える。

16a～18a層出土土器（第92図）

Po275・276は複合口縁の甕である。口縁は上方、またはやや内傾して立上がる。端部には面があり沈線が巡る。古墳時代中期と考える。Po277・278は高杯である。Po278は前述した甕と同様、端

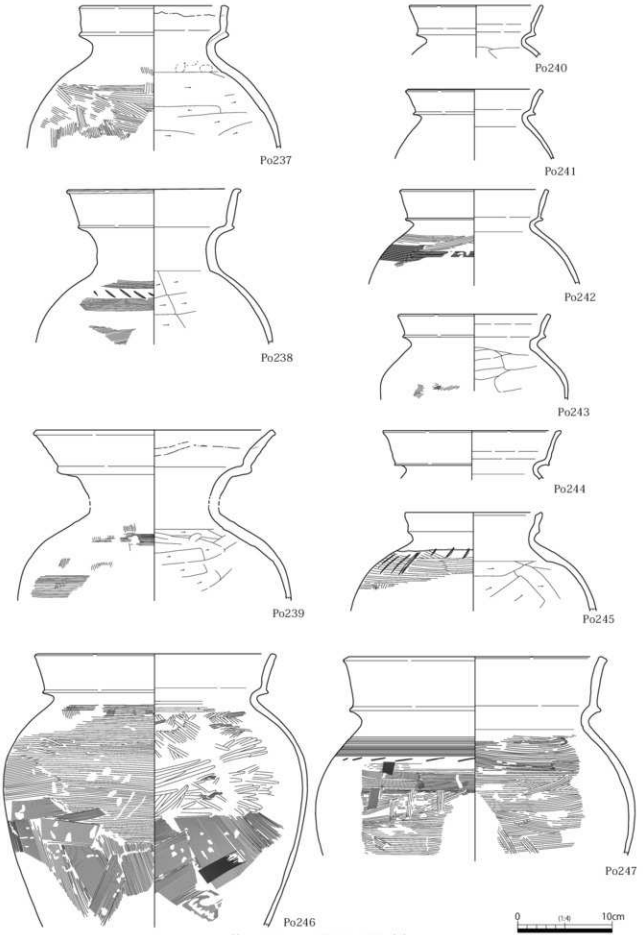


第87図　16a層出土土器

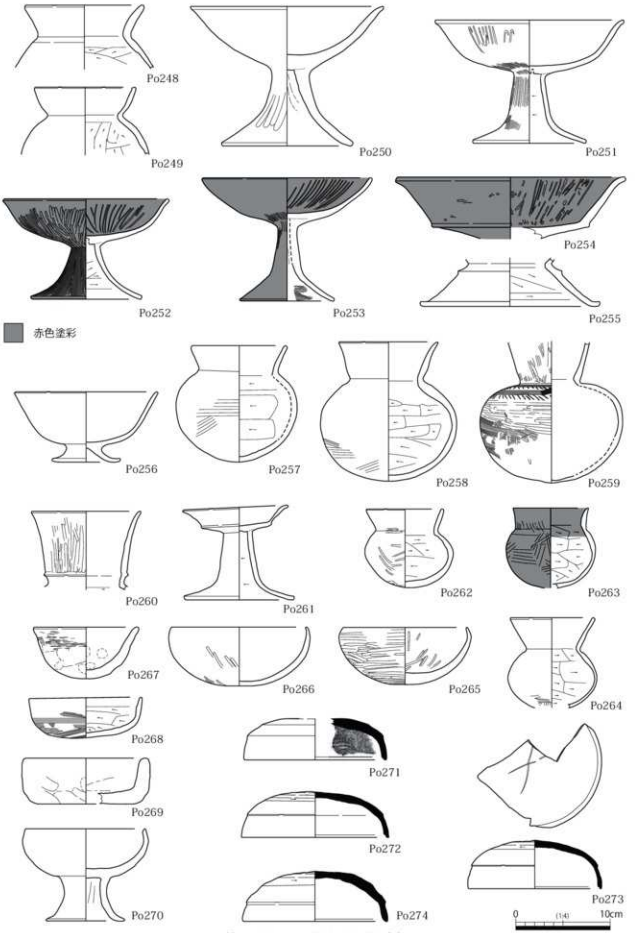


第88図　17a層出土土器（1）

第89図　17a層出土土器（2）



第90図　18a層出土土器（1）



第91図　18a層出土土器（2）

部に面があり沈線が巡る。Po282は甕である。口縁帯に3条の平行沈線文を施す。弥生時代後期と考える。Po283は蓋のつまみ部分である。

19a層出土土器（第93図）

Po284は複合口縁の壺である。口縁は外反し、肩部に波状文を施す。Po286は低脚杯で、杯部は深く体部が内湾気味に立上がり、口縁端部を外反する。Po284～286は古墳時代前期と考える。

Po287は甕である。口縁帯の表面が剥離している。弥生時代終末期と考える。288は壺で、口縁帯に3条の凹線文を施す。胴部外面は縦にハケメ、肩部にヘラ状工具による刺突文、内面は頸部にハケメ、胴部にヘラケズリを施す。弥生時代後期と考える。

20b層出土土器（第94・95図）

Po289・290は複合口縁の壺である。Po289の口縁端部には面があり、Po290の口縁端部には接合痕が残る。Po291～300は甕である。口縁端部には細い面があり、Po291・295・296は極めて浅い沈線が巡る。特にPo291は端部内側に面を持つように巡る。Po300は口縁端部に外斜する面を持つ。下端部の突出は鈍い。外面はハケメ、内面はヘラケズリの後ヘラミガキを施す。Po301～304は高杯である。Po304は布留系高杯の脚部である。脚部に穿孔する。

Po310～312は甕である。口縁帯に沈線文等は認められない。Po313は鼓形器台である。受部の下半、脚台部の上半に貝殻腹縁による多条平行沈線文を施す。Po310～313は弥生時代終末期と考える。

Po314は壺の胴部である。外面に凹線を3条巡らし、上下に貝殻腹縁による刺突文を施す。Po315～321は甕である。Po315は、口縁帯の表面は剥離しているが、多条平行沈線文の痕が見える。Po316は口縁帯に多条平行沈線文を施した後、一部をナデ消す。胴部外面のハケメは粗い。Po319は口縁帯が直立する。Po320は口縁帯が細く、口縁部を内傾させる。Po321は口縁に凹線文を3条巡らす。内面は頸部までヘラケズリ、外面にタテハケメを施す。Po314～321は弥生時代後期と考える。

Po322は長頸壺の口縁部である。外面は口縁部に3条の凹線を巡らせ、タテハケメを施す。内面の調整は不明であるが、口縁端部への接合痕が残る。弥生時代中期と考える。

（2）　石　器（第96図）

S2～4は磨製石斧で、凝灰質安山岩製と結晶片岩製がある。S2・3は太型蛤刃石斧である。S4は両刃石斧である。S5は凝灰岩質の軟らかい石材である。両面から穿孔しようとした凹部があり、穿孔はないが紡錘車の未成品と思われる。S6は角柱状の砥石である。砥面は4面あり、大きく湾曲する。

（3）　木　器（第96図）

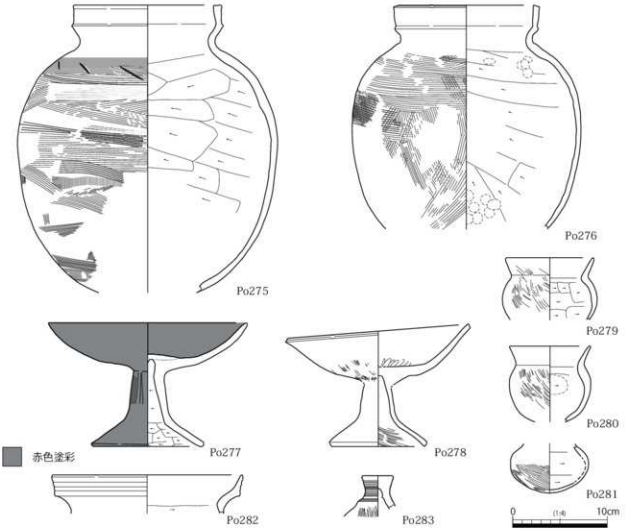
W37は短冊状に割裂いた木製品で、上端に焼痕が残る。16面で検出した256流路、または257溝の破堤堆積に多く含まれていた燃えさしと同じである。（西山）

注

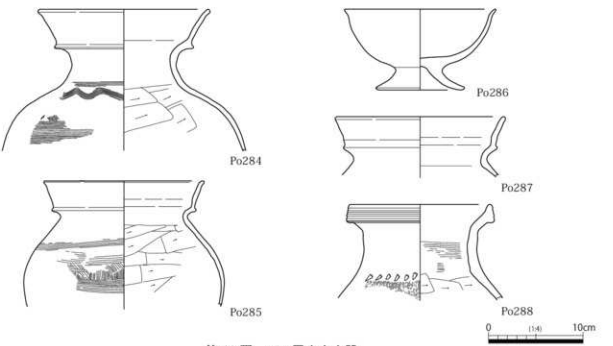
1．奈良文化財研究所　山本　崇氏の御教示による。

2．同じ形態の土製品は、島根県オノ峠遺跡から出土している。［島根県教委1983］、［金子1991］を参照。

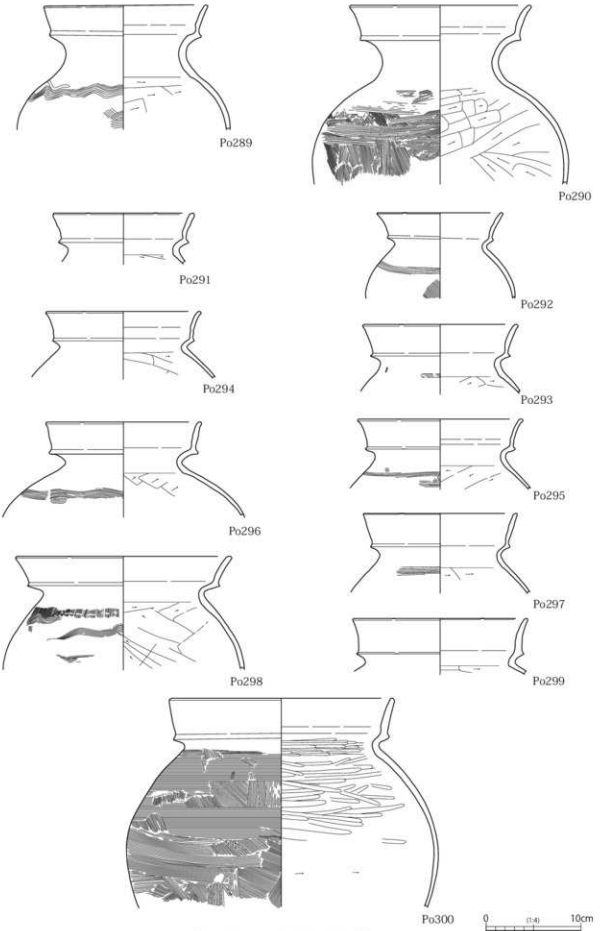
3．水田を囲む畦畔は北西側の東西畦畔を北畦畔とし、四方はこれに準ずる。



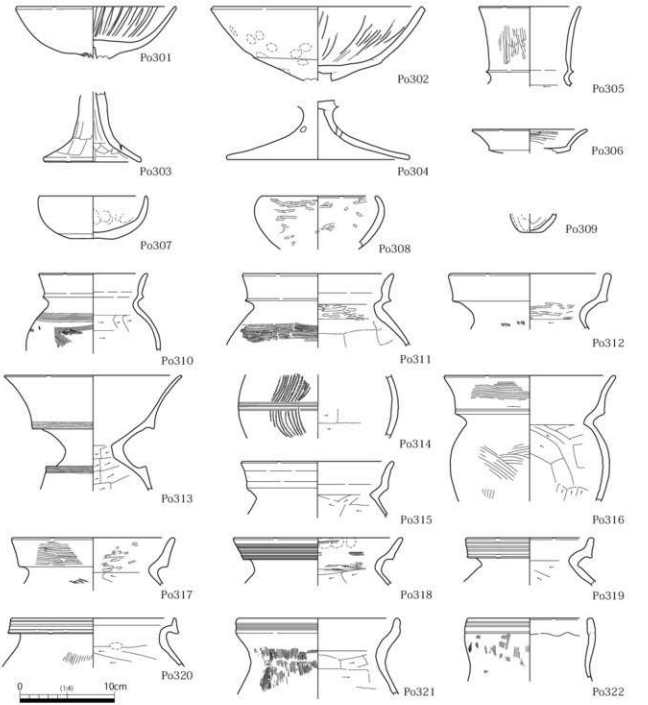
第 92 図　16a ～ 18a 層出土土器



第 93 図　19a 層出土土器



第94図　20b層出土土器（1）



第 95 図　20b 層出土土器（2）

参考文献

大平　茂　2008『祭祀考古学の研究』雄山閣

金子裕之　1991「律令期祭祀遺物集成」『律令制祭祀論考』塙書房

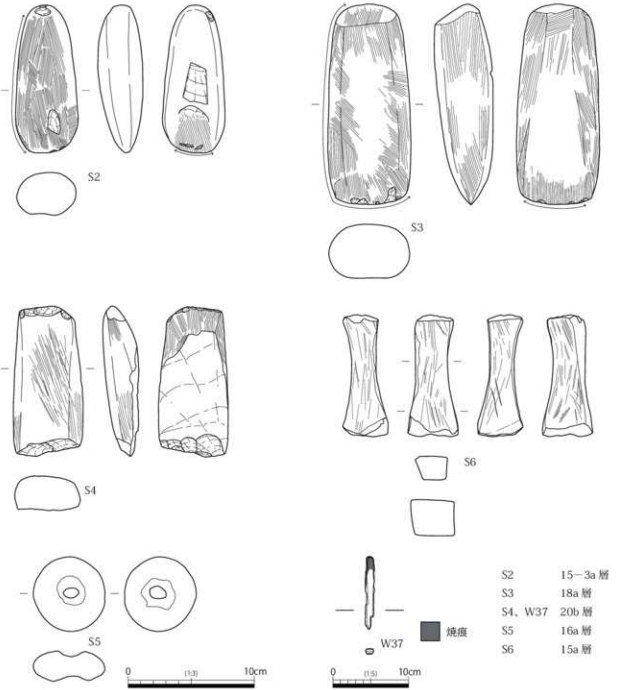
河合章行　2009「第１節 弥生時代後期から古墳時代前期初頭の甕について」『青谷上寺地遺跡 10』鳥取県埋蔵文化財センター

黒崎　直　1986「斎串考」『呪法と祭祀・信仰』吉川弘文館

島根県教育委員会他　1983「Ⅴ 才ノ峠」『国道９号バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』

鳥取県埋蔵文化財センター　2008『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告３ 建築部材（資料編）』

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館編　2003『特別展示図録 カミによる水のまつり－「導水」の埴輪』



第96図　包含層出土石器・木器

第5節　まとめ

本年度の調査では、弥生時代から近世にかけての遺構面16面を調査し、主な遺構として弥生時代後期の水田、古墳時代後期の掘立柱建物1棟と竪穴建物2棟、平安時代の掘立柱建物1棟、中世の掘立柱建物1棟を検出した。

本報告書では1－1区の調査成果について報告した。遺跡全体の評価については、今後刊行予定の1－2区の発掘調査報告書において、2ヵ年の成果をふまえた上で言及する所存である。

遺物観察表（土器・石器・木器）

土器観察表（1）

報告番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	器種		法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po1	30	4J-2d	66土坑	土師器	椀	高：△1.4 底：φ4.0	外面：ヨコナデ、底部外面糸切り 内面：ヨコナデ	密	良好	内外面：10YR7/6　明黄褐	
Po2	30	4J-2c	37土坑	須恵器	高杯	高：△6.5 底：φ9.5	杯部内面：ナデ 脚部内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	杯部内面・脚部内外面に墨書あり
Po3	30	4J-2c	37土坑	瓦質土器	羽釜	高：△11.4 口：φ21.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半指オサエ、体部下半ケズリ 内面：ナデ	密	良好	外面：2.5Y4/1　黄灰 内面：N4/0　灰	外面煤付着
Po4	30	4J-2c	37土坑	瓦質土器	鍋	高：△11.2 口：φ30.9	外面：口縁部指ナデ、体部ナデ 内面：ヨコナデ、下半ハケ目	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：2.5Y8/1　灰白	外面ヘラ記号、同下半煤付着
Po5	35	4J-2b	250ピット	須恵器	高台付杯	高：△4.5 口：φ14.0 底：φ7.2	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰白	
Po6	43	4J-2b	143溝	須恵器	杯	高：4.2 口：φ13.0 底：φ4.0	内外面：回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5Y6/1　灰 内面：7.5Y5/1　灰	
Po7	43	4J-3b	143溝	須恵器	杯	高：4.4 口：φ12.6 底：φ9.4	内外面：回転ナデ、底部外面回転糸切り	密	やや良	外面：2.5Y7/3　浅黄 内面：2.5Y7/2　灰黄	
Po8	43	4J-3b	143溝	須恵器	高台付杯	高：△3.9 底：φ8.0	内外面：回転ナデ	密	良好	外面：N7/0　灰白 内面：N6/0　灰	
Po9	43	4J-2c	143溝	須恵器	甕	高：△4.5 口：φ18.8	内外面：ヨコナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Po10	43	4J-2c	143溝	須恵器	短頸壺	高：△2.3 口：φ8.2	内外面：ヨコナデ	密	良好	外面：N6/0　灰 内面：N7/0　灰白	
Po11	43	4J-3b	143溝	須恵器	短頸壺	高：△11.8 口：φ21.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部タタキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部当て具痕	密	良好	内外面：7.5Y5/1　灰	
Po12	43	4J-2b	143溝	土師器	甕	高：21.7 口：13.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ目 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ケズリ、体部下半指オサエ	やや密	良好	外面：2.5Y8/2　灰白 内面：7.5YR8/3　浅黄橙	体部内外面下半に煤付着
Po13	46	4J-2c	201柱穴（掘立柱建物3）	須恵器	杯身	高：5.2 口：φ13.8	外面：口縁部～体部上半回転ナデ、体部下半回転ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	粗	不良	外面：2.5Y8/2　灰白 内面：2.5Y7/4　浅黄	
Po14	46	4J-2c	212柱穴（掘立柱建物3）	土師器	高杯	高：△6.3 口：φ16.4	外面：ヨコナデ、脚部付近ハケ目 内面：ヨコナデ、ミガキ	密	良好	外面：10YR8/2　灰白 内面：10YR7/2　にぶい黄橙	赤彩
Po15	49	4J-3d	15-3b層	土師器	甕	高：△6.5 口：φ22.9	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：5YR5/6　明赤褐 内面：10YR6/4　にぶい黄橙	
Po16	49	4J-3d	15-3b層	土師器	甕	高：△5.5 口：φ21.4	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：7.5YR6/4　にぶい橙	
Po17	49	4J-3d	15-3b層	土師器	甕	高：△4.7 口：φ19.2	外面：口縁部ナデ、頸部ハケメ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR6/2　灰黄褐	
Po18	49	4J-2e	15-3b層	土師器	甕	高：△4.9 口：φ20.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5YR6/6　橙	
Po19	49	4J-3d	15-3b層	土師器	甕	高：△5.0 口：φ10.0	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y7/4　浅黄	
Po20	49	4J-3d	15-3b層	土師器	甕	高：△4.8 口：φ19.2	外面：口縁部ナデ、頸部ハケメ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR7/4　にぶい黄橙	
Po21	49	4J-3d	15-3b層	土製品	竈	長：△21.6 幅：△7.3 厚：△5.0	外面：ナデ 内面：ナデ・ハケメ・ヘラケズリ	密	良好	外面：5YR7/6　橙 内面：10YR7/4　にぶい黄橙	煤付着
Po22	49	4J-2d	15-3b層	土製品	竈	長：△15.2 幅：△7.7	外面：ナデ	密	良好	内面：7.5YR4/2　灰褐 外面：7.5YR8/4　浅黄橙	
Po23	49	4J-3d	15-3b層	土製品	土製支脚	長：△12.8 幅：△9.0 厚：△8.7	外面：ナデ	密	良好	内外面：7.5YR7/3　にぶい橙	
Po24	49	4J-2d	15-3b層	土製品	土製支脚	長：△12.4 幅：△11.6 厚：△11.7	外面：ナデ、指オサエ	密	良好	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po25	49	4J-3d	15-3b層	土製品	土製支脚	長：△11.5 幅：△7.0 厚：△9.4	外面：ナデ	やや粗	良好	内外面：7.5YR7/4　にぶい橙	
Po26	50	4J-2d	15-3b層	須恵器	杯蓋	高：4.0 口：φ12.0	外面：口縁部回転ナデ、天井部ヘラケズリのちナデ、板目痕 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Po27	50	4J-3d	15-3b層	須恵器	杯蓋	高：3.9 口：φ11.4	外面：口縁部回転ナデ・ヘラケズリ、天井部ヘラケズリのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Po28	50	4J-2d	15-3b層	須恵器	杯蓋	高：4.7 口：φ10.6	外面：口縁部～天井部回転ナデ、天井部ヘラ切り痕 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：7.5Y7/1　灰白	
Po29	50	4J-2d	15-3b層	須恵器	杯蓋	高：△4.1 口：φ11.4	外面：口縁部回転ナデ・回転ヘラケズリ、天井部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：N6/0　灰 内面：5Y4/1　灰	
Po30	50	4J-2e	15-3b層	須恵器	杯蓋	高：4.3 口：φ12.8	外面：口縁部～天井部回転ナデ、天井部ヘラ切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	外面天井部に漆付着
Po31	50	4J-3d	15-3b層	須恵器	杯蓋	高：4.0 口：φ14.5	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Po32	50	4J-2d	15-3b層	須恵器	杯	高：3.8 口：φ12.0	外面：口縁部回転ナデ、底部糸切り痕 内面：回転ナデ	密	良好	外面：N4/0　灰 内面：N7/0　灰白	
Po33	50	4J-2e	15-3b層	須恵器	杯身	高：2.5 口：φ9.2	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラ切り 内面：ナデ、ハケメ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Po34	50	4J-2d	15-3b層	須恵器	杯身	高：3.6 口：10.8	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部ヘラケズリのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	内面口縁部漆付着
Po35	50	4J-3d	15-3b層	須恵器	杯身	高：△3.3 口：φ11.8	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Po36	50	4J-2d	15-3b層	須恵器	杯身	高：4.5 口：φ12.9	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：10YR5/1　褐灰 内面：10YR6/1　褐灰	

土器観察表（２）

掲載番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	器種		法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po37	50	4J-2d	15-3b 層	須恵器	高杯	高：6.3 口：⊕ 11.0 底：⊕ 6.4	外面：杯部口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリのちナデ、脚部回転ナデ 内面：杯部回転ナデ、脚部回転ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Po38	50	4J-2e	15-3b 層	須恵器	高杯	高：△ 7.3 底：9.6	内外面：回転ナデ	密	良好	外面：N5/0　灰 内面：N7/0　灰白	
Po39	50	4J-2d	15-3b 層	須恵器	椀	高：△ 6.7 口：⊕ 14.0	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：N6/0　灰 内面：N7/0　灰白	
Po40	50	4J-2e	15-4b 層	須恵器	長頸壺	高：△ 5.3 口：⊕ 6.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Po41	50	4J-2e	15-4b 層	須恵器	長頸壺	高：△ 8.4 口：⊕ 7.0	外面：回転ナデ、口縁部２条の沈線 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Po42	50	4J-2e	15-3b 層	須恵器	瓶	高：△ 16.3 底：3.6	外面：頸部～底部回転ナデ、頸部・体部に沈線、体部に円形の穿孔、底部回転ヘラ切り 内面：頸部回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Po43	50	4J-2e	15-3b 層	須恵器	鉢	高：10.1 口：⊕ 10.8 底：8.2	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部ナデ・ヘラ切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：2.5Y6/1　黄灰 内面：N6/0　灰	底部穿孔
Po44	50	4J-2b	15-3b 層	須恵器	甑	高：28.0 口：⊕ 23.6 底：⊕ 12.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部回転ナデ、２～３条の沈線３ヶ所、体部下半回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	やや良	内外面：N7/0　灰白	
Po45	50	4J-2d	15-3b 層	須恵器	甕	高：74.9 口：⊕ 32.5	外面：口縁部回転ナデ・波状文及び沈線、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部当て具痕	密	良好	内外面：N6/0　灰	体部自然釉付着
Po46	51	4J-2d	15-3b 層	土製品	玉	長：4.9 幅：2.5 厚：2.5	外面：ナデ			10YR7/3　にぶい黄橙	黒斑あり 重量：37 g
Po47	61	4J-2c	226 溝（竪穴建物１）	土師器	高杯	高：△ 5.5 口：⊕ 16.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ目 内面：ヨコナデ、ミガキ	密	良好	外面：10YR8/3　浅黄橙 内面：10YR7/2　にぶい黄橙	赤彩
Po48	61	4J-2c	226 溝（竪穴建物１）	須恵器	杯身	高：⊕ 4.4 口：⊕ 12.5	外面：口縁部～体部上半回転ナデ、体部下半回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	粗	良好	内外面：N4/0　灰	
Po49	69	4J-1c	23a 層	弥生土器	壺	高：△ 4.8 口：⊕ 14.0	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：7.5YR8/3　浅黄橙	
Po50	69	4J-1c	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 3.6 口：⊕ 10.0	外面：口縁部沈線、頸部～体部ハケメ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR6/2　灰黄褐 内面：2.5Y6/2　灰黄	外面煤付着
Po51	69	4J-3b	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 3.5 口：⊕ 15.8	外面：口縁部９～10 条の平行沈線、頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR8/2　灰白 内面：7.5YR5/4　にぶい褐	口縁部内外面煤付着
Po52	69	4J-1c	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 5.7 口：⊕ 26.8	外面：口縁部沈線、頸部～体部ハケメのちヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	外面煤付着
Po53	69	4J-2c	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 4.4 口：⊕ 17.1	外面：口縁部３条の沈線、ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y7/2　灰黄	
Po54	69	4J-2c	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 4.5 口：⊕ 17.1	外面：口縁部５～６条の沈線、ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリのちナデ	密	良好	内外面：5YR7/4　にぶい橙	
Po55	69	4J-3a	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 4.1 口：⊕ 15.2	外面：口縁部５条の沈線、ハケメのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：5YR7/3　にぶい橙	
Po56	69	4J-1c	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 5.4 口：⊕ 19.4	外面：口縁部 11 条の沈線、ヨコナデ 内面：口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR6/3　にぶい黄橙	
Po57	69	4J-1c	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 4.9 口：⊕ 17.7	外面：口縁部８条の沈線、ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR5/3　にぶい黄褐 内面：5YR6/4　にぶい橙	外面煤付着、口縁部内面接合痕
Po58	69	4J-2b	23a 層	弥生土器	甕	高：△ 7.2 口：⊕ 9.9	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：2.5Y8/2　灰白	外面煤付着
Po59	69	4J-1c	23a 層	弥生土器	高杯	高：△ 3.8 口：⊕ 17.1	外面：口縁部ヨコナデ、杯部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、杯部ハケメ	密	良好	内外面：2.5Y7/2　灰黄	赤彩一部残る
Po60	71	4J-1c	241 溝	土師器	壺	高：19.0 口：12.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、クシ描文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部指オサエ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po61	71	4J-1c	241 溝	土師器	壺	高：△ 7.8 口：20.0	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：2.5Y8/1　灰白	
Po62	71	4J-1c	241 溝	弥生土器	甕	高：△ 4.9 口：⊕ 18.0	外面：口縁部 11 条の沈線、ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR8/1　灰白	体部外面煤付着
Po63	71	4J-1c	241 溝	弥生土器	甕	高：△ 3.8 口：⊕ 21.3	外面：口縁部 12 条の沈線、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良好	外面：2.5Y5/3　黄褐 内面：2.5Y7/3　浅黄	煤付着
Po64	71	4J-1c	241 溝	弥生土器	甕	高：△ 3.7 口：⊕ 15.7	外面：口縁部５条の沈線、ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：2.5Y8/1　灰白	口縁部外面煤付着
Po65	74	4J-1c	242 溝	土師器	甕	高：△ 4.3 口：⊕ 18.9	内外面：ナデ	密	良好	内外面：10YR6/3　にぶい黄橙	外面煤付着
Po66	74	4J-1c	242 溝	弥生土器	甕	高：△ 2.8 口⊕ 12.7	外面：口縁部 11 条の沈線、ヨコナデ 内面：ヘラミガキ	密	良好	外面：2.5Y7/3　浅黄 内面：2.5Y6/3　にぶい黄	
Po67	74	4J-1c	242 溝	弥生土器	甕	高：△ 3.5 口⊕ 22.0	外面：５条の沈線、ナデ 内面：ナデ	密	良好	外面：5YR7/4　にぶい橙 内面：10YR7/2　にぶい黄橙	
Po68	74	4J-1c	242 溝	弥生土器	甕	高：△ 8.0 口：⊕ 15.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR5/3　にぶい黄褐	外面口縁部煤付着
Po69	80	4J-1c	1a 層	磁器	椀	高：△ 2.4 口：⊕ 12.4		密	良好	内外面：明青灰	伊万里焼
Po70		4J-2d	4a 層	陶器	擂鉢			密	良好		片口、備前焼
Po71	80	4J-3d	4a 層	土師器	杯	高：2.9 口：⊕ 11.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部ヨコナデ、底部回転ナデ	密	やや不良	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po72	80	4J-2b	5a 層	瓦質土器	羽釜	高：△ 5.2 口：⊕ 22.6	内外面：ヨコナデ	密	良好	内外面：N4/0　灰	
Po73	80	4J-2c	6a・7a・8a 層	緑釉陶器	椀	高：△ 1.3 口：⊕ 13.6	内外面：回転ナデ	密	良好	施釉部：10Y6/1　灰 露胎部：7.5Y6/3　オリーブ黄	京都洛西産
Po74	80	4J-1c	6a・7a・8a 層	須恵器	杯蓋	高：3.0 口：⊕ 15.1	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリのちナデ、つまみナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	

土器観察表（3）

掲載番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	器種		法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po75	80	4J-1c	6a·7a·8a層	須恵器	高台付杯	高：4.2 口：●14.6	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：N6/0　灰 内面：2.5Y6/1　黄灰	
Po76	80	4J-1c	6a·7a·8a層	須恵器	高台付杯	高：4.4 口：●13.9 底：●11.1	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Po77	80	4J-1c	6a·7a·8a層	瓦質土器	羽釜	高：△4.2 口：●22.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内外面：N3/0　暗灰	
Po78	81	4J-2b	9a層	土師器	甕	高：△6.0 口：●31.2	外面：口縁部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR4/1　褐灰 内面：10YR4/2　灰黄褐	
Po79	81	4J-2b	9a層	土師器	杯	高：△2.6 口：●13.1	内外面：風化により調整不明	密	良好	外面：7.5YR8/4　浅黄橙 内面：7.5YR8/1　灰白	赤彩
Po80	81	4J-3b	9a層	土師器	製塩土器	高：△3.2 口：●14.4	内外面：ナデ	密	良好	内外面：5YR5/6　明赤褐	
Po81	81	4J-2b	9a層	須恵器	杯蓋	高：3.0 口：●13.8	外面：口縁部回転ナデ、回転ヘラケズリ、天井部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Po82	81	4J-2b	9a層	須恵器	杯身	高：3.8 口：●8.4	外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	外面底部ヘラ記号
Po83	81	4J-3b	9a層	須恵器	杯	高：4.1 口：●10.4	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	外面及び内面底部に自然釉付着
Po84	81	4J-2b	9a層	須恵器	短頸壺	高：△3.5 口：●12.4	内外面：ナデ	密	良好	内外面：N4/0　灰	
Po85	81	4J-3b	9a層	瓦質土器	鍋	高：△4.8 口：●25.4	外面：調整不明 内面：ヨコナデ	密	良好	内外面：N3/0　暗灰	
Po86	81	4J-2b	9a層	土製品	土製支脚	長：19.4 幅：16.1 厚：10.1	外面：ナデ、指オサエ	密	良好	外面：5YR7/6　橙 内面：7.5YR4/2　灰褐	孔あり
Po87	81	4J-2b	9a層	土製品	土馬	高：10.2 長：△14.4 幅：5.6	外面：ナデ	密	良好	外面：N6/0　灰	須恵質
Po88	82	4J-2b	10a層	土師器	甕	高：△4.3 口：●25.4	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	やや不良	内外面：2.5YR5/6　明赤褐	
Po89	82	4J-2b	10a層	土師器	甕	高：△8.8 口：●24.3	外面：風化のため調整不明 内面：風化のため調整不明、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：7.5YR7/4　にぶい橙	
Po90	82	4J-2b	10a層	土師器	高杯	高：△5.5 口：●11.4	内外面：ヘラミガキ	密	良好	外面：5YR6/6　橙 内面：5YR6/8　橙	
Po91	82	4J-1b	10a層	土製品	竈	長：△23.1 幅：△14.7	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR8/3　浅黄橙	
Po92	82	4J-2b	10a層	土製品	土製支脚	長：△9.9 幅：△6.4 厚：△9.5	外面：ナデ	密	良好	外面：10YR7/1　灰白 内面：10YR8/2　灰白	
Po93	82	4J-2b	10a層	土製品	土錘	長：4.4 幅：3.0 厚：3.2	外面：ナデ、指オサエ			5YR7/4　にぶい橙	
Po94	82	4J-2b	10a層	須恵器	杯蓋	高：4.1 口：●11.0	外面：口縁部ハケメ・回転ナデ、天井部ナデ、回転ヘラ切りのちナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	外面天井部に線描き「×」、ヘラ記号「×」
Po95	82	4J-2b	10a層	須恵器	杯蓋	高：3.7 口：●11.6	外面：口縁部回転ナデ、天井部ヘラケズリのちナデ、ヘラ切りのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	内面天井部にヘラ記号
Po96	82	4J-1c	10a層	須恵器	杯	高：4.0 口：●13.2	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	内外面：5B4/1 暗青灰	
Po97	82	4J-2b	10a層	須恵器	高台付杯	高：3.9 口：●14.9 底：●9.4	外面：口縁部回転ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：7.5Y7/1　灰白	
Po98	82	4J-2b	11a層	土師器	甕	高：△13.0 口：●21.6	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	粗	やや不良	外面：5YR5/6　明赤褐 内面：7.5YR3/2　黒褐	
Po99	82	4J-2c	11a層	須恵器	杯	高：4.1 口：●14.4	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	不良	内外面：7.5Y7/1　灰白	
Po100	82	4J-2d	11a層	須恵器	高台付杯	高：4.7 口：●12.0 底：●8.0	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Po101	82	4J-2c	11a層	須恵器	杯	高：4.1 口：●12.4	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：10BG5/1　青灰 内面：2.5GY5/1　オリーブ灰	
Po102	82	4J-1c	11a層	須恵器	皿	高：1.5 口：●12.4	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N3/0　暗灰	
Po103	82	4J-1c	11a層	須恵器	壺	高：△3.3 口：●17.1	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ・ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Po104	82	4J-1c	11a層	灰釉陶器	壺	高：△4.4 底：●7.6	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：5Y6/1　灰	外面・内面底部に施釉
Po105	82	4J-3c	12a·13a層	土師器	高台付杯	高：5.0 口：●13.2 底：●7.4	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po106	82	4J-2b	12a·13a層	須恵器	杯	高：5.4 口：●14.6	外面：口縁部回転ナデ、底部：回転糸切り 内面：回転ナデ	密	やや不良	内外面：N6/0　灰	
Po107	82	4J-3c	12a·13a層	須恵器	皿	高：1.7 口：●14.0	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	不良	内外面：5Y8/1　灰白	
Po108	82	4J-3b	12a·13a層	須恵器	装飾壺	高：△4.8 底：●2.4	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Po109	82	4J-2b	12a·13a層	須恵器	壺	高：△7.9 口：●8.3	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N4/0　灰	体部に焼成前穿孔1ヶ所
Po110	83	4J-3c	14-3a層	土師器	甕	高：△7.6 口：●23.2	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y6/2　灰黄 内面：7.5YR7/4　にぶい橙	
Po111	83	4J-2b	14-2a層	土師器	甕	高：△12.2 口：●16.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	粗	良好	外面：7.5YR4/4　褐 内面：7.5YR8/3　浅黄橙	

土器観察表（4）

掲載番号	図版番号	地区	遺構・層位名	器種	法量 (cm)	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Pv112	83	4J-2b	14a 層	土師器	甕	底：△ 5.0 口：※ 23.2	外面：口縁部ナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ハケメ、体部ヘラケズリ	やや粗	良好	外面：5YR5/6　明赤褐 内面：7.5YR6/4　にぶい橙	
Pv113	83	4J-3b	14a 層	土師器	甕	底：△ 12.6 口：※ 25.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	やや密	良好	外面：7.5YR6/6　橙 内面：7.5YR6/8　橙	
Pv114	83	4J-3b	14a 層	土師器	甕	底：△ 23.8 口：※ 26.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	やや粗	良好	外面：7.5YR5/3　にぶい褐 内面：5YR5/6　明赤褐	
Pv115	83	4J-2d	14a 層	土師器	甕	底：△ 8.5 口：※ 25.6	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR8/3　浅黄橙 内面：10YR8/2　灰白	
Pv116	83	4J-2b	14a 層	土師器	甕	底：△ 7.6 口：※ 30.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	やや密	良好	内外面：2.5YR7/6　橙	
Pv117	83	4J-3b	14a 層	土師器	甕	底：△ 11.5 口：※ 31.2	外面：口縁部～体部上端ナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	やや粗	良好	外面：5YR6/6　橙 内面：5YR6/8　橙	
Pv118	83	4J-3b	14a 層	土師器	鉢	底：△ 10.2 底：※ 10.0	外面：ナデ 内面：ハケメ→ヘラケズリのちナデ、下端ナデ	やや粗	良好	外面：5YR5/6　明赤褐 内面：5YR6/6　橙	
Pv119	83	4J-2b	14a 層	土製品	竈	長：△ 5.6 幅：△ 13.6 厚：△ 3.4	外面：ナデ	やや粗	良好	内外面：5YR6/6　橙	煙付着
Pv120	83	4J-2b	14a 層	土製品	竈	長：△ 9.9 幅：△ 13.4 厚：3.6	外面：ナデ	やや粗	良好	外面：10YR4/2　灰黄褐 内面：2.5Y5/2　暗褐	
Pv121	83	4J-2b	14a 層	土製品	竈	長：△ 13.1 幅：△ 8.3 厚：△ 10.5	外面：ナデ	粗	良好	外面：10YR4/3　にぶい黄褐 内面：7.5Y5/8　明褐	
Pv122	83	4J-2b	14a 層	土製品	土製支脚	長：△ 9.8 幅：△ 9.7 厚：△ 7.9	外面：ナデ	やや密	良好	内外面：7.5YR7/4　にぶい橙	
Pv123	83	4J-2b	14a 層	土師器	ミニチュア土器	底：△ 4.2 口：※ 5.0	内外面：ナデ	密	良好	外面：10YR5/2　灰黄褐 内面：10YR5/8　黄褐	
Pv124	83	4J-3b	14a 層	土師器	ミニチュア土器	底：2.4 口：3.3	外面：ナデ、指オサエ 内面：ヘラケズリのちナデ	密	良好	外面：7.5YR6/6　橙 内面：5YR5/6　明赤褐	
Pv125	84	4J-3b	14a 層	須恵器	杯	底：5.6 口：※ 13.7 底：10.0	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	やや不良	内外面：N5/0　灰	
Pv126	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：3.8 口：12.7	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切りのち一部ナデ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	内外面：10Y5/1　灰	
Pv127	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：4.4 口：11.7	内外面：口縁部回転ナデ、以下風化のため調整不明	密	不良	内外面：5Y7/2　灰白	
Pv128	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：5.6 口：※ 12.4 底：※ 8.5	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切りのちナデ 内面：回転ナデ	密	やや良	内外面：7.5Y6/1　灰	
Pv129	84	4J-3b	14a 層	須恵器	杯	底：4.1 口：11.5 底：7.4	外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラケズリのちナデ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	外面：7.5GY6/1　緑灰 内面：5GY5/1　オリーブ灰	
Pv130	84	4J-3b	14a 層	須恵器	杯	底：4.0 口：※ 13.2 底：※ 8.5	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切りのちナデ 内面：回転ナデ	密	やや不良	内外面：5Y7/1　灰白	
Pv131	84	4J-3b	14a 層	須恵器	杯	底：3.7 口：※ 12.2 底：8.7	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Pv132	84	4J-3b	14a 層	須恵器	杯	底：4.4 口：11.3 底：8.2	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り→ヘラケズリのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Pv133	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：4.2 口：12.4 底：9.1	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：5GY6/1　オリーブ灰 内面：5B6/1　青灰	
Pv134	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：4.4 口：12.9	外面：口縁部回転ナデ、体部ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：5GY6/1　オリーブ灰	
Pv135	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：4.7 口：※ 14.6 底：※ 9.3	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、底部ナデ	密	良好	外面：7.5GY5/1　緑灰 内面：10GY5/1　緑灰	
Pv136	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：4.0 口：※ 13.1	内外面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	内外面：7.5Y6/1　灰	
Pv137	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：5.4 口：※ 16.1 底：※ 10.4	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：7.5Y6/1　灰	
Pv138	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯	底：5.6 口：※ 15.4 底：※ 8.2	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、底部ナデ	密	良好	外面：10BG6/1　青灰 内面：7.5GY6/1　緑灰	
Pv139	84	4J-3c	14a 層	須恵器	鉢	底：△ 5.3 口：※ 15.9	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：5Y6/0　灰	
Pv140	84	4J-2b	14a 層	須恵器	高台付杯	底：4.2 口：※ 13.3 底：※ 9.3	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Pv141	84	4J-3b	14a 層	須恵器	高台付杯	底：3.9 口：※ 12.4 底：※ 8.9	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Pv142	84	4J-2b	14a 層	須恵器	壺	底：△ 2.5 口：※ 15.1 底：※ 11.0	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	不良	外面：2.5Y6/3　にぶい黄 内面：7.5Y7/2　灰白	
Pv143	84	4J-2b	14a 層	須恵器	壺	底：1.9 口：※ 12.1 底：※ 7.8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、底部ナデ	密	良好	内外面：7.5Y7/1　灰白 内面：5GY8/1　灰白	
Pv144	84	4J-3c	14a 層	須恵器	杯身	底：△ 3.7 口：※ 9.0	外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ 内面：口縁部回転ナデ、ハケメ、底部ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	立ち大きい
Pv145	84	4J-2b	14a 層	須恵器	杯身	底：3.3 口：10.0	外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	外面：5B/0　灰 内面：N5/0　灰	

土器観察表（5）

掲載番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	器種		法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Pd146	84	4J-2c	14-2a層	須恵器	杯身	高：3.9 口：11.6	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Pd147	84	4J-3c	14-3a層	須恵器	杯身	高：3.8 口：＊12.7	外面：口縁部回転ナデ、回転ヘラケズリ、底部ヘラ切りのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Pd148	84	4J-2b	14-2a層	須恵器	杯身	高：4.2 口：12.8	外面：口縁部回転ナデ、体部：ヘラケズリ、底部：ヘラ切りのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Pd149	84	4J-2b	14-2a層	須恵器	杯身	高：5.1 口：13.8	外面：口縁部回転ナデ、底部：ヘラ切りのちナデ 内面：回転ナデ	密	不良	外面：7.5YR6/2　灰褐 内面：7.5YR7/3　にぶい橙	
Pd150	85	4J-2b	14-3a層	須恵器	高杯	高：△3.7 底：＊8.8	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Pd151	85	4J-2c	14-3a層	須恵器	短頸壺	高：6.9 口：＊4.6	外面：口縁部回転ナデ、体部カキメのちナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	外面：2.5Y6/1　黄灰 内面：N6/0　灰	
Pd152	85	4J-3b	14-3a層	須恵器	甕	高：△3.7 口：＊10.4	外面：口縁部回転ナデ、タタキ 内面：口縁部回転ナデ、当て具痕	密	良好	外面：N6/0　灰 内面：N7/0　灰白	
Pd153	85	4J-1c	14-3a層	須恵器	甕	高：△5.5 口：＊18.7	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部当て具痕	密	良好	内外面：10Y6/1　灰	
Pd154	85	4J-3d	14a層	須恵器	広口壺	高：△8.1 口：＊17.8	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部当て具痕	密	良好	外面：10Y5/1　灰 内面：5PB6/1　青灰	
Pd155	85	4J-3b	14-2a層	須恵器	壺	高：△17.2 底：10.8	外面：口縁部～肩部回転ナデ、体部回転ヘラケズリのち回転ナデ、底部回転ナデ・ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：N6/0　灰 内面：N7/0　灰白	
Pd156	85	4J-2c	14-2a層	須恵器	甕	高：△12.0 口：＊13.9	内外面：回転ナデ	密	良好	外面：N7/0　灰白 内面：N7/0　灰白	外面体部・内面口縁部自然釉付着
Pd157	85	4J-2b	14-2a層	須恵器	横瓶	高：△12.4 口：＊11.4	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部当て具痕	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Pd158	85	4J-3b	14-3a層	須恵器	把手付椀	高：△6.2 胴：10.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデのち指オサエ（把手部分）	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Pd159	85	4J-2b	14a層	土製品	紡錘車	長：2.2 幅：3.4	外面：ナデ			内外面：N7/0　灰白	須恵質
Pd160	86	4J-2b	15-1a層	土師器	甕	高：△5.4 口：＊19.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部～体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5YR5/8　明赤褐 内面：5YR5/8　明赤褐	
Pd161	86	4J-2b	15-1a層	土師器	甕	高：△11.0 口：＊17.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部～体部ヘラケズリ	密	良好	外面：5YR7/8　橙 内面：5YR5/8　明赤褐	
Pd162	86	4J-1c	15-2a層	須恵器	蓋	高：△2.6 口：＊13.8	外面：口縁部～天井部回転ナデ、天井部ヘラケズリのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：N7/0　灰白 内面：N6/0　灰	
Pd163	86	4J-2b	15-1a層	須恵器	高台付杯	高：5.1 口：13.3 底：8.4	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Pd164	86	4J-2d	15-2a層	須恵器	杯	高：4.0 口：＊13.0	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部静止糸切り、板目痕 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	外面に重ね焼き痕
Pd165	86	4J-2b	15-1a層	須恵器	杯	高：4.1 口：＊13.4	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ、放射状・平行状暗文	密	良好	内外面：2.5GY5/1　オリーブ灰	
Pd166	86	4J-2b	15-1a層	須恵器	杯	高：5.7 口：＊15.7 底：＊8.8	外面：口縁部回転ナデ、体部ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	内外面：7.5Y6/1　灰	
Pd167	86	4J-1c	15-1a層	土師器	甕	高：△7.2 口：＊12.0	外面：風化のため調整不明 内面：口縁部ナデ、体部調整不明	やや密	良好	外面：5YR7/6　橙 内面：7.5YR7/4　にぶい橙	
Pd168	86	4J-2c	15-2a層	土師器	甕	高：△8.6 口：＊17.0	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR7/4　にぶい橙 内面：7.5YR6/4　にぶい橙	
Pd169	86	4J-2b	15-1a層	土師器	甕	高：△5.6 口：＊21.1	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：10YR8/2　灰白	煤付着
Pd170	86	4J-3b	15-1a層	土師器	高杯	高：10.7 口：13.5 底：8.9	外面：杯部ヨコナデ、脚柱部ナデ、脚端部ヨコナデ 内面：杯部ヨコナデ、杯底部剥離のため調整不明、脚柱部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	密	良好	内外面：5YR7/6　橙	赤彩
Pd171	86	4J-2d	15-2a層	須恵器	杯蓋	高：△3.8 口：＊9.8	外面：口縁部回転ナデ、天井部ヘラケズリのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	歪み大きい
Pd172	86	4J-2d	15-2a層	須恵器	杯蓋	高：4.2 口：＊11.0	外面：口縁部回転ナデ、天井部ヘラケズリ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密	良好	外面：N6/0　灰 内面：N7/0　灰白	外面自然釉付着
Pd173	86	4J-1c	15-1a層	須恵器	杯身	高：△4.6 口：＊12.2	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部～底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Pd174	86	4J-1c	15-2a層	須恵器	杯蓋	高：4.4 口：14.3	外面：口縁部回転ナデ、天井部ヘラケズリのちナデ、天井部板目痕 内面：口縁部～天井部回転ナデ、天井部当て具痕	粗	良好	外面：2.5GY6/1　オリーブ灰 内面：2.5GY7/1　明オリーブ灰	
Pd175	86	4J-2b	15-1a層	須恵器	杯身	高：3.2 口：11.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Pd176	86	4J-2b	15-1a層	須恵器	杯身	高：3.6 口：＊11.8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	外面底部ヘラ記号
Pd177	86	4J-1c	15-2a層	須恵器	杯身	高：△4.0 口：＊11.6	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：10Y7/1　灰白 内面：N7/0　灰白	外面自然釉付着
Pd178	86	4J-1c	15-2a層	須恵器	杯身	高：△3.9 口：＊13.6 底：＊7.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部回転ヘラケズリ、底部ヘラ切りのちナデ 内面：回転ナデ	粗	良好	内外面：N7/0　灰白	
Pd179	86	4J-1c	15-2a層	須恵器	杯身	高：△3.7 口：＊11.7	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	歪み大きい
Pd180	86	4J-1c	15-2a層	須恵器	杯蓋	高：△4.0 口：＊13.6	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部回転ヘラケズリ、天井部ヘラ切りのちナデ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：2.5GY7/1　明オリーブ灰 内面：10BG7/1　明青灰	
Pd181	86	4J-2c	15-2a層	須恵器	甑	高：△4.7 底：＊11.5	内外面：回転ナデ	密	良好	外面：2.5Y7/1　灰白 内面：2.5Y6/1　黄灰	円形の穿孔2ヵ所

土器観察表（6）

掲載番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	器種		法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po182	86	4J-2d	15-2a層	須恵器	高杯	高：12.8 口：φ14.3 底：10.8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ 内面：杯部口縁部～底部回転ナデ、底部ナデ、脚部回転ナデ	密	良好	外面：N8/0　灰白 内面：N6/0　灰	
Po183	86	4J-1c	15-2a層	須恵器	甕	高：△4.5 口：φ16.2	外面：口縁部～頸部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部～頸部回転ナデ、体部当て具痕	密	良好	外面：N4/0　灰 内面：N6/0　灰	
Po184	86	4J-1c	15-2a層	須恵器	甕	高：△6.3 口：φ21.0	内外面：回転ナデ	密	良好	外面：7.5YR3/1　黒褐 内面：10YR7/1　灰白	自然釉付着
Po185	87	4J-1c	16a層	土師器	壺	高：△10.0 口：φ22.3	内外面：ヨコナデ	密	良好	内外面：10YR7/2　にぶい黄橙	
Po186	87	4J-1c	16a層	土師器	壺	高：△8.7 口：φ18.2	外面：ナデ 内面：口縁部～頸部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y8/2　灰白 内面：10YR8/3　浅黄橙	
Po187	87	4J-2c	16a層	土師器	甕	高：△6.3 口：φ12.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部調整不明 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR7/2　にぶい黄橙	
Po188	87	4J-2b	16a層	土師器	甕	高：△4.7 口：φ18.0	外面：口縁部～体部上半ヨコナデ、体部下半調整不明 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y7/2　灰黄 内面：2.5Y7/3　浅黄	
Po189	87	4J-3c	16a層	土師器	甕	高：△16.7 口：φ13.1	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR8/4　浅黄橙 内面：10YR8/4　浅黄橙	外面体部下半煤付着
Po190	87	4J-1c	16a層	土師器	甕	高：△8.2 口：φ19.0	外面：口縁部～体部ナデ 内面：口縁部～頸部ナデ、体部ヘラケズリ	粗	良好	外面：7.5YR7/6　橙 内面：7.5YR8/6　浅黄橙	
Po191	87	4J-1c	16a層	土師器	甕	高：△5.4 口：φ12.4	外面：口縁部～体部ヨコナデ、体部刺突文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	やや不良	内外面：10YR8/2　灰白	焼成ややあまい
Po192	87	4J-1c	16a層	土師器	甕	高：△6.6 口：φ13.6	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y7/3　浅黄 内面：2.5Y6/2　灰黄	
Po193	87	4J-1c	16a層	土師器	甕	高：△11.9 口：φ8.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部調整不明 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po194	87	4J-1c	16a層	土師器	甕	高：△5.3 口：φ14.4	内外面：ヨコナデ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR7/4　にぶい黄橙	
Po195	87	4J-2b	16a層	弥生土器	壺	高：△5.3 口：φ13.7	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：5YR6/4　にぶい橙	
Po196	87	4J-3b	16a層	土師器	高杯	高：△10.4 口：18.1	外面：杯部ヨコナデ、脚部ヘラミガキ 内面：杯部口縁部ヨコナデ、ミガキ、脚部不調整（絞り痕）	密	良好	内外面：5YR5/8　明赤褐	
Po197	87	4J-2b	16a層	土師器	高杯	高：△9.0 口：φ11.0	外面：杯部～脚部回転ナデ 内面：杯部回転ナデ	密	良好	外面：5YR4/6　赤褐 内面：5YR5/6　明赤褐	脚部に円形透孔3ヵ所
Po198	87	4J-2b	16a層	土師器	低脚杯	高：△4.4 底：φ6.3	外面：回転ナデ 内面：杯部ミガキ	密	良好	外面：7.5YR7/4　にぶい橙 内面：10YR8/2　灰白	
Po199	87	4J-1c	16a層	土師器	小型器台	高：6.5 口：φ9.0 底：φ8.9	外面：ナデ 内面：杯部ナデ、脚部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR8/3　浅黄橙 内面：7.5YR7/6　橙	
Po200	87	4J-3b	16a層	土師器	小型丸底壺	高：8.4 口：7.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：2.5Y6/2　灰黄	
Po201	87	4J-2c	16a層	土師器	椀	高：7.1 口：13.6	外面：口縁部～体部ヘラミガキ、体部～底部剥離のため調整不明 内面：ヨコナデ	密	良好	内外面：5YR6/6　橙	赤彩
Po202	87	4J-1b	16a層	須恵器	杯蓋	高：△3.7 口：φ13.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N6/0　灰	
Po203	87	4J-3d	16a層	須恵器	杯蓋	高：△4.3 口：φ14.2	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密	良好	外面：N3/0　暗灰 内面：N7/0　灰白	外面自然釉付着
Po204	87	4J-2b	16a層	須恵器	杯身	高：4.5 口：φ12.2	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：5Y6/1　灰 内面：5Y5/1　灰	
Po205	87	4J-2d	16a層	須恵器	杯身	高：4.7 口：φ11.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	粗	良好	外面：N5/0　灰 内面：7.5Y6/1　灰	内面底部に当て具痕
Po206	87	4J-2b	16a層	須恵器	杯身	高：△2.8 口：φ13.4	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：N7/0　灰白	
Po207	87	4J-2b	16a層	須恵器	鉢	高：△4.2 口：φ17.6	外面：口縁部に1条の凹線 内面：回転ナデ	密	良好	外面：N6/0　灰 内面：7.5Y6/1　灰	
Po208	88	4J-3c	17a層	土師器	甕	高：△10.7 口：φ14.4	外面：口縁部～体部上半ヨコナデ、体部下半ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体下部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR7/3　にぶい橙 内面：10YR7/2　にぶい黄橙	
Po209	88	4J-2c	17a層	土師器	甕	高：△23.2 口：15.3	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、頸部ナデ、体部ヘラケズリ、体部下半指オサエ	密	良好	内外面：2.5Y7/2　灰黄	外面煤付着
Po210	88	4J-3b	17a層	土師器	甕	高：△18.9 口：15.9	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ、体部櫛描文 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR8/2　灰白	
Po211	88	4J-2c	17a層	土師器	甕	高：△10.1 口：φ30.4	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR8/2　灰白 内面：10YR8/3　浅黄橙	
Po212	88	4J-3b	17a層	土師器	甕	高：△7.1 口：φ9.9	外面：ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	不良	外面：2.5Y7/2　灰黄 内面：2.5Y6/1　黄灰	
Po213	88	4J-3b	17a層	土師器	甕	高：△11.8 口：φ12.5	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ、体部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR6/3　にぶい黄橙 内面：7.5YR5/4　にぶい褐	
Po214	88	4J-2d	17a層	土師器	甕	高：△7.0 口：φ17.4	外面：ヨコナデ（一部風化） 内面：口縁部～頸部ヨコナデ（一部風化）、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y7/2　灰黄	
Po215	88	4J-3c	17a層	土師器	甕	高：△5.8 口：φ14.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y7/2　灰黄	
Po216	88	4J-2b	17a層	土師器	甕	高：△8.5 口：φ16.2	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部櫛描文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	不良	内外面：2.5Y7/2　灰黄	
Po217	88	4J-3b	17a層	土師器	甕	高：△10.9 口：φ15.4	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：5YR5/8　明赤褐 内面：5YR6/6　橙	
Po218	88	4J-2c	17a層	土師器	甕	高：△24.5 口：15.5	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部指オサエ	やや密	良好	外面：2.5Y7/1　灰白 内面：2.5Y7/2　灰黄	外面煤付着
Po219	88	4J-3b	17a層	土師器	甕	高：△10.8 口：φ15.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメのち櫛描文 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR8/3　浅黄橙	
Po220	89	4J-3b	17a層	土師器	直口壺	高：11.6 口：9.2	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR8/2　灰白 内面：10YR7/2　にぶい黄橙	
Po221	89	4J-3b	17a層	土師器	直口壺	高：△12.6 口：φ8.8	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ、体部ハケメ 内面：ヨコナデ、体部ハケメ	密	良好	外面：10YR8/3　浅黄橙 内面：10YR8/2　灰白	体部煤付着

土器観察表（７）

掲載番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	器種		法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po222	89	4J-2b	17a層	土師器	直口壺	高：14.8 口：9.6	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ，体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ，底部指オサエ	密	良好	内外面：10YR7/2　にぶい黄橙	赤彩
Po223	89	4J-3b	17a層	土師器	直口壺	高：△7.4 口：＊11.5	外面：口縁端部ヨコナデ，口縁部ハケメ，頸部ヨコナデ，体部櫛描文 内面：口縁部～頸部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y7/2　灰黄 内面：10YR7/3　にぶい黄橙	赤彩
Po224	89	4J-3b	17a層	土師器	直口壺	高：11.4 口：＊10.4	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	密	良好	外面：5Y7/1　灰白 内面：2.5Y6/3　にぶい黄	
Po225	89	4J-2c	17a層	土師器	小型壺	高：△7.8 口：＊9.0	外面：口縁部ヨコナデ，体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y6/2　灰黄	煤付着
Po226	89	4J-2b	17a層	土師器	小型壺	高：6.8 口：9.0 底：2.7	外面：口縁部ヨコナデ，体部無調整・指オサエ 内面：口縁部ハケメ，体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y7/2　灰黄	
Po227	89	4J-2c	17a層	土師器	高杯	高：13.5 口：＊16.2 底：9.2	外面：口縁部ヨコナデ，体部～脚柱部ハケメ，脚柱部ヘラミガキ，脚端部ヨコナデ 内面：内部ミガキ，脚柱部絞り痕，脚端部ハケメ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR7/4　にぶい黄橙	赤彩
Po228	89	4J-3b	17a層	土師器	高杯	高：11.3 口：＊16.8 底：9.2	外面：口縁部～脚端部ナデ 内面：杯部ナデ，脚柱部ヘラケズリ，脚端部ナデ	粗	良好	外面：5YR6/6　橙 内面：7.5YR8/4　浅黄橙	摩耗のため調整不明瞭 脚部に円形穿孔２ヵ所
Po229	89	4J-3b	17a層	土師器	高杯	高：△6.5 口：＊15.3	外面：口縁部ヨコナデ，体部ハケメ 内面：風化のため調整不明	密	良好	内外面：5YR5/6　明赤褐	
Po230	89	4J-3b	17a層	土師器	高杯	高：13.9 口：21.2 底：13.2	外面：杯部口縁端部ヨコナデ，体部ハケメ，底部回転ナデ，脚柱部ヘラミガキ，脚裾部ヨコナデ 内面：杯部口縁端部ヨコナデ，杯部ハケメのちミガキ，脚柱部絞り痕，脚裾部指オサエ	密	良好	外面：7.5YR8/3　浅黄橙 内面：10YR7/3　にぶい黄橙	赤彩
Po231	89	4J-2b	17a層	土師器	高杯	高：△15.5 口：＊20.9 底：＊13.7	外面：杯部ヨコナデ，脚部ヘラミガキ，脚裾部ヨコナデ 内面：杯部ミガキ，脚部指頭痕，脚端部ハケメ	密	良好	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	赤彩
Po232	89	4J-2c	17a層	土師器	鉢	高：△9.4 口：＊31.4	外面：口縁部ヨコナデ，体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y6/2　灰黄 内面：2.5Y7/2　灰黄	
Po233	89	4J-2c	17a層	土師器	鉢	高：△9.0 口38.0	外面：口縁部ヨコナデ，体部ハケメ，ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：7.5Y7/3　にぶい橙	口縁部に接合痕
Po234	89	4J-3c	17a層	土師器	低脚杯	高：△4.0 口：＊14.1	外面：杯部ハケメのちヘラミガキ，脚部ヘラミガキ 内面：杯部ナデ	密	良好	内外面：5YR7/6　橙	
Po235	89	4J-3a	17a層	土師器	小型器台	高：△6.1 底：＊11.6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ・ハケメ	密	良好	外面：7.5YR6/4　にぶい橙 内面：7.5YR7/3　にぶい橙	
Po236	89	4J-2d	17a層	須恵器	高杯	高：10.3 口：12.8 底：9.5	外面：杯部口縁部－体部回転ナデ，底部回転ヘラケズリ，脚部回転ナデ 内面：杯部回転ナデ，脚部回転ヘラケズリ，脚端部回転ナデ	やや密	良好	内外面：N4/0　灰	有蓋，脚部に円形穿孔３ヵ所
Po237	90	4J-2c	18a層	土師器	壺	高：△15.0 口：＊15.1	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ，体部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ，体部ヘラケズリ，頸部指オサエ	密	良好	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	内面口縁部に接合痕
Po238	90	4J-2c	18a層	土師器	壺	高：△16.4 口：17.5	外面：口縁部～体部上端ヨコナデ，体部刺突文，櫛描文 内面：口縁部－頸部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR8/4　浅黄橙 内面：10YR8/4　浅黄橙	
Po239	90	4J-3a	18a層	土師器	壺	高：△18.0 口：＊24.9	外面：口縁部ヨコナデ，体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	外面：5YR7/6　橙 内面：5YR6/6　橙	内面口縁部に接合痕，口縁部に黒斑
Po240	90	4J-1c	18a層	土師器	甕	高：△5.5 口：＊14.0	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：7.5YR6/2　灰褐	外面煤付着
Po241	90	4J-1c	18a層	土師器	甕	高：△7.4 口：＊14.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明，体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：5YR7/4　にぶい橙	
Po242	90	4J-1d	18a層	土師器	甕	高：△10.0 口：＊15.2	外面:口縁部ヨコナデ,体部平行沈線,ハケメ,キザミ目（３本） 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：7.5YR8/2　灰白	
Po243	90	4J-2b	18a層	土師器	甕	高：△9.0 口：＊15.7	外面：口縁部～体部ヨコナデ，体部ハケメ 内面：口縁部－頸部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	外面体部下半煤付着
Po244	90	4J-1c	18a層	土師器	甕	高：△5.2 口：＊18.6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR8/2　灰白	
Po245	90	4J-3a	18a層	土師器	甕	高：△10.4 口：＊14.4	外面：口縁部ヨコナデ，体部上半ハケメのち刺突文，体部上半ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y7/2　灰黄 内面：2.5Y7/1　灰白	
Po246	90	4J-1c	18a層	土師器	甕	高：△28.9 口：＊24.6	外面：口縁部ヨコナデ，体部ハケメ・部分的にヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ，体部上半ハケメのちヘラミガキ，体部下半ハケメ	密	良好	外面：2.5Y7/2　灰黄 内面：2.5Y7/3　浅黄	
Po247	90	4J-2b	18a層	土師器	甕	高：△21.0 口：＊26.6	外面：口縁部～頸部ヨコナデ，体部上端平行沈線，体部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ，体部ハケメ	密	良好	内外面：10YR8/2　灰白	口縁端部黒斑
Po248	91	4J-1c	18a層	土師器	甕	高：△6.7 口：＊12.5	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：7.5YR7/3　にぶい橙	外面煤付着
Po249	91	4J-3b	18a層	土師器	甕	高：△7.1 口：＊10.6	外面：風化のため調整不明 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	やや密	やや良	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR8/1　灰白	
Po250	91	4J-3a	18a層	土師器	高杯	高：14.7 口：＊20.2 底：＊13.4	外面：杯部ヨコナデ，脚部ヘラミガキ 内面：杯部ヨコナデ，脚柱部絞り痕，脚部ヨコナデ	密	良好	内外面：10YR8/4　浅黄橙	
Po251	91	4J-3a	18a層	土師器	高杯	高：△13.0 口：＊19.8 底：＊11.5	外面：口縁部ヨコナデ，杯部外面ミガキ・ハケメ，脚部ハケメ，脚端部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，体部調整不明，底部ハケメ，脚部ヘラケズリ，脚端部ヨコナデ	密	良好	内外面：10YR8/2　灰白	赤彩か
Po252	91	4J-1c	18a層	土師器	高杯	高：10.6 口：＊17.2 底：11.4	外面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラミガキ，脚部ハケメ，脚端部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ミガキ，脚部ヘラケズリ，脚端部ヨコナデ	密	良好	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	赤彩

土器観察表（8）

掲載番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	器種		法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po253	91	4J-3d	18a 層	土師器	高杯	高：13.0 口：17.6 底：9.6	外面：口縁部ヨコナデ、体部～脚部上半ハケメ、脚部剥離のため調整不明 内面：口縁部ヨコナデ、内面ミガキ、脚部絞り痕、端部ハケメ	密	良好	外面：10YR8/2　灰白 内面：2.5Y8/3　淡黄	赤彩
Po254	91	4J-3b	18a 層	土師器	高杯	高：△6.5 口：※24.0	外面：口縁部ヘラミガキ、風化のため調整不明 内面：ヘラミガキ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：5YR8/4　淡橙	赤彩
Po255	91	4J-2b	18a 層	土師器	鼓形器台	高：△5.1 底：※17.9	外面：ヨコナデ 内面：脚端部ヨコナデ、脚部上半ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po256	91	4J-1c	18a 層	土師器	低脚杯	高：7.4 口：※14.8 底：※6.4	内外面：ヨコナデ	密	良好	外面：10YR8/2　灰白 内面：7.5YR8/4　浅黄橙	
Po257	91	4J-2c	18a 層	土師器	直口壺	高：12.3 口：9.9	外面：口縁部～体部ヨコナデ、体部下半ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部指オサエ	密	良好	外面：2.5Y7/1　灰白 内面：2.5Y7/2　灰黄	
Po258	91	4J-3d	18a 層	土師器	直口壺	高：14.7 口：※10.4	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y7/3　浅黄 内面：2.5Y8/2　灰白	
Po259	91	4J-3a	18a 層	土師器	長頸壺	高：△14.8	外面：頸部ヘラミガキ、体部上端ハケメ・キザミ目、体部ハケメのちヘラミガキ 内面：頸部ナデ、体部上半指頭痕、下半ナデ	密	良好	外面：7.5YR8/2　灰白 内面：2.5Y7/1　灰白	
Po260	91	4J-1c	18a 層	土師器	長頸壺	高：△8.3 口：11.5	外面：口縁部ヘラミガキ、頸部ヨコナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部：ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po261	91	4J-3a	18a 層	土師器	小型器台	高：10.0 口：10.8 底：11.0	外面：風化により調整不明 内面：脚柱部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR8/3　浅黄橙 内面：10YR8/2　灰白	
Po262	91	4J-1c	18a 層	土師器	小型丸底壺	高：8.3 口：※8.1	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～体部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5Y7/2　灰黄 内面：2.5Y7/1　灰白	
Po263	91	4J-2b	18a 層	土師器	小型丸底壺	高：△8.4 口：※8.0	外面：口縁端部ヨコナデ、口縁部～体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：2.5Y6/2　灰黄	外面及び内面体部上端赤彩
Po264	91	4J-3b	18a 層	土師器	小型丸底壺	高：△9.5 口：8.6	外面：口縁部ヨコナデ、体部風化により調整不明、底部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR8/1　灰白 内面：10YR6/3　にぶい黄橙	
Po265	91	4J-1d	18a 層	土師器	椀	高：6.0 口：13.1	内外面：ヘラミガキ	密	良好	外面：7.5YR7/6　橙 内面：7.5YR7/4　にぶい橙	
Po266	91	4J-1d	18a 層	土師器	椀	高：△6.2 口：※14.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ 内面：ヨコナデ	密	良好	外面：5YR5/6　明赤褐 内面：5YR7/6　橙	
Po268	91	4J-3b	18a 層	土師器	椀	高：4.3 口 11.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po267	91	4J-1c	18a 層	土師器	椀	高：5.5 口：11.0	外面：口縁部～体部ハケメのちナデ、底部ヘケズリのちナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリのちナデ	密	良好	内外面：5Y7/1　灰白	外面口縁部に黒斑あり
Po269	91	4J-1d	18a 層	土師器	椀	高：4.9 口：※12.8	内外面：ナデ、指オサエ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR6/3　にぶい黄橙	
Po270	91	4J-2d	18a 層	土師器	脚付椀	高：9.8 口：12.6 底：8.4	外面：口縁部～脚部上半ナデ、脚部下半指頭痕 内面：杯部ナデ、脚部絞り痕・ナデ	密	良好	内外面：2.5Y7/2　灰黄	
Po271	91	4J-3d	18a 層	須恵器	杯蓋	高：△4.4 口：※15.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	不良	内外面：2.5Y8/1　灰白	内面天井部に当て具痕
Po272	91	4J-1d	18a 層	須恵器	杯蓋	高：4.9 口：15.5	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	
Po273	91	4J-3d	18a 層	須恵器	杯蓋	高：5.1 口：※14.0	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：N5/0　灰	外面天井部にヘラ記号
Po274	91	4J-2d	18a 層	須恵器	杯蓋	高：5.3 口：※15.2	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	粗	やや不良	外面：5Y7/1　灰白 内面：10YR7/2　にぶい黄橙	
Po275	92	4J-3a	16a ～ 18a 層	土師器	甕	高：△30.4 口：※14.8	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部上端刺突文、体部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR8/2　灰白 内面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po276	92	4J-2c	16a ～ 18a 層	土師器	甕	高：△23.6 口：※14.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、肩部・底部付近指オサエ	密	良好	外面：2.5Y7/2　灰黄 内面：2.5Y6/1　黄灰	
Po277	92	4J-2b	16a ～ 18a 層	土師器	高杯	高：13.0 口：※21.0 底：11.3	外面：杯部剥離のため調整不明、脚柱部ヘラミガキ、脚裾部ヨコナデ 内面：杯部剥離のため調整不明、脚部ヘラケズリ	密	やや不良	外面：5YR6/6　橙 内面：10YR5/4　にぶい黄褐	赤彩
Po278	92	4J-2b	16a ～ 18a 層	土師器	高杯	高：△12.2 口：※19.0 底：※9.8	外面：杯部ハケメ、脚部ナデ 内面：杯部ミガキ、脚部絞り痕・ハケメ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR7/2　にぶい黄橙	赤彩か
Po279	92	4J-2b	16a ～ 18a 層	土師器	小型丸底壺	高：△6.5 口：※9.0	外面：ハケメ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：5YR5/6　明赤褐 内面：5YR4/6　赤褐	
Po280	92	4J-2a	16a ～ 18a 層	土師器	小型丸底壺	高：△8.0 口：※8.4	外面：口縁部ナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：5YR7/8　橙 内面：10YR6/2　灰黄褐	内面口縁部に煤付着
Po281	92	4J-3a	16a ～ 18a 層	土師器	小型丸底壺	高：△5.2	外面：体部上半剥離のため調整不明、下半ハケメ 内面：ヘラケズリ	密	良好	内外面：5YR6/6　橙	煤付着
Po282	92	4J-2b	16a ～ 18a 層	弥生土器	甕	高：△4.1 口：※20.0	外面：口縁部3条の沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ	粗	良好	外面：7.5YR8/2　灰白 内面：7.5YR8/3　浅黄橙	煤付着
Po283	92	4J-2b	16a ～ 18a 層	弥生土器	蓋	高：△4.3	外面：16 条の沈線、体部ハケメ 内面：絞り痕	密	良好	外面：7.5YR7/6　橙 内面：7.5YR7/4　にぶい橙	つまみ天井部に波状文
Po284	93	4J-1c	19a 層	土師器	壺	高：△14.9 口：※17.6	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ・波状文 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR8/2　灰白 内面：10YR8/3　浅黄橙	煤付着
Po285	93	4J-1c	19a 層	土師器	甕	高：△13.2 口：※16.8	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～体部ハケメのちナデ、体部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：10YR5/2　灰黄褐	外面体部下半煤付着
Po286	93	4J-1c	19a 層	土師器	低脚杯	高：8.5 口：※15.9 底：※8.5	内外面風化のため調整不明	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po287	93	4J-1c	19a 層	弥生土器	甕	高：△6.4 口：※17.6	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～体部風化のため調整不明 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：7.5YR8/3　浅黄橙	口縁端部黒斑

土器観察表（９）

掲載番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	器種		法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po288	93	4J-1c	19a 層	弥生土器	壺	高：△10.1 口：＊14.5	外面：口縁部3条の沈線、頸部ヨコナデ、体部ハケメ・刺突文 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、体部ヘラケズリ	やや粗	良好	外面：7.5YR7/4　にぶい橙 内面：2.5Y8/1　灰白	
Po289	94	4J-3a	20b 層	土師器	壺	高：△13.1 口：16.8	外面：口縁部～体部上半ヨコナデ、波状文、下半ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po290	94	4J-2b	20b 層	土師器	壺	高：△18.8 口：＊18.6	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/3　にぶい黄橙 内面：2.5Y7/2　灰黄	
Po291	94	4J-3a	20b 層	土師器	甕	高：△5.4 口：＊14.7	外面：口縁部～頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR7/2　にぶい黄橙	
Po292	94	4J-2b	20b 層	土師器	甕	高：△9.0 口：13.0	外面：口縁部～体部上半ヨコナデ・クシ描文、下半ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部調整不明	密	良好	外面：2.5Y8/2　灰白 内面：10YR8/2　灰白	
Po293	94	4J-3b	20b 層	土師器	甕	高：△7.3 口：＊16.1	外面：口縁部ヨコナデ　頸部～体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR8/3　浅黄橙	
Po294	94	4J-2b	20b 層	土師器	甕	高：△7.0 口：＊16.1	外面：口縁部～体部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po295	94	4J-2b	20b 層	土師器	甕	高：△7.4 口：＊17.1	外面：口縁部～体部回転ナデ、体部ハケメのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po296	94	4J-2b	20b 層	土師器	甕	高：△10.0 口：＊16.1	外面：口縁部～体部上半ヨコナデ、下半波状文、ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：2.5Y8/2　灰白	
Po297	94	4J-2b	20b 層	土師器	甕	高：△8.4 口：＊16.0	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ、クシ描文 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR7/4　にぶい橙 内面：7.5YR7/3　にぶい橙	
Po298	94	4J-3a	20b 層	土師器	甕	高：△11.9 口：＊22.4	外面：口縁部剥離のため不明、頸部ヨコナデ、体部ハケメのち波状文 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po299	94	4J-3b	20b 層	土師器	甕	高：△5.9 口：＊18.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR7/2　にぶい黄橙	
Po300	94	4J-1c	20b 層	土師器	甕	高：△22.1 口：＊23.1	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラミガキ、体部下半ヘラケズリのちヘラミガキ	密	良好	外面：2.5Y8/1　灰白 内面：2.5Y8/3　淡黄	煤付着
Po301	95	4J-1c	20b 層	土師器	高杯	高：△5.5 口：＊16.7	外面：口縁部回転ナデ、底部ハケメ 内面：ミガキ	密	良好	内外面：5YR7/6　橙	
Po302	95	4J-1c	20b 層	土師器	高杯	高：△7.8 口：＊22.0	外面：回転ナデ・指オサエ 内面：ミガキ	密	良好	内外面：5YR6/6　橙	
Po303	95	4J-1c	20b 層	土師器	高杯	高：△7.4 底：10.0	外面：ヘラケズリ 内面：脚柱部絞り痕、脚端部ヘラケズリ	密	良好	内外面：7.5YR6/8　橙	
Po304	95	4J-1c	20b 層	土師器	高杯	高：△6.1 底：＊19.0	内外面：ナデ	密	良好	内外面：5YR7/6　橙	脚部に円形透孔2ヵ所
Po305	95	4J-1c	20b 層	土師器	長頸壺	高：△8.4 口：10.5	外面：口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ、頸部ヨコナデ 内面：ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po306	95	4J-1c	20b 層	土師器	小型器台	高：△2.5 口：＊12.0	外面：ナデ 内面：ヘラミガキ	密	良好	外面：5YR7/6　橙 内面：7.5YR8/2　灰白	
Po307	95	4J-1c	20b 層	土師器	椀	高：4.5 口：＊11.3	外面：ナデ 内面：指オサエ	密	良好	内外面：5YR7/6　橙	
Po308	95	4J-2d	20b 層	土師器	椀	高：△5.6 口：＊12.0	内外面：ヘラミガキ	密	良好	外面：2.5YR6/8　橙 内面：5YR6/6　橙	外面煤付着
Po309	95	4J-1c	20b 層	土師器	ミニチュア土器	高：△2.0	内外面：指オサエ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po310	95	4J-2b	20b 層	弥生土器	甕	高：△8.1 口：＊11.4	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～体部ハケメ、体部キザミメ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	
Po311	95	4J-3b	20b 層	弥生土器	甕	高：△7.7 口：＊15.8	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：2.5Y8/2　灰白	外面煤付着
Po312	95	4J-2b	20b 層	弥生土器	甕	高：△5.9 口：＊16.7	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR5/4　にぶい褐 内面：7.5YR6/4　にぶい橙	
Po313	95	4J-2a	20b 層	弥生土器	鼓形器台	高：△12.2 口：＊18.6	外面：受部下端・脚部上端に多条沈線、その他剥離のため調整不明 内面：上半剥離のため調整不明、下半ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR6/4　にぶい橙 内面：7.5YR6/6　橙	
Po314	95	4J-3a	20b 層	弥生土器	壺	高：△6.7 口：＊16.9	外面：3条の沈線、貝殻腹縁による刺突文 内面：上半ナデ、下半ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR7/4　にぶい橙 内面：10YR7/1　灰白	外面一部に煤付着
Po315	95	4J-2b	20b 層	弥生土器	甕	高：△5.9 口：＊15.9	外面：口縁部風化のため調整不明、頸部～体部ヨコナデ 内面：口縁部風化のため調整不明、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：10YR7/2　にぶい黄橙 内面：10YR7/3　にぶい黄橙	
Po316	95	4J-2b	20b 層	弥生土器	甕	高：△13.3 口：＊18.0	外面：口縁部櫛描平行沈線のちナデ、体部ハケメ 内面：口縁部風化により調整不明、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR8/2　灰白	外面体部煤付着
Po317	95	4J-3b	20b 層	弥生土器	甕	高：△5.1 口：＊17.1	外面：口縁部平行沈線、頸部ヨコナデ、肩部キザミメ 内面：口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	密	良好	外面：2.5YR6/2　灰黄 内面：2.5YR5/1　黄灰	
Po318	95	4J-2b	20b 層	弥生土器	甕	高：△5.0 口：17.7	外面：口縁部8条の沈線、ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：5YR7/6　橙	外面煤付着
Po319	95	4J-3a	20b 層	弥生土器	甕	高：△5.0 口：＊13.4	外面：口縁部4条の沈線、頸部～体部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：7.5YR7/2　明褐灰	
Po320	95	4J-2a	20b 層	弥生土器	甕	高：△5.1 口：17.2	外面：口縁部3条の沈線、頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	密	良好	内外面：10YR7/3　にぶい黄橙	外面口縁部煤付着
Po321	95	4J-2b	20b 層	弥生土器	壺	高：△8.0 口：16.8	外面：口縁部ハケメ・ヨコナデ、頸部～体部ハケメのちナデ 内面：口縁部ナデ、頸部～体部ヘラケズリ	密	良好	外面：7.5YR6/4　にぶい橙 内面：7.5YR7/4　にぶい橙	
Po322	95	4J-3b	20b 層	弥生土器	長頸壺	高：△6.7 口：＊13.0	外面：口縁部3条の沈線、頸部ハケメのちナデ 内面：ナデ	密	良好	内外面：2.5YR6/8　橙	口縁部内面に接合痕

石器観察表

掲載番号	挿図番号	地区	層位・遺構	器種	法量（cm）	重量（g）	特徴	備考
S1	64	4J-2b	217土坑	管玉	長：1.9 幅：0.4 厚：0.4	0.4		緑色珪質凝灰岩
S2	96	4J-2d	15-3b層	磨製石斧	長：11.8 幅：5.0 厚：3.4	306		凝灰質安山岩→砂岩？
S3	96	4J-3c	16a層	磨製石斧	長：16.0 幅：4.7 厚：4.6	837	刃先に使用痕あり	
S4	96	4J-2d	20b層	磨製石斧	長：12.0 幅：5.5 厚：2.9	315		結晶片岩
S5	96	4J-3b	16a層	紡錘車	長：5.9 幅：5.7 厚：2.4	83.2		未成品 凝灰岩質
S6	96	4J-2b	15a層	砥石	長：△9.7 幅：4.0 厚：2.9	136		凝灰岩質

木器観察表

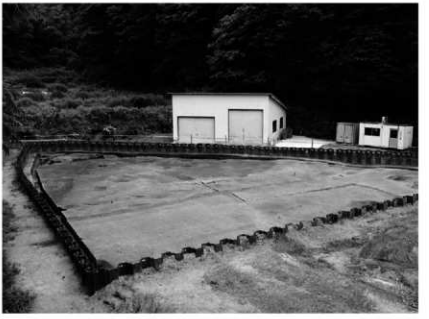
掲載番号	挿図番号	地区	遺構・層位名	種別	法量（cm）	年輪（/3cm）	木取り	備考
W1	46	4J-2c	210柱穴	木片	長：34.5 幅：15.8 厚：12.2	16本	板目	
W2	46	4J-2c	210柱穴	木片	長：28.0 幅：11.5 厚：8.3	11本	板目	
W3	51	4J-3d	15-3b層	馬形	長：△14.7 幅：2.2 厚：0.5	12本	板目	
W4	51	4J-3c	15-4b層	舟形	長：△25.0 幅：△4.4 厚：△2.2	24本	板目	
W5	51	4J-2d	15-3b層	舟形	長：△18.3 幅：△6.1 厚：△2.1	15本	板目	
W6	51	4J-2c	15-4b層	武器形	長：△20.9 幅：2.0 厚：0.4		板目	
W7	51	4J-2c	15-4b層	武器形	長：△20.8 幅：2.0 厚：0.4		板目	先端欠損、剣形もしくは刀形か
W8	51	4J-3d	15-4b層	斎串	長：△16.1 幅：1.4 厚：0.4	30本	板目	
W9	51	4J-3d	15-3b層	斎串	長：15.3 幅：1.2 厚：0.5	12本	板目	
W10	51	4J-3d	15-3b層	斎串	長：△20.6 幅：2.4 厚：0.4	24本	板目	
W11	51	4J-2c	15-3b層	斎串	長：22.1 幅：1.9 厚：0.4		板目	
W12	51	4J-3d	15-3b層	斎串	長：17.4 幅：2.4 厚：0.7	30本	板目	
W13	51	4J-3d	15-3b層	燃えさし	長：22.5 幅：1.7 厚：0.7	24本	板目	
W14	51	4J-3d	15-3b層	燃えさし	長：13.7 幅：0.9 厚：0.8	24本	板目	
W15	51	4J-2d	15-3b層	燃えさし	長：△17.5 幅：0.9 厚：0.7		板目	
W16	51	4J-2d	15-3b層	燃えさし	長：24.9 幅：1.3 厚：0.9	12本	板目	
W17	51	4J-3d	15-3b層	燃えさし	長：26.1 幅：1.0 厚：0.7		板目	
W18	51	4J-3d	15-3b層	燃えさし	長：18.5 幅：1.6 厚：0.6	12本	板目	
W19	51	4J-3d	15-3b層	燃えさし	長：19.4 幅：1.7 厚：0.8	18本	板目	
W20	51	4J-2d	15-3b層	燃えさし	長：41.9 幅：3.8 厚：1.6		板目	
W21	52	4J-2c	15-4b層	横槌	長：19.8 幅：8.6 厚：5.4	15本	板目	身・握りとも断面方形、握り端部欠損
W22	52	4J-2d	15-3b層	把手状木製品	長：△6.9 幅：5.8 厚：3.9		芯持材	片側欠損
W23	52	4J-2d	15-3b層	把手状木製品	長：△8.8 幅：5.4 厚：5.9		芯持材	片側欠損
W24	52	4J-2e	15-4b層		高：△8.8 底：径10.4 厚：0.9			体部に穿孔1ヵ所、上部欠損、外面に漆塗
W25	52	4J-3d	15-3b層	曲物底板	長：△33.5 幅：△13.8 厚：1.0	16本	板目	
W26	52	4J-2d	15-3b層		長：13.7 幅：10.5 厚：2.0		板目	中央に方形の枘穴（非貫通）
W27	52	4J-2d	15-3b層	升状木製品	長：31.1 幅：8.0 厚：4.7		芯去材	
W28	52	4J-2c	15-4b層	棒状木製品	長：△15.1 幅：2.0 厚：2.0	18本	板目	
W29	52	4J-3d	15-3b層	棒状木製品	長：41.2 幅：3.8 厚：1.5	24本	板目	
W30	52	4J-2d	15-3b層	板状木製品	長：39.2 幅：11.0 厚：3.0	12本	板目	
W31	52	4J-2d	15-3b層	板状木製品	長：16.5 幅：4.4 厚：2.2	13本	板目	
W32	52	4J-2d	15-3b層	板状木製品	長：17.4 幅：5.9 厚：2.0	11本	板目	
W33	52	4J-3d	15-3b層	杭	長：△21.9 幅：3.9 厚：1.7	21本	板目	
W34	71	4J-1c	241溝	板状木製品	長：59.1 幅：15.4 厚：1.6	51本	板目	[illegible]板か
W35	77	4J-2d	木製構造物	棒状木製品	長：△71.8 幅：4.8 厚：3.2	18本	板目	
W36	79	4J-3a	23a層	建築部材	長：△193.9 幅：23.4 厚：4.8	24本	板目	輪薙込の仕口、貫通孔あり
W37	96	4J-3a	20b層	燃えさし	長：9.6 幅：1.2 厚：0.7		板目	

写真図版

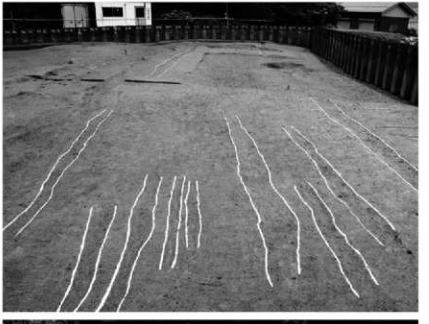
写真図版 1 ～ 24　遺構写真
写真図版 25 ～ 41　遺物写真

図版１

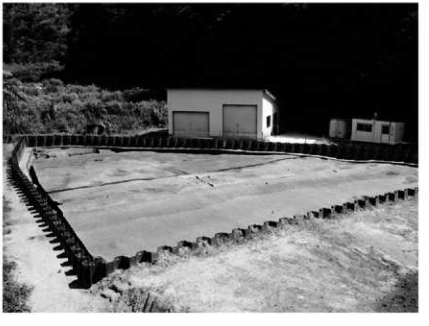
1面・2面



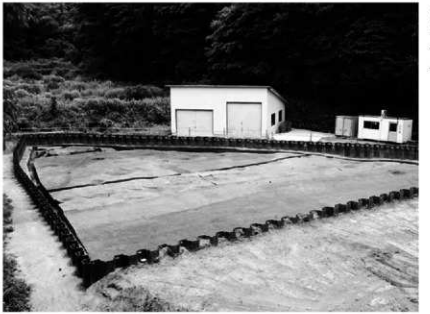
1　１面全景（北西から）



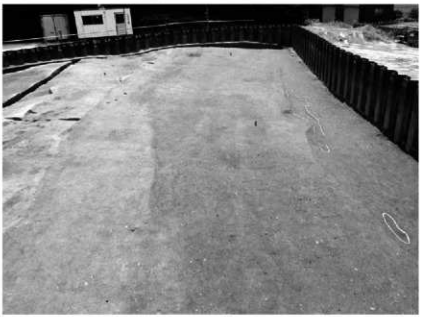
2　耕作溝（北から）



3　２面全景（北西から）



１　３面全景（北西から）



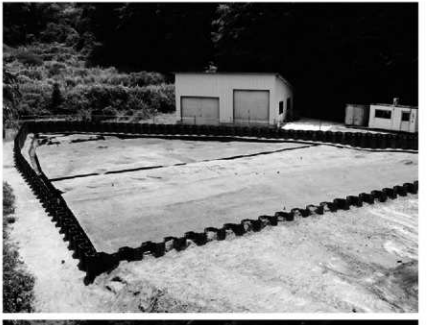
２　２溝完掘状況（北から）

３　３溝完掘状況（北から）

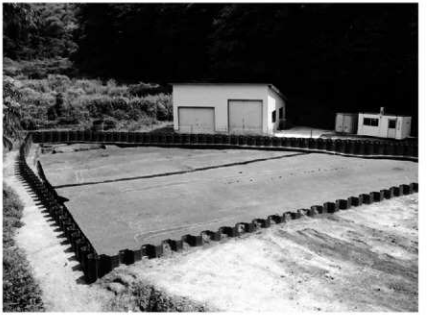
図版３

３面（２）・４面・５面

１　偶蹄類足跡（南西から）

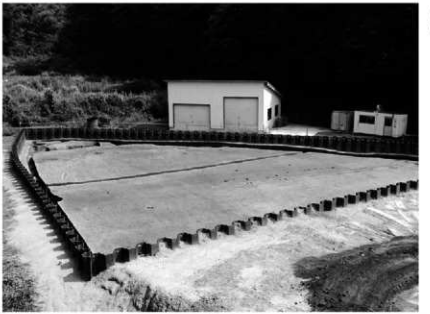


２　４面全景（北西から）



３　５面全景（北西から）

６面



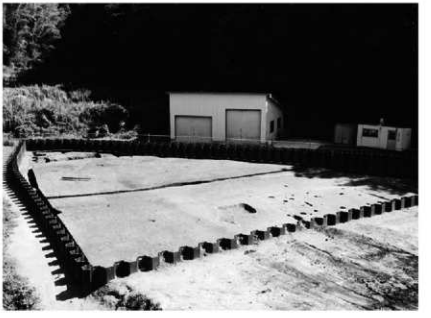
１　６面全景（北西から）

２　耕作段差（東から）

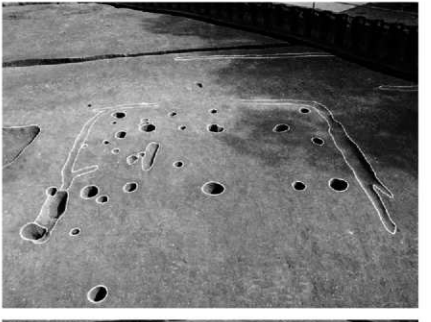
３　耕作溝（北西から）

図版５

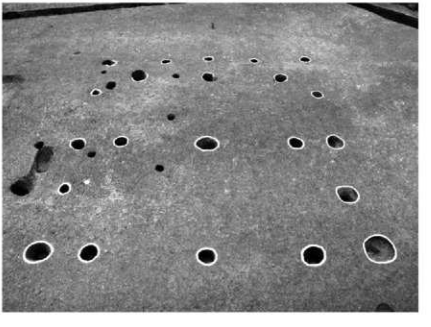
９面（１）



１　９面全景（北西から）



２　掘立柱建物１検出状況１
（西から）



３　掘立柱建物１検出状況２
（西から）

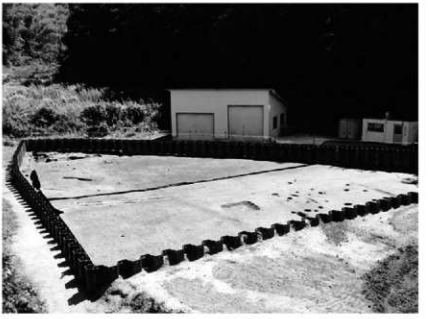
1　37土坑（南西から）

2　37土坑遺物出土状況
（西から）

3　66土坑（北東から）

図版７

10面（1）



1　10面全景（北西から）

2　掘立柱建物２検出状況（西から）

3　掘立柱建物２（西から）

1　73柱穴（東から）

2　75柱穴（北西から）

3　76柱穴（西より）

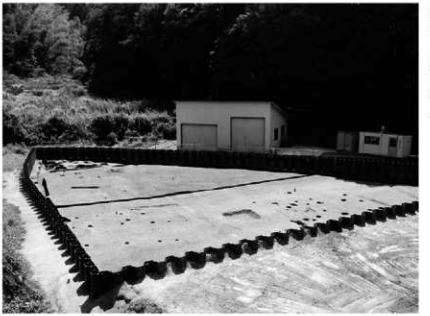
図版 9

10面（3）

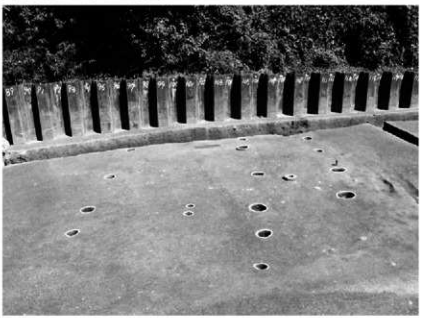
1　78 柱穴（南より）

2　250 ピット（南西より）

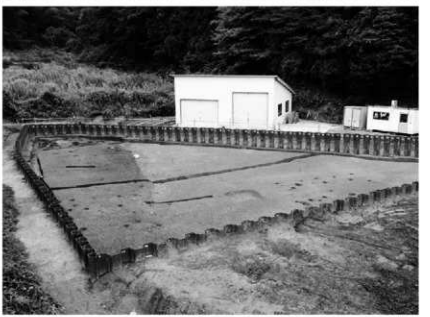
3　251 ピット（南西より）



1　11面全景（北西から）



2　杭列1・2・3（南西から）

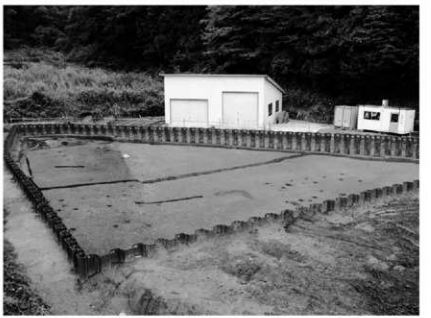


3　14面全景（北西から）

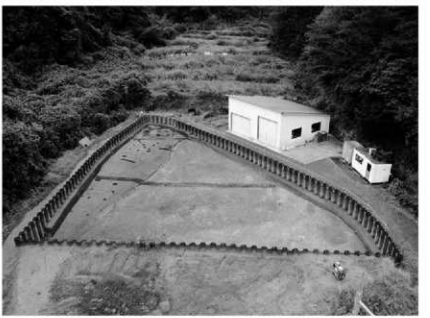
図版 11

14面（2）・15面（1）

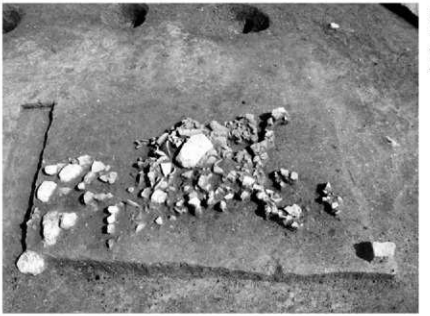
1　174・175 ピット（北西から）



2　15 面全景 1（北西から）



3　15 面全景 2（西から）



1　土器溜まり（南西から）

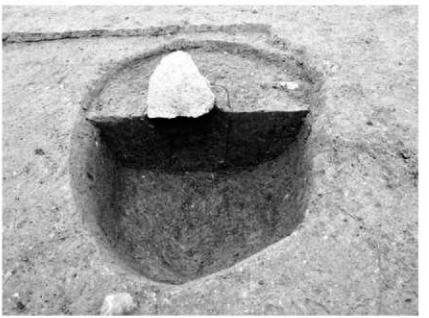
2　143 溝（北西から）

3　129 ピット（南東から）

図版 13

15面（3）

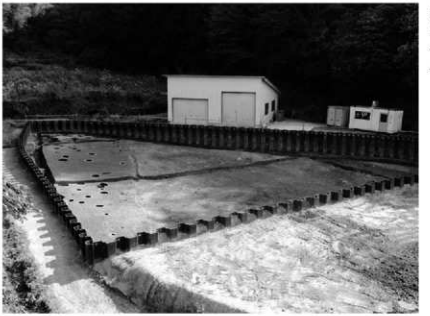
1　132 ピット（南東から）



2　136 ピット（南東から）

3　142 ピット（南東から）

16面（1）



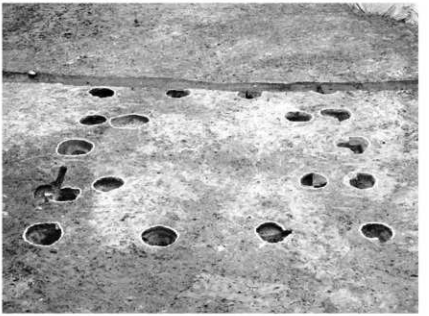
1　16 面全景（北西から）

2　破堤堆積 1（西から）

3　破堤堆積 2（北から）

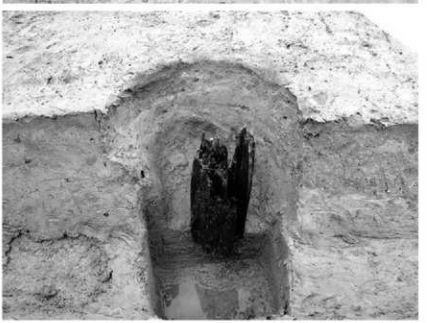
図版 15

16面（2）



1　掘立柱建物3（北西から）

2　199 柱穴 1（南東から）



3　199 柱穴2（南東から）

1　201 柱穴 1（南西から）

2　201 柱穴 2（南西から）

3　202 柱穴 1（南西から）

図版 17

16面（4）

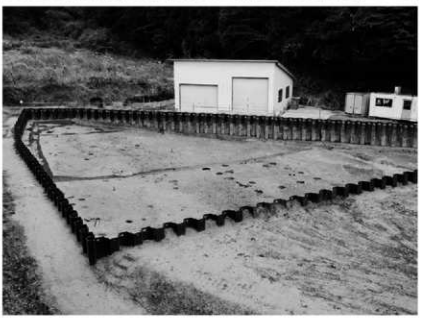
1　210 柱穴（北東から）

2　212 柱穴（北東から）

3　214 柱穴（北西から）

1　17 面完掘（西より）

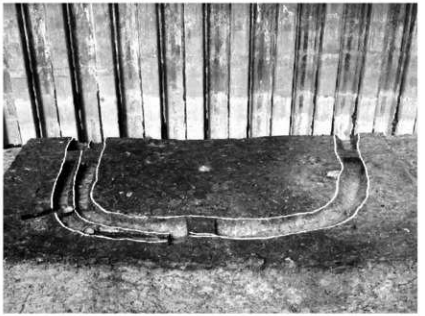
2　197 土坑（北東から）



3　18 面全景（北西から）

図版 19

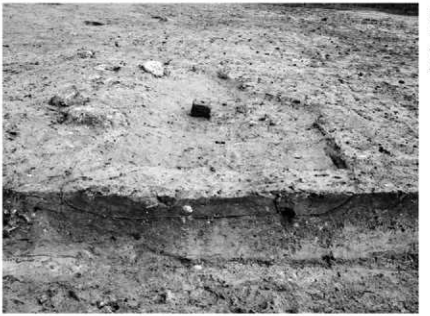
18面（2）



1　竪穴建物１（南東から）

2　226 溝遺物出土状況（東から）

3　竪穴建物２（南東から）



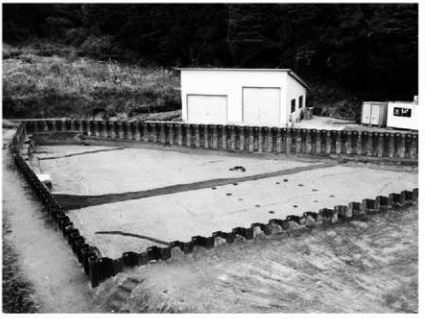
1　217 土坑　（北西から）

2　217 土坑遺物出土状況
（北西から）

3　220 ピット（南から）

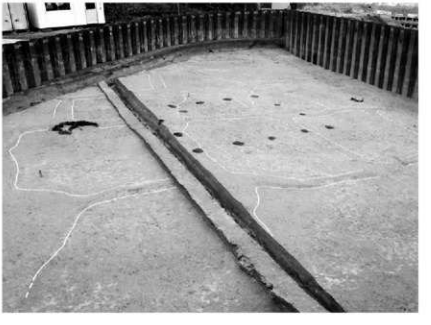
図版 21

23a 面 (1)

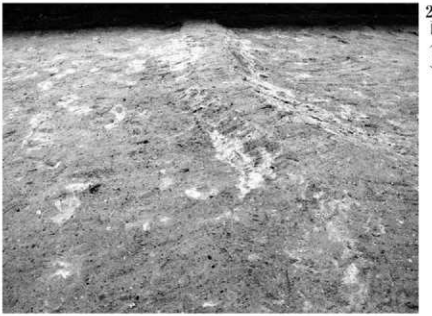


1　23a 面全景 1（北西から）

2　23a 面全景 2（北西から）



3　水田検出状況 1（北東から）



1　水田の足跡検出状況
（北西から）

2　241 溝（西から）

3　241 溝遺物出土状況 1
（西から）

図版 23

23a面（3）・23b面（1）

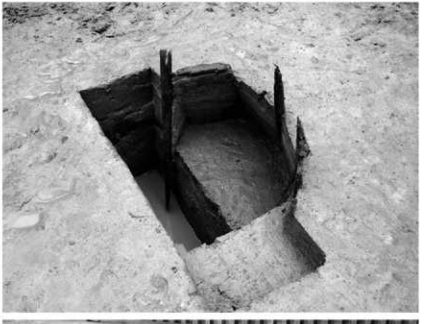
1　241 溝遺物出土状況２（西から）

2　23b 面全景（北西から）

3　242 溝（北西から）

23b 面（2）・完掘状況

1　23b 面遺物出土状況
（北東より）



2　木製構造物（西から）

3　完掘状況（西から）

37土坑出土遺物

Po6

Po11

Po12

143溝出土遺物

Po21

Po25

Po30

Po34

256流路・257溝・破堤堆積出土遺物(1)

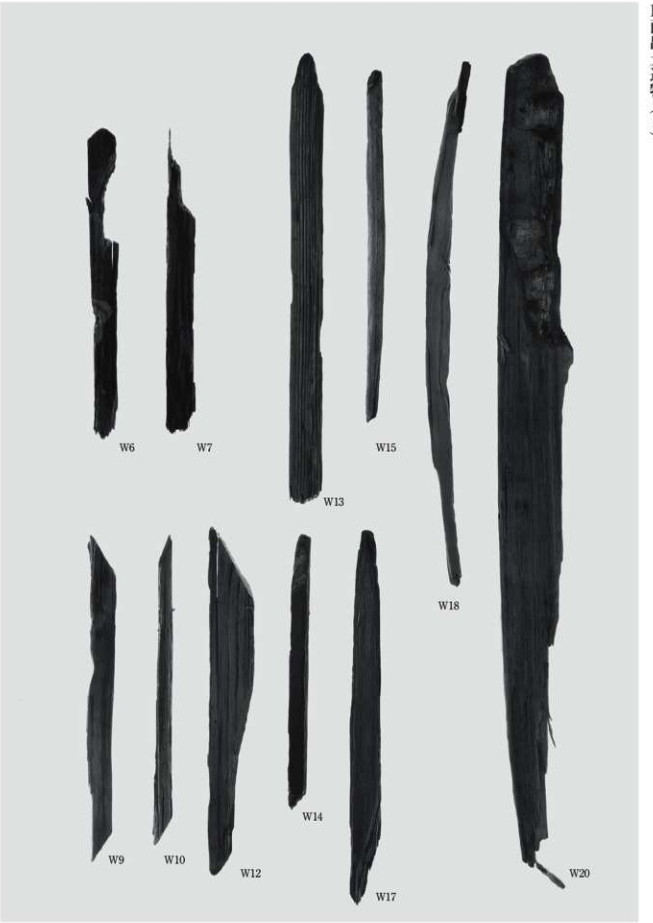
Po37

Po42

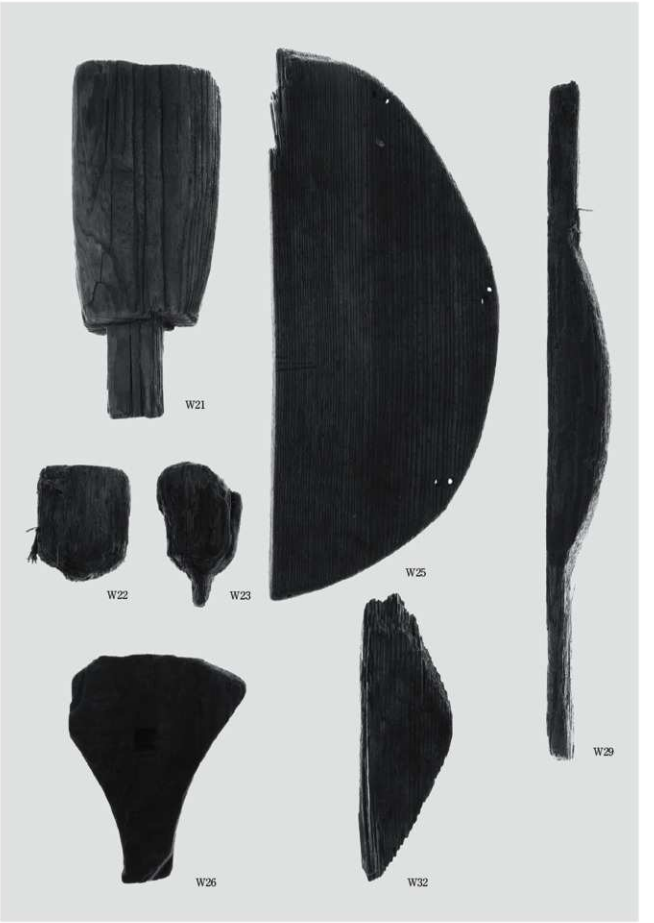
Po43

Po45

256流路・257溝・破堤堆積出土遺物(2)



256流路・257溝・破堤堆積出土遺物(3)

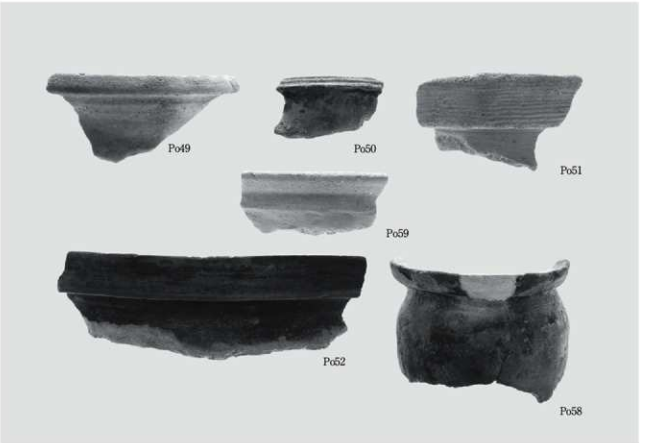


256流路・257溝・破堤堆積出土遺物(4)

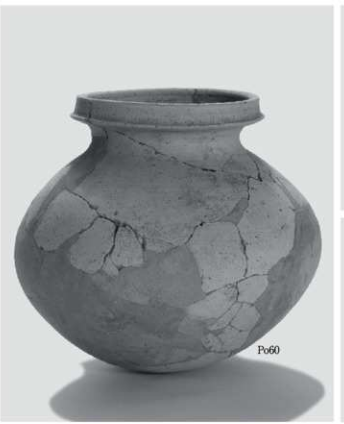
Po13	201 柱穴
Po14	212 柱穴
Po47・48	226 溝
W32・33	210 柱穴
S1	217 土坑

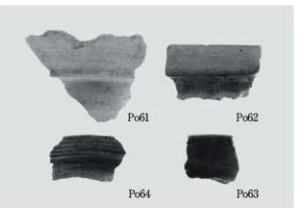
図版 31

23a面出土遺物

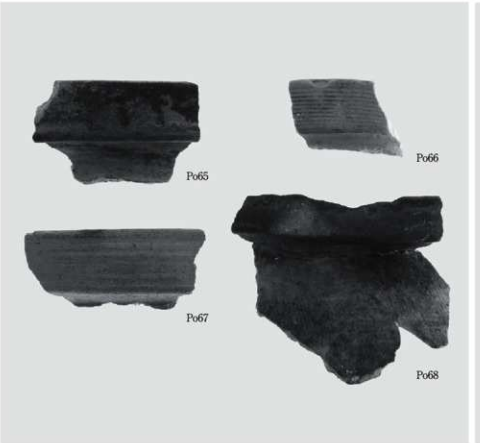


耕作土内出土遺物





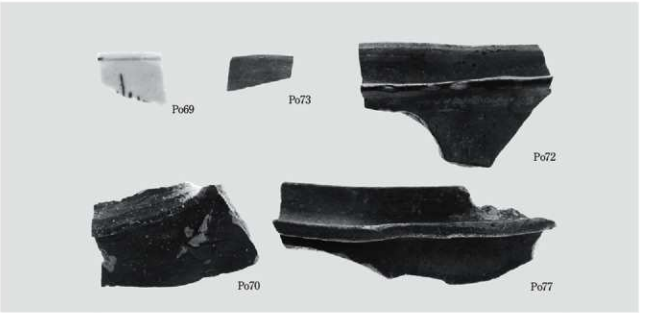
241溝出土遺物



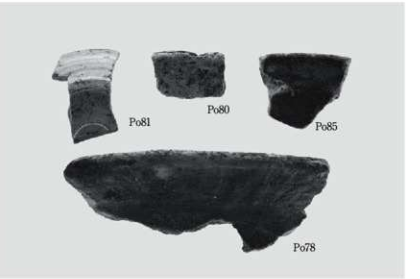
242溝出土遺物

木製構造物出土遺物

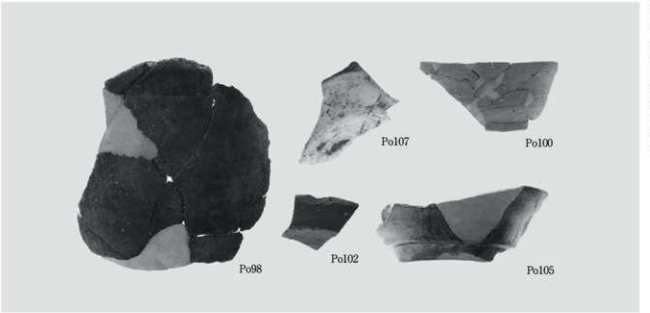
23b面出土遺物



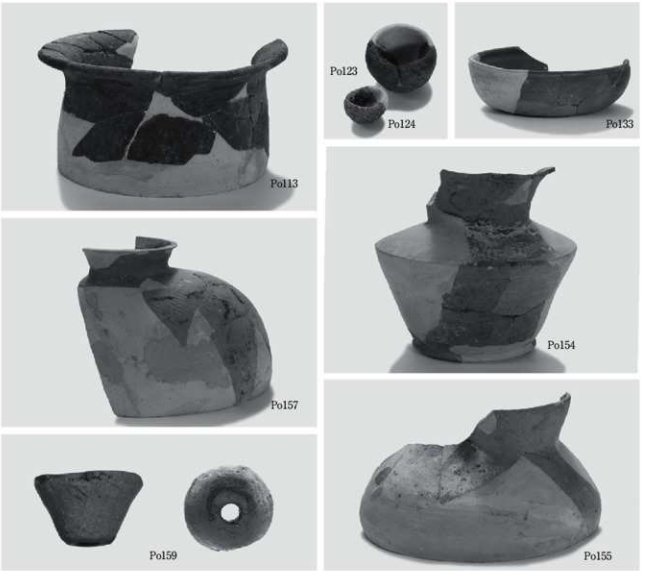
1a層、4a層、5a層、6a・7a・8a層出土遺物



9a層出土遺物



10a層、11a層、12a層、13a層出土遺物



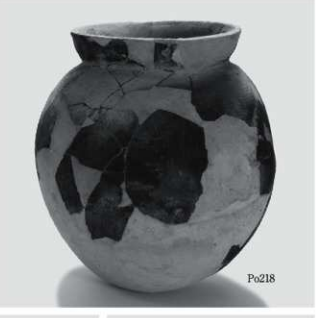
14a層出土遺物

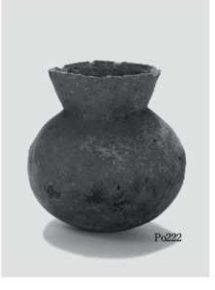
図版 35

包含層出土遺物（3）

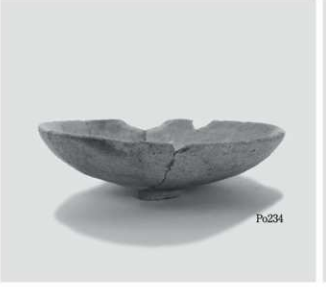
15a層出土遺物

16a層出土遺物





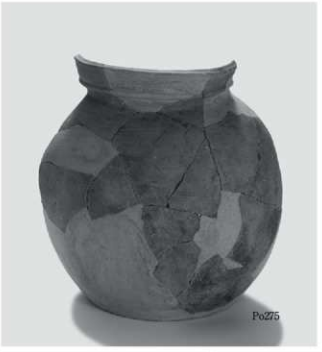
17a層出土遺物（1）

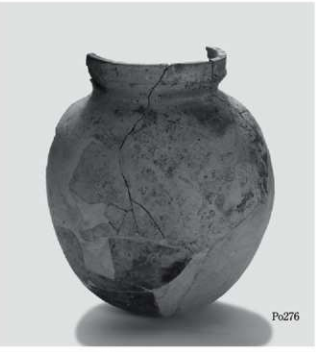


17a層出土遺物（2）

18a層出土遺物（1）

18a層出土遺物（2）





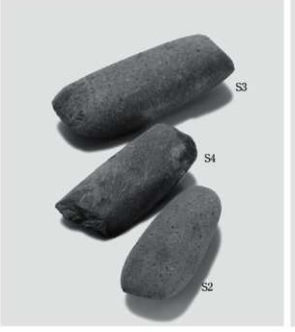
16 ～ 18層出土遺物

19a層出土遺物

図版 41

包含層出土遺物（9）・石器・木器

20b層出土遺物



石器・木器

報告書抄録

ふりがな	つねまつおおたにいせき　いち
書名	常松大谷遺跡Ⅰ
副書名	一般国道９号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	XX
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	佐伯博光、水村直人、西山昌孝、片岡啓介
編集機関	公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室
所在地	〒680－1133　鳥取県鳥取市源太12番地　電　話(0857)51－7552
発行年月日	2015(平成27)年12月14日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
つねまつおおたにいせき 常松大谷遺跡	とっとりけんとっとりし 鳥取県鳥取市 だたからう 気高町 つねまつあざおおたに 常松字大谷	31201	15-0591	35°30′4″	134°4′50″	20130404 ～ 20131129	707m²	国道９号(鳥取西道路)道路改築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物、特記事項
常松大谷遺跡	集落 生産	弥生時代	水田	弥生土器
		古墳時代	竪穴建物 掘立柱建物 土坑	土師器、須恵器、石器(管玉)
		古代	掘立柱建物 溝	土師器、須恵器、土製品、木製品(容器、祭祀具)他
		中世～近世	耕作遺構	陶磁器他

要約

常松大谷遺跡は、丘陵裾の小開析谷に位置する。遺跡が立地する小開析谷の開発は、弥生時代後期の水田造営にはじまり、古墳時代後期には、掘立柱建物、竪穴建物、土坑が構築された。古代の256流路の破堤堆積中には、６世紀後半から８世紀の遺物、特に形代・斎串等の祭祀遺物が含まれていた。この後、谷の一部を造成し、掘立柱建物１棟が構築され、続く13世紀ごろにも谷の中央に掘立柱建物１棟が建てられる。中世後半以降は棚田状の畠、あるいは水田が営まれ、耕作地として利用された。

一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書XX

鳥取県鳥取市気高町

常松大谷遺跡 Ⅰ

発　行　2015年12月14日

編　集　公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室

発行者　鳥取県教育委員会
〒680-8570　鳥取県鳥取市東町一丁目271番地
電話　（0857）26-7525

印　刷　勝美印刷株式会社